

市連のあゆみ

創立50周年記念誌

相模原市自治会連合会

市連のあゆみ

創立50周年記念誌

相模原市自治会連合会

題字
加山
俊夫



自治は笑顔と協働から

自治会大会スローガン

「つくりだそう 自治の力で 明るいまちを」



創立50周年記念
平成30年度自治会大会
(平成30年7月7日 於市民会館)



市民桜まつり (市役所前)



上溝夏まつり



泳げこいのぼり (高田橋)



橋本七夕まつり



相模の大凧まつり

自然と都市のハーモニー 躍動する さがみはら

都市機能を求め、便利とゆとりが共に栄える相模原
明るく、暖かく、人が住みよい「まち」づくり
誰もが愛し、憩い、そして集える
わがまち「さがみはら」





緑のラブレター (藤野)



相模大野 (bono)



道保川公園



相模原北公園



相模原駅

50周年を契機に更なる地域の和を大切に

相模原市自治会連合会

会長 坂本 堯 則



昭和44年に発足した相模原市自治会連合会は、平成30年度で50周年を迎えることになりました。

この50年間、各地域において自治会活動にご尽力をいただいた自治会長、役員並びに会員の皆様に対しましては、敬意を表し、深く感謝申し上げる次第です。また、本会の活動にご支援やご協力をいただいている関係諸団体の皆様に対しましても、厚くお礼申し上げます。

相模原市は平成22年4月に政令指定都市に移行し、区の個性や特徴を生かしたまちづくりを進めてきておりますが、少子高齢化や人口減少、認知症、障害者、独居高齢者、外国人の増加など、地域を取り巻く環境は多くの課題を抱えています。

これらを解決し、安全で安心した暮らしを過ごすには、行政のみに頼らず、「自分たちの城は自分たちで守る」という精神で、住民が助け合い、連携し、協力していくことが大切であると思います。

現在、相模原市は人口増加が続いているものの、自治会加入に結びついていない状況にあります。地域の安全・安心なまちづくりには、住民の皆様の活動への参加が不可欠であり、その中心を担う自治会へのより多くの皆様の加入を図るため、本会は様々な取組を進めております。

平成25年度には、「相模原市自治会連合会と相模原市との連携基本協定」や相模原市、不動産関係団体との「相模原市における自治会への加入促進に関する協定」を締結するとともに、本会のほか、関係団体と市で構成される自治会加入推進協議会において、各団体が連携し、自治会の活性化と加入促進にご理解、ご協力をいただき、継続的に取り組んでおります。

また、平成27年度には、本会のホームページをリニューアルし、スマートフォンへの対応や住所から自治会が検索できる機能、メールマガジン機能を搭載するなど、全市や地区の魅力的な情報を見やすく迅速に発信する仕組みを構築いたしました。

さらに、自治会加入の魅力を向上させ、次世代を担う若者の加入を促進するため、宿泊施設等の自治会員専用割引 (Jichi Pass) に人間ドック利用料金や弁護士相談料金の割引を加え、今まで以上に多くの会員の皆様にご利用いただいております。引き続き、魅力的な施設等の契約を増加させ、充実に取り組んでまいります。

本会のスローガンは、「自治は笑顔と協働から」です。この合言葉のもと、「相模原に住んでみたい、住んでよかった、住みつづけたい」と思われる、心豊かで安全・安心なまちづくりを目指しております。今後もこのスローガンを基本に、各地区自治会連合会及び各自治会の発展に努めてまいりたいと考えております。

50周年記念に際しましてご協賛いただいた方々、この記念誌の発行に際しご寄稿された方々、記念誌編集に携わった方々に心より感謝申し上げます。併せて今後とも本会に変わらぬご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。

市連創立50周年を祝して

相模原市長 加山 俊夫



相模原市自治会連合会が、創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、今後の発展の礎として、これまでの軌跡を記念誌として発行されますことは、誠に意義深いこととお喜び申し上げます。

貴会は、昭和44年の創立以来、防災、防犯、交通安全、環境美化や福祉の向上など、安全・安心なまちづくりに多大なるご尽力をいただくとともに、自治会活動の活性化に向けた様々な取組を積極的に推進されております。各自治会は、自主的・自立的な組織として、地域の活性化や身近な課題の解決など、地域のまちづくりの中心的な役割を担われており、半世紀の長きにわたり、歴代会長をはじめ、自治会活動に熱意をもって取り組んでこられた皆さま方に、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、貴会と本市は、平成25年8月、社会情勢や地域社会の変化に対応した新たな形の連携強化と、協働による市民主体のまちづくりのより一層の推進を目的として、「連携基本協定」を締結いたしました。

平成30年には、自治会をはじめとした地域活動団体の活性化、担い手確保等を図るため、安全・安心なまちづくりに資する活動をけん引していただいた皆さまに、地域活動ポイントを付与させていただく「さがみはらポイント」制度の運用を開始するなど、自治会活動への積極的な支援と環境整備等に取り組んでいるところでございます。

市民協働推進条例に掲げる「皆で担う地域社会」を実現し、市民主体のまちづくりを推進していくためには、貴会をはじめ、各地区自治会連合会及び各自治会の皆さま一人ひとりのお力添えやご活躍が何より重要と考えております。今後も、地域の要として、本市との協働によるまちづくりをより一層進めていただくことをご期待申し上げます。

結びに、創立50周年を契機とした相模原市自治会連合会のますますのご発展と、皆さま方のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

相模原市自治会連合会創立50周年を祝して

相模原市議会議長 沼倉 孝太

相模原市自治会連合会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。



貴連合会におかれましては、50年の長きに渡り地域住民の福祉の向上と市政の発展のために御尽力いただいております。これもひとえに歴代の会長をはじめ、自治会活動に携われた全ての皆様の並々ならぬ御努力の賜であると、深く敬意と感謝を表する次第でございます。

地域の活力は個々の市民の力だけではなく、自治会をはじめとする地域団体や行政等と協働して生み出されるものであり、貴連合会は、こうした地域団体等とのパイプ役を担いながら、自らが地域を守るという意識を持ち、昭和44年6月の発足以降、様々な地域活動を献身的に展開されてこられました。

近年、人々の価値観や生活のあり方が多様化し、地域コミュニティの希薄化が課題となるなど、地域を取り巻く環境も大きく変化してきております。こうした中、防災、防犯、交通安全、環境美化や福祉などの身近な課題を解決するためには、行政に限らず、多くの組織や団体などは皆様方との連携が必要不可欠であり、その果たす役割は今後ますます大きくなっていくものと考えております。

貴連合会におかれましては、これまで培われた豊富な見識と経験を生かされ、「自治は笑顔と協働から」という合言葉のもと、次代に誇れる地域を創造し、誰もが心豊かで明るく住みやすいまちにするため、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、本市が首都圏南西部の広域交流拠点都市として持続可能な開発目標の取組を加速させ、安全・安心な明るいまちづくりを推進するため、より一層努力してまいります所存でございます。

結びになりますが、相模原市自治会連合会のますますの御発展と皆様方の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

相模原市自治会連合会創立50周年を祝して

相模原市社会福祉協議会

会長 戸塚 英明



相模原市自治会連合会が、創立50周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを、心よりお祝いを申し上げます。

また、この間、貴会の発展に御尽力されました歴代役員、そして自治会関係者の皆様に対し深く敬意を表するものであります。

さて、自治会は、防犯をはじめとして交通安全、環境美化、また、防災など幅広い地域課題の解決に取り組まれています。この10年間で高齢化の進行などを背景にして、孤立する世帯や孤独感を訴える高齢者など、様々な課題を抱える方たちが増えてきており、そこには、公的な福祉制度だけでは解決できない課題も多く存在しております。

私ども社会福祉協議会も、このような方たちに対して、市民の皆様同士で、困りごとを受け止め、解決できる地域づくりを重点目標に取り組んでまいりましたが、自治会による住民の方々の親睦と交流を図る取組は、地域における人と人とのつながりを育むうえで、大変大きな役割を果たされているものと存じます。

具体的には、高齢者の「ふれあい・いきいきサロン」や親子の「子育てサロン」などの交流と仲間づくりの取組、あるいは、「100歳体操」などの介護予防の取組といった地域の支えあいの活動との連携は、困りごとを受け止め、解決できる地域づくりに欠かすことができない取組となっております。

どうか、このような地域のきめ細かな福祉活動の推進につきましても、自治会の皆様とは、より一層の連携を深めてまいりたいと存じますので、今後とも、変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びといたしまして、貴会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

目次

あいさつ	4	
50周年を契機に更なる地域の和を大切に	相模原市自治会連合会 会長 坂本 堯 則	4
祝 辞	5	
市連創立50周年を祝して	相模原市長 加山 俊 夫	5
相模原市自治会連合会創立50周年を祝して	相模原市議会議長 沼倉 孝 太	6
相模原市自治会連合会創立50周年を祝して	相模原市社会福祉協議会 会長 戸塚 英 明	7
1. 市連のあゆみ	9	
活動の概要	10	
年 表	12	
2. 各地区のあゆみ	21	
【藤野地区】	人と芸術と自然が共生するまち	22
【相模湖地区】	歴史情緒あふれる森と湖のまち相模湖	25
【津久井地区】	防災意識の高揚と地域防災力強化を推進	28
【城山地区】	住んで良かった、ずっと住み続けたいまち城山を目指して	31
【橋本地区】	活力とにぎわいあふれる交流拠点都市～はしもと～	34
【大沢地区】	伝統・文化の息づく自然と調和したまち『大沢』	37
【小山地区】	相模原駅北口が大きく変貌する小山	40
【清新地区】	誰もが心豊かに安心して暮らせるまちを目指して	43
【中央地区】	「地域を守り 地域を創る」中央地区	46
【大野北地区】	魅力あるまちづくりをめざして	49
【横山地区】	10年未来の“今”づくりを目指して	52
【星が丘地区】	やさしさいっぱい星が丘	55
【光が丘地区】	太陽(陽光台)の光(光が丘)・青い空(青葉)・緑(緑が丘)の並木(並木)のふるさと	58
【上溝地区】	小田急多摩線の延伸により発展を期するまち上溝	61
【田名地区】	田名のあすを拓く	64
【大野中地区】	活気あるまち、自然と調和のとれたまち	67
【麻溝地区】	歴史と自然と地域の和未来につなぐ“いいまち あさみぞ”	70
【新磯地区】	豊かな自然環境が満ち溢れ、伝統行事・文化等を継承するまち「あらいそ」	73
【相武台地区】	地域の拠点「そあら」とともに	76
【相模台地区】	自分たちのまちは自分たちで守る！活かす！相模台	79
【大野南地区】	若い世代が選ぶ魅力あるコンパクトシティ 大野南	82
【東林地区】	心ふれあう住みよいまちづくり	85
3. 資料編	89	
市連加入自治会及び世帯数の推移	90	
市連歴代理事名簿	92	
市連地域活動功労者(個人)	94	
市連地域活動功労者(団体)	99	
自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)受賞者	100	
相模原市表彰受賞者(市政功労 個人)	105	
叙勲「旭日単光章」受章者	106	
自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰	106	
協賛のお礼	107	
編集後記	110	

1

市連のあゆみ

平成21年～平成30年
(2009～2018)

活動の概要	10
年 表	12



活動の概要

相模原市自治会連合会（以下「市連」）は昭和44年の発足以来、「自治は笑顔と協働から」の精神のもとに、自治会相互の積極的な連携と自治会運営の発展を図るため、コミュニティ活動を積極的に推進し、明るく住みよいまちづくりを進めることを目的に、各種事業に取り組んでいます。

今回の記念誌は40周年記念誌との継続性を考慮しながら、平成21年から30年までの主な活動について掲載させていただきました。

主な活動

政令指定都市移行に伴う「まちづくり会議」の設置

相模原市は、平成22年4月に政令指定都市に移行し、新たな市民協働のまちづくりを進めるため、自治会が中心となり、地域で活動している他団体と力を合わせ、地域の課題解決や活性化に向けた活動の取組を話し合う場として、市内22地区にまちづくり会議が設置されました。

自治会大会の開催

昭和44年から「自治会長大会」として開催されていましたが、平成3年から「自治会大会」と名称変更し、市民会館大ホールにおいて、地域活動功労者の表彰や、市内の団体や高校によるアクションなど、自治会員の交流の場として開催しています。

市民桜（若葉）まつりへの参加

昭和49年から開催されている、市民桜（若葉）まつりは平成30年に第45回を迎えましたが、市連は平成3年の第18回から毎年参加し、自治会への加入促進の一環として理事による、自治会報・加入促進グッズの配布、各地区の活動写真の展示及び自治会加入促進パレードを行っています。



市連ホームページのリニューアル

自治会加入促進活動や若い世代への意識啓発と加入促進の観点から、相模原市自治会加入推進協議会で検討した内容をもとに、平成28年2月にホームページのリニューアルを実施。スマートフォンに対応した画面や住所から自治会が検索できる機能、メールマガジン機能など、より充実した内容になりました。

相模原市自治会連合会のホームページアドレス
<http://www.sagamihara-jichiren.jp/>



政策要望書の提出

地域には、様々な課題があり、これらの課題は、住民相互の理解と信頼のうえにたった連携と協力により解決することが可能であると考えますが、解決する過程の中では、市の支援と協働による取組が重要であることから、平成23年度から政策要望書を提出しています。



市との連携基本協定の締結

これまで積み重ねてきた協力関係を礎としつつも、それぞれが果たすべき役割に基づき、社会情勢及び地域社会の変化に対応した新たな連携の形を探りながら、更なる連携強化を図るため、平成25年度に協定を締結し、市との協働による市民主体のまちづくりをより一層推進しています。



自治会加入推進協議会の設置

市との協働による「自治会加入促進重点プロジェクト」の取組の一環として、自治会への加入を促進するための取組の様々な企画立案を行う“核”となる組織として「相模原市自治会加入推進協議会」を平成25年度に発足しました。これにより、自治会加入促進月間の設定など自治会活動のPRや、自治会加入の呼びかけを様々な場面で実施しています。

不動産関係団体と市との自治会加入促進協定の締結

「相模原市自治会加入推進協議会」に参画している市及び不動産関係3団体と、自治会への加入促進に係るより実効性の高い方策を内容とした協定を平成25年度に締結しました。



自治会員専用割引 (JichiPass) の内容充実

平成元年に取組を開始した自治会員専用割引に弁護士相談や人間ドック、ホームタウンチームなどの割引内容を充実させ、自治会加入のメリットの充実を図っています。



自治会加入世帯証 (シール) の作成

防災・防犯などの安全・安心なまちづくりや地域の結束を高めるために、自治会加入世帯証 (シール) を作成し、ドアや門、郵便受けなどに貼ることができるよう、配布しています。これにより、自治会の加入・未加入世帯を視覚的に把握できるため、自治会加入促進活動の一助となっています。



年表

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
平成20年度 1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）贈呈式 ● 自治会報さがみはら第54号発行 ● 創立40周年記念誌発行 ● 加入促進活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティバスの本格運行開始 ● 新磯出張所・公民館リニューアルオープン ● 相模湖・藤野駅前に観光案内所オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で日本が2連覇を達成
平成21年度 4月 6月 7月 8月 10月 11月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第36回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示） ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催（緑区・中央区） ● 新任自治会長研修会の開催（緑区・南区） ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション 藤野歌舞伎保存会、RUUミニライブ ● 自治会報さがみはら第55号発行 ● 埼玉県所沢市自治会連合会の視察受入れ ● 市政を話し合う会 ● 埼玉県八潮市町会自治会連合会の視察受入れ ● 理事視察研修会 新潟県長岡市柏崎原子力発電所 ● 市自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）贈呈式 ● 自治会報さがみはら第56号発行 ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）オープン ● 陽光台こどもセンターオープン ● 藤野中央公民館リニューアルオープン ● 新型インフルエンザ対策本部を設置 ● 東林ふれあいセンターオープン ● 民間企業と地域活性化包括連携協定を締結 ● さがみ風っ子教師塾を開塾 ● 総合体育館リニューアルオープン ● 政令指定都市移行が閣議決定 ● 南清掃工場が竣工 ● 市民公募のシティセールスコピー「潤水都市 さがみはら」が決定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 北朝鮮が「弾道ミサイル」を発射 ● 歌手のマイケル・ジャクソンさんが急死 ● イタリア・ラクイラでサミット開催 ● 全国初の裁判員裁判が始まる ● オバマ大統領が初来日 ● 行政刷新会議の事業仕分けがスタート ● カナダでバンクーバー冬季オリンピックが開幕 ● モスクワの地下鉄で相次いで爆発テロ
平成22年度 4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第37回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示） ● 愛知県豊橋市自治連合会の視察受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月1日 全国で19番目の政令指定都市に移行、緑区・中央区・南区の3区を設置 ● 新・相模原市総合計画、各部門別計画がスタート ● 祝 政令指定都市相模原フェスティバル2010 風と大地の饗宴を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● アイスランドで火山が噴火 世界の空が混乱 ● 中国で上海万博が開幕

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 ● 理事視察研修会の実施 千葉県習志野市 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小惑星探査機「はやぶさ」のカプセルが、JAXA相模原キャンパスに到着 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南アフリカでサッカーワールドカップが開幕
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション ● 東林間阿波踊り振興会、相模女子大学チアリーディング、RUUミニライブ 		<ul style="list-style-type: none"> ● 第22回参議院選挙 与党・民主党が過半数割れ
8月		<ul style="list-style-type: none"> ● 事業仕分けを実施 ● 第92回全国高等学校野球選手権大会で東海大学付属相模高校が準優勝、市役所ロビーでパブリックビューイングを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広島・原爆の日 記念式典にアメリカの代表が初めて出席 ● チリ鉱山事故 生き埋めの33人の生存が確認される
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 福島県福島市自治振興協議会の視察受入れ ● 自治会長と市長が語る会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「潤水都市 さがみはら」のロゴデザインが決定 ● 市長とワシンスキー在日米陸軍司令官(当時)が相模総合補給廠の共同使用に関する覚書を交わす 	<ul style="list-style-type: none"> ● ノーベル化学賞に北海道大の鈴木章名誉教授と米・パデュー大の根岸英一特別教授
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第57号発行 ● 自治会長と市長が語る会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央区の一部と南区の市立中学校15校で給食を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● アジア太平洋経済協力会議(APEC)が横浜で開幕
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市政を話し合う会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 潤水都市さがみはらフェスタを開催 	
1月		<ul style="list-style-type: none"> ● 青山学院大学が第87回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で総合9位に入り、2年連続でシード権を獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ● 菅再改造内閣が発足
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)贈呈式 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ団体のSC相模原、ノジマ相模原ライズ、ブレッサ相模原、三菱重工相模原ダイナボアーズと「自殺対策事業における協力に関する協定」を締結 	<ul style="list-style-type: none"> ● 霧島山「新燃岳」が約52年ぶりとなる爆発的噴火
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第58号発行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災防災災害対策本部会議を開催 ● 東海大学付属相模高校春の甲子園で優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ● マグニチュード9.0、国内観測史上最大の巨大地震が発生(東日本大震災)
平成23年度			
4月		<ul style="list-style-type: none"> ● 統一地方選挙。本市では政令指定都市移行後初となる4つの選挙(県知事・県議会議員・市長・市議会議員)を同時に行う ● 加山市長の再選、初登庁 ● 緑・中央・南区のシンボルマーク・カラーを発表 	<ul style="list-style-type: none"> ● イギリスで、ウィリアム王子とキャサリン妃が挙式
5月		<ul style="list-style-type: none"> ● JR東海がリニア中央新幹線の中間駅を本市内に計画していることが明らかになる ● なでしこジャパンが世界制覇 本市在住の岩清水梓選手が大活躍 	<ul style="list-style-type: none"> ● 菅首相が「浜岡原発」の全面停止を要請 ● 世界遺産に「小笠原諸島」と「平泉」が登録される ● サッカー女子W杯で、「なでしこジャパン」が初の世界一に
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 岡山県岡山市連合町内会の視察受入れ ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション ● 講演会 齋藤 隆 氏 ● ミニライブ RUUとスタジオチアリーダンスチーム 		
8月		<ul style="list-style-type: none"> ● 市立博物館で来館者数が200万人を突破(開館から15年9か月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野田佳彦氏 第95代首相に
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第59号発行 ● 横須賀市連合町内会の視察受入れ ● 静岡県浜松市自治会連合会の視察受入れ ● 政策要望書の提出 ● 理事視察研修会 埼玉県さいた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回市ブランド戦略会議を開催 ● 「はやぶさの故郷 潤水都市さがみはらフェスタ2011」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● オウム裁判が終結

年度	市 連 関 係	市 関 係	日本・世界
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会連合会 ● 市自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）贈呈式 ● 市政を話し合う会 	<ul style="list-style-type: none"> ● リニア中央新幹線の県内駅を橋本駅周辺に誘致することで県と合意 ● 緑区イメージキャラクター「ミウル」をお披露目 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第60号発行 ● 東日本大震災チャリティーポウリング大会 ● 減災セミナー ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 		
平成24年度			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第39回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市消防団の組織を再編。一団六方面隊に 	
5月		<ul style="list-style-type: none"> ● 市立小学校で金環日食の観察会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京スカイツリー開業
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 愛知県瀬戸市自治会連合会の視察受入れ ● 新任自治会長研修会の開催 ● 理事視察研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 銀河連邦が、「はやぶさ」が帰還した6月13日を「はやぶさの日」と制定 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション講演会 ● 県温泉地学研究所 伊東 博氏 市立相陽中学校吹奏楽部 		<ul style="list-style-type: none"> ● 第30回オリンピック、ロンドンで開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 政策要望書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市ホームタウンチームを認定 ● 緑・中央・南区の各区ビジョンを策定 ● 「こけ丸」を市シティセールスサポーターに委嘱 ● なでしこジャパン岩清水 梓選手のロンドンオリンピック銀メダル報告会を開催。市スポーツ特別顕賞を贈呈 	<ul style="list-style-type: none"> ● 韓国李大統領竹島に上陸 ● 上野順恵（ロンドンオリンピック女子柔道銅メダル）に旭川市民栄誉賞
9月			<ul style="list-style-type: none"> ● 動物愛護センター「あにまある」、オープン
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 山梨県南アルプス市区長会連合会の視察受入れ 		<ul style="list-style-type: none"> ● 山中慎弥教授ノーベル医学生理学賞受賞
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第61号発行 ● 静岡県浜松市浜北区自治会連合会の視察受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「銀河連邦友好交流25周年記念はやぶさの故郷潤水都市さがみはらフェスタ2012」を開催 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市政を話し合う会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市消防団女性部の愛称が「あじさい隊」に決定、消防出初式で披露 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元横綱大鵬死去 ● 韓国、朴槿恵氏大統領に就任
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）贈呈式 ● 埼玉県越谷市自治会連合会の視察受入れ 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第62号発行 ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模大野駅西側地区市街地再開発ビル「bono相模大野」・ユニコムプラザさがみはら（市民・大学交流センター）・さがみはらアンテナショップ「sagamix」・相模大野パスポートセンターがオープン ● 緑区合同庁舎がオープン ● さがみ縦貫道路（圏央道）相模原愛川インターチェンジが開設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安倍首相、TPP参加を表明
平成25年度			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第40回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布、活 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「はやぶさの故郷さがみはら」を市観光ガイドブックでアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボストンマラソン、爆発テロ

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 動紹介写真展示) ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ10周年記念「相模原はやぶさウィーク」を開催。タレントの中川翔子さんを銀河連邦大統領補佐官に任命、銀河連邦ヒーロー「サガミリオン」デビュー ● 市立博物館で小惑星「イトカワ」の微粒子を光学顕微鏡で世界初公開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 富士山が世界遺産
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市立博物館で小惑星「イトカワ」の微粒子を光学顕微鏡で世界初公開 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会連合会と市との連携基本協定締結 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会連合会と市が「連携基本協定」を締結 	<ul style="list-style-type: none"> ● イチロー、日米通算4,000安打達成 ● 2020年東京五輪決定
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事視察研修会 静岡県静岡市 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模総合補給廠で市総合防災訓練を実施 ● JR東海から「環境影響評価準備書」が送付され、リニア中央新幹線の神奈川県駅の具体的な位置が「橋本駅付近」と示される 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘイトスピーチに差し止めと賠償判決
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会加入推進協議会発足、第1回協議会開催 ● 愛知県豊川市連区長会の視察受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小田急相模原駅北口B地区市街地再開発ビル「ペアナードオダサガ」がオープン ● 相模総合補給廠北側外周部分の一部返還が日米合同委員会で合意 	<ul style="list-style-type: none"> ● キャロライン・ケネディ駐日米大使、着任
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第63号発行 ● さがみはら市民活動フェスタ2013で自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布） ● 相模原駅南口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布） ● 第2回市自治会加入推進協議会 ● 相模大野駅北口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布） ● 自治会加入促進に関する協定締結 	<ul style="list-style-type: none"> ● SC相模原のJ3への昇格が決定 ● 不動産関係3団体・市自治会連合会と市が「相模原市における自治会への加入促進に関する協定」を締結 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 橋本駅北口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布） 		<ul style="list-style-type: none"> ● 和食がユネスコ無形文化遺産に ● 特定秘密保護法、成立
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）贈呈式 ● 第3回市自治会加入推進協議会 ● ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布） 		<ul style="list-style-type: none"> ● ソチ冬季五輪開幕
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 政策要望書の提出 ● 自治会報さがみはら第64号発行 ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● ノジマステラ神奈川相模原を市内4チーム目のホームタウンチームに認定 ● 小山公民館がリニューアルオープン ● 相模川ふれあい科学館がリニューアルオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高梨沙羅、ジャンプW杯個人総合2連覇
平成26年度 4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第41回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施（加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市制施行60周年記念 高校生書道パフォーマンスを実施 ● 市マスコットキャラクター「さがみん」が誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費税5%から8%に

年度	市連関係	市関係	日本・世界
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 圏央道の市内区間が全線開通 	<ul style="list-style-type: none"> ● 富岡製糸場と絹産業遺産群、世界遺産に
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民協働推進基本計画に関する勉強会 ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション <ul style="list-style-type: none"> 県立弥栄高等学校吹奏楽部 ノジマ相模原ライズチアリーダースSuns 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 埼玉県上尾市区長会連合会の視察受入れ 		<ul style="list-style-type: none"> ● 広島で豪雨、住宅地に土石流
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事視察研修会 静岡県磐田市自治会連合会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 九都県市合同防災訓練を実施 ● 相模総合補給廠の一部返還(約17[㍉]) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 御嶽山噴火
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回市自治会加入推進協議会 ● 東京都青梅市自治会連合会役員の視察受入れ ● 政策要望書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市立公文書館がオープン ● リニア中央新幹線工事実施計画の認可 ● 全国シティプロモーションサミットを開催 ● 市制施行60周年を迎える 	<ul style="list-style-type: none"> ● ノーベル物理学賞に日本の3人
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第65号発行 ● さがみはら市民活動フェスタ2014で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● 相模大野駅北口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模原駅南口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● 橋本駅北口ペDESTリアンデッキ上で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) 		<ul style="list-style-type: none"> ● 特定秘密保護法が施行 ● 衆院選で自公大勝
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)贈呈式 	<ul style="list-style-type: none"> ● 青山学院大学が東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で初の総合優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ● スイス・フランが暴落
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) 		<ul style="list-style-type: none"> ● H-IIAロケット27号機打ち上げ成功
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回市自治会加入推進協議会 ● 自治会報さがみはら第66号発行 ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 圏央道相模原インターチェンジ、津久井広域道路オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 錦織圭選手、日本人・アジア人歴代最高位となる世界ランク4位
平成27年度			
4月		<ul style="list-style-type: none"> ● 相模原ギオンスタジアムの周りにクロスカントリー仕様のジョギングコースがオープン ● 子どもの医療費助成を小学校6年生まで拡大 ● 地域型保育事業を開設(多様な保育施設の設置・認可) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今上天皇が歴代天皇として初めてパラオを訪問
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第42回市民若葉まつりで、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示) 		<ul style="list-style-type: none"> ● 鹿児島県口永良部島の火山噴火
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 		<ul style="list-style-type: none"> ● 機能性表示食品の販売開始
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション <ul style="list-style-type: none"> 東海大学付属相模高等学校吹奏楽部 	<ul style="list-style-type: none"> ● FIFA女子ワールドカップ カナダ2015 なでしこジャパン準優勝(現地時間5日) ● 全米女子オープンゴルフ選手権に鶴野森中学校3年の山口すず 	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国とキューバが国交回復

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
8月		夏選手が出場 ● 東海大学付属相模高等学校が45年ぶり 2度目の甲子園制覇	● 神奈川県相模原の米軍基地で爆発事故
9月	● 政策要望書の提出 ● S-1グランプリ2015で、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● 理事視察研修会 宮城県仙台市連合町内会長会		● シリア難民問題が拡大 ● マイナンバー改正法が成立 ● 阿蘇山噴火
10月	● 第3回ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● 第1回市自治会加入推進協議会 ● 千葉県柏市ふるさと協議会連合会の視察受入れ ● 青森県三沢市連合町内会の視察受入れ	● 青山学院大学が出雲全日本大学選抜駅伝競走で優勝	● マイナンバーの通知カードの発送開始 ● ノーベル医学・生理学賞に大村智さんが選出 ● ノーベル物理学賞に梶田隆章さんが選出 ● 第3次安倍内閣が発足
11月	● 自治会報さがみはら第67号発行 ● さがみはら市民活動フェスタ2015で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● JAXA相模原キャンパスの地方移転の反対について市へ要望書提出 ● 埼玉県さいたま市南区自治会連合会の視察受入れ		● 日中韓首脳会談が開催 ● ASEAN国防相会議が開幕 ● 分断以降初となる中台首脳会談 ● H-IIAロケット29号機の打ち上げ成功
12月	● JAXA相模原キャンパスの相模原市での事業継続に関する要望書を文部科学省へ提出 ● JAXA相模原キャンパスの相模原市での事業継続に関する要望書を内閣府へ提出	● 相模総合補給廠の一部(約35%)の在日米陸軍と市の共同使用が開始	● JAXA、惑星探査機「あかつき」の金星軌道投入に成功
1月	● 国民生活センター相模原事務所の地方移転の反対について要望書を市へ提出	● 妊婦健康診査費助成を拡充 ● 青山学院大学が東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)で連覇	● 世界同時株安
2月	● 市自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)贈呈式 ● 市自治会連合会ホームページリニューアル	● マイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスを開始	● WHOがジカ熱の流行について緊急事態を宣言
3月	● 自治会報さがみはら第68号発行 ● 自治会加入促進キャンペーンの実施		● 世界卓球で男女が銀メダル獲得
平成28年度 4月	● 第43回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示)	● 銀河連邦にカクダ共和国(宮城県角田市)が仲間入り ● 青根小学校で火災が発生 ● 友好都市提携25周年を記念し、カナダ・トロント市長が来訪 ● 国の交通政策審議会答申で、小田急多摩線延伸が意義のあるプロジェクトとして位置付け ● 市給食開始60周年を記念した「どすこい給食」を淵野辺小学校で実施 ● 選挙に参加できる年齢要件が満18歳以上へ引き下げられた、初めての選挙(第24回参議院議員通常選挙)を実施 ● 障害者支援施設の県立津久井やまゆり園で事件発生	● 電力の完全自由化
6月	● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催		● 世界一の鉄道トンネルが開通 ● モハメド・アリ死去
7月	● 自治会大会 ・ 地域活動功労者表彰 ・ アトラクション 相模原青陵高等学校 チアダンス部 世界事情 漫才 ● 愛知県豊田市区長会総務委員会の視察受入れ		● 第24回参議院議員選挙 ● 天皇陛下が“生前退位”を示す ● 国立西洋美術館が世界遺産登録決定

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
8月		●「相模原市広域交流拠点整備計画」を策定	●「第3次安倍再改造内閣」発足
9月	●S-1グランプリ2016で、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ●理事視察研修会 佐久市区長会・佐久市 ●第1回市自治会加入推進協議会	●相武台まちづくりセンター・公民館がリニューアルオープン	●第31回リオデジャネイロオリンピック開催 ●「リオデジャネイロパラリンピック」開催
10月	●政策要望書の提出 ●第4回ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ●東京都青梅市自治会連合会の視察受入れ	●一般ごみの収集が週3回から週2回に ●ホームタウンチーム「ノジマステラ神奈川相模原」がなでしこリーグ2部優勝、1部への昇格が決定	●大隅良典氏「ノーベル生理学・物理学賞」 ●阿蘇山の爆発的な噴火
11月	●自治会報さがみはら第69号発行 ●静岡市駿河区自治会連合会の視察受入れ ●さがみはら市民活動フェスタ2016で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ●埼玉県吉川市自治連合会の視察受入れ		●米の大統領選挙投票開票 ●福岡県で大規模陥没事故
1月	●市自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)贈呈式	●東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)で青山学院大学が3連覇 ●津久井産材で相模湖駅をリニューアル	●米新大統領が就任 ●「国立新美術館」開館10周年
3月	●自治会報さがみはら第70号発行 ●自治会加入促進キャンペーンの実施		●初の“色彩”商標登録 ●サルマン国王来日
平成29年度			
4月	●第44回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示)	●横山公園人工芝グラウンドの供用開始 ●市の組織改編により「こども・若者未来局」新設、各区に子育て支援センターを設置 ●ブラジルオリンピック委員会などと2020年東京オリンピック競技大会事前キャンプに関する覚書を締結	●ガスの小売り自由化 ●浅田真央引退
6月	●定期総会 ●新任自治会長研修会の開催 ●八戸市連合町内会連絡協議会役員の視察受入れ		●アメリカがパリ協定からの離脱発表 ●「天皇退位に関する特例法」が成立
7月	●自治会大会 ・祝賀演奏 県立弥栄高等学校吹奏楽部 ・地域活動功労者表彰	●津久井やまゆり園事件追悼式を実施	●北朝鮮が大陸間弾道ミサイルを発射
8月		●銀河連邦建国30周年記念「銀河連邦子どもワールドサミット」を開催	●「第3次安倍第3次改造内閣」発足
9月	●理事視察研修会 静岡県浜松市		●メキシコ地震(チアパス)
10月	●第1回市自治会加入推進協議会 ●第5回ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ●宇都宮市自治会連合会の視察受入れ		
11月	●政策要望書の提出 ●自治会報さがみはら第71号発行 ●さいたま市大宮区自治会連合会の視察受入れ ●さがみはら市民活動フェスタ2017で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・	●さがみはらスイーツフェスティバル2017「推しミヤゲ総選挙」の入選商品が決定 ●共生社会推進事業「共にささえあい生きる社会」ラッピングバス運行開始	●米トランプ大統領来日

年度	市 連 関 係	市 関 係	日 本 ・ 世 界
1月	<ul style="list-style-type: none"> グッズ配布) ● 第2回市自治会加入推進協議会 ● 市自治会活動功労者感謝状(市長感謝状) 贈呈式 	<ul style="list-style-type: none"> ● 青山学院大学が東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)で4連覇を達成 ● 2020年東京オリンピック競技大会でカナダボートチームが、相模湖で事前キャンプを実施することを決定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 星野仙一さん死去 ● 「全日本卓球」で張本優勝 ● 草津白根山が噴火
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第72号発行 	<ul style="list-style-type: none"> ● JAXA相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟がオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将棋の藤井四段が五段昇格 ● 「平昌オリンピック」開幕
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会加入促進キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模総合補給廠一部返還地に東西道路が開通 ● 緑区役所青根出張所・青根公民館、津久井消防署青根分署の複合施設が完成 	
平成30年度			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第45回市民桜まつりで、自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布、活動紹介写真展示) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはらの来館者数が300万人を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 張本選手が世界ランク1位を撃破(卓球)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期総会 ● 新任自治会長研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「はやぶさ2」が小惑星リュウグウに到着 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天皇皇后両陛下、全国植樹祭出席のため被災地福島県を訪問 ● 2020年東京オリンピック・パラリンピック公式マスコットキャラクターの名前が決定
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会大会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 祝賀演奏 相模原市民吹奏楽団 ・ 地域活動功労者表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自転車損害賠償保険などへの加入が義務化 ● ブラジル代表水泳チームが、さがみはらグリーンプールでテストキャンプを実施 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回市自治会加入推進協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年東京オリンピック競技大会自転車ロードレース競技のコースの一部が本市内に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風20号が徳島県南部に上陸
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事視察研修会 山梨県甲府市 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内小学校給食でブラジル・カナダ料理を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関西国際空港 冠水・連絡橋破損
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第6回ユニコムまちづくりフェスタで自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● さいたま市西区自治会連合会視察受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新生児聴覚検査の助成開始 ● 子どもの医療費助成の拡大 ● 潤水都市さがみはらフェスタにて市出身のアーティスト・キンモクセイが10年ぶりの復活ライブを実施。同フェスタ内では「共にささえあい生きる社会 さがみパラフェスタ」を初開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第4次安倍改造内閣 発足 ● 東京 築地市場が豊洲移転に伴い閉場、83年の歴史に幕
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会報さがみはら第73号発行 ● さがみはら市民活動フェスタ2018で自治会加入促進活動を実施(加入促進パンフレット・グッズ配布) ● 政策要望書の提出 		<ul style="list-style-type: none"> ● 日産自動車の代表取締役会長 カルロス・ゴーン容疑者ら2人を金融商品取引法違反容疑で逮捕
12月		<ul style="list-style-type: none"> ● SC相模原の川口能活選手が、相模原ギオンスタジアムでの公式戦を最後に現役を引退。クラブ史上最多の12,612人の観客を動員 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将棋の藤井聡太七段、史上最年少・最速で公式戦100勝達成

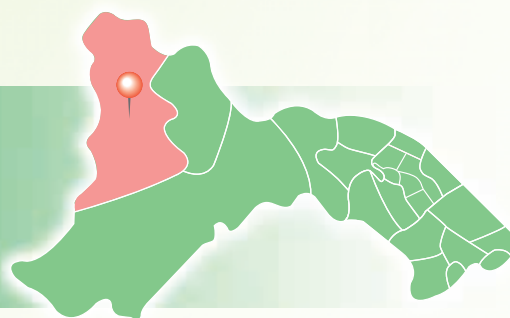
2

各地区のあゆみ

藤野地区	22
相模湖地区	25
津久井地区	28
城山地区	31
橋本地区	34
大沢地区	37
小山地区	40
清新地区	43
中央地区	46
大野北地区	49
横山地区	52
星が丘地区	55
光が丘地区	58
上溝地区	61
田名地区	64
大野中地区	67
麻溝地区	70
新磯地区	73
相武台地区	76
相模台地区	79
大野南地区	82
東林地区	85



人と芸術と自然が 共生するまち



▶ 地区の紹介

藤野地区は、JR中央本線や中央自動車道が通り、都心から約1時間の距離にありながら、里山の風情を色濃く残す森と水と湖のまちです。

水源地域であるため、大規模な開発が抑えられてきたことから、豊かな自然や歴史的風土が、今も脈々と息づいています。

かつて藤野地区は、昭和30年の「昭和の大合併」で藤野町として生まれました。古くは甲州街道の宿場町として、参勤交代をはじめとする多くの旅人でにぎわい、養蚕や酪農、木炭などを中心とした農林業で栄えました。

また、太平洋戦争の末期、この地に疎開していた猪熊弦一郎や藤田嗣治など画壇に名を残す芸術家達が、将来ここに「芸術村」を創ろうと夢を膨らませていたそうです。



春の藤野

こうした歴史的背景もあり、当時の藤野町では、芸術を活かしたまちづくりを推進してきました。その一環として、「緑のラブレター」をはじめとする自然と調和したさまざまな作品が制作され、「芸術のまち」として知られるようになりました。また、地元産の「ゆず」を使った「ゆずの尊」、「ゆずワイン」等の特産品も有名です。



緑のラブレター

▶これまでのあゆみ

藤野地区自治会連合会は、相模原市との合併後、平成19年10月に「藤野町地区自治会連合会」として発足しました。

その後、平成22年4月の政令指定都市移行に伴い、「藤野地区自治会連合会」と名称を改め、防災・防犯活動や美化活動をはじめとし、地域住民の親睦と地域力の向上に寄与することを目的に、「健康フェスタふじの」を開催するなど、住みよいまちづくりに向けて取り組んでいます。

また、自治会への加入促進にも力を入れており、藤野ふる里まつりなどのイベントでは、自治会活動を紹介したパネルの展示や啓発物品の配布など、PR活動を行うとともに、地区内の全世帯に「藤野地区防災計画」の冊子や「黄色い小旗」を配布し、地域連携を図っています。



健康フェスタふじの



藤野ふる里まつり

これまでの主な出来事

平成22年度

藤野地区自治会連合会ごみ集積箱設置
補助金交付規程の制定・施行

平成24年度

藤野地区連合自主防災組織の設立

平成28年度

藤野地区防災計画の全戸配布

平成29年度

災害時安否確認用黄色い小旗の全戸配布



黄色い小旗

主な年間行事

- ・健康フェスタふじの
- ・きれいなまちづくりの日キャンペーン
- ・藤野・相模湖地区自治会連合会合同会議
- ・先進地視察研修会
- ・藤野地区自治会連合会賀詞交換会
- ・役員会、自治会長会議など

これからのまちづくり

現在、全国的に少子高齢化及び人口減少の波が押し寄せており、藤野地区においても例外ではありません。

藤野地区自治会連合会では、今後も行政や各種団体と連携を図りつつ、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり・地域づくりに努めていくとともに、芸術や文化が息づく藤野地区の魅力を市内外へ積極的に発信していきます。

これからも「住みたい」、「住み続けたい」と常に関心される「藤野」を目指し、自治会員全員で取り組んでいきます。

【人口・世帯の状況】

年度	世帯数	人口
平成30年度	3,247	8,839
平成21年度	3,541	10,396

(出典：月報統計さがみはら)



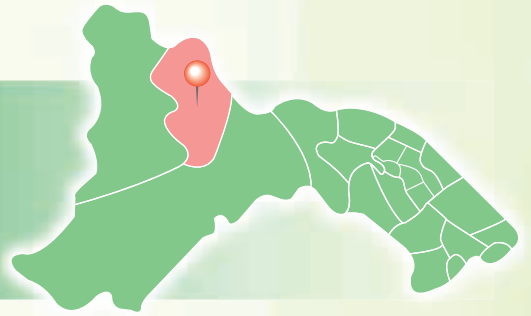
きれいなまちづくりの日キャンペーン



きれいなまちづくりの日キャンペーン

相模湖地区自治会連合会

歴史情緒あふれる 森と湖のまち相模湖



▶ 相模湖地区の概要

相模湖地区は、相模原市の北西部に位置する水と緑に囲まれた自然豊かな地域です。1947年に誕生した相模湖は、東京オリンピックのカヌー競技会場、かながわ・ゆめ国体などの各種ボート競技会場として使用されています。

さらに、2020年東京オリンピックではボート競技においてカナダチームの事前キャンプ地となるなど、本市を代表する地域のシンボルとして市民に親しまれています。

また、JR中央本線（相模湖駅）や中央自動車道（相模湖IC）により都心から1時間以内という交通の利便性も高い地域であるとともに、巨大な奇岩奇石が見られる石老山をはじめとするハイキングコースなど豊かな地域資源に恵まれており、古くは甲州道中（旧甲州街道）に栄えた宿場町として、街道には今も歴史の面影が息づいています。そして、敷地45万坪の自然をテーマとした遊園地で多彩なアトラクションが楽しめる「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」があり、相模湖畔では釣りや遊覧船など水辺のレジャーが楽しめる魅力あふれる地域です。



相模湖

▶ 相模湖地区自治会連合会の概要

2008年に相模原市自治会連合会と統合した相模湖地区自治会連合会は、与瀬・小原地区、千木良地区、内郷地区の3つの地区連合から組織されています。自治会加入率は、市内22地区で上位を維持していますが、区内人口の減少に伴い、加入世帯数の減少という課題を抱えています。そのような状況の中、相模湖地区自治会連合会では、自治会未加入世帯への戸別訪問や加入促進キャンペーンの実施など自治会加入促進に向けた様々な取り組みを進めるほか、自治会相互の連携や親睦を図るとともに、安全で安心なまち



相模湖ふるさとまつりステージ

づくりを目指し、相模湖ふるさとまつり(11月上旬)や相模湖地区総合防災訓練(11月中旬)の実施など、防犯・交通安全、環境美化、地域福祉活動にも積極的に取り組んでいます。

▶ 県下唯一現存する小原宿本陣

本陣とは、江戸時代初期、参勤交代がおこなわれるようになって、大名行列をしながら江戸と領国との間を往復するとき、大名が泊まる宿のことを言います。江戸時代に建てられ、甲州道中の宿場本陣として県下唯一現存する小原宿本陣は、入母屋造の豪壮な門構え、入母屋造の建物、14室の部屋などがそのまま残されていて、県の重要文化財、市の景観重要建造物、かながわの建築物100選にも指定されています。

小原地区では、小原宿本陣を地域の大切な資源としてとらえ、甲州街道小原宿本陣祭(大名行列)や、灯りのイベント(本陣や甲州街道沿いを幻想的にライトアップ)などを開催しています。

▶ 甲州街道小原宿本陣祭 11月3日

小原地区のお祭りである、甲州街道小原宿本陣祭は、2018年で25回目となりました。発足当時は小原自治会という小さな組織が始めた祭典ですが、現在は与瀬・小原地区の自治会や市民の多数の方々の協力を得て実施しています。祭りのハイライトは、大名行列です。小原の郷を出発した大名行列は旗持ちを先頭に、70名の役者が煌びやかな衣装を身に着け、供侍の「したに一、したに一」の合図のもと、国道20号を与瀬方面に歩く姿は豪華絢爛そのものです。行列の出発前と帰着後に行われる小原本陣太鼓と火縄銃の演技は、行列同様に見応えがあります。

小原の郷の芝生周りには出店が多数立ち並び多くの人で賑わいます。駐車場には舞台装置が置かれ、相模湖地区の人々が普段



小原宿本陣の門構え



甲州街道小原宿本陣祭 大名行列



灯りのイベント(小原宿本陣)

から練習を重ねてきた歌や踊り、剣舞の成果を
発表します。郷の芝生に置かれた椅子やテーブ
ルは人々の憩いの場所となり、時間の経つのも
忘れて、一日を過ごすことができます。

2016年の夏には静岡県磐田市の大名行列と共
に松田町の祭典に招待され、奴の舞を披露し、
多数の観客の拍手喝采で大変盛り上がりました。

小原地区をはじめ、相模湖地区では、甲州街
道の遺産の一つとして、また、末永く愛される
地域の財産として、小原宿本陣を大切にしてい
ます。

▶さまざまなイベント

与瀬神社例大祭（4月中旬）

相模湖やまなみ祭（4月下旬）

相模湖ダム祭（7月中旬）

さがみ湖湖上祭花火大会（8月1日）

相模湖ふれあい広場（10月中旬）

甲州街道小原宿本陣祭（11月3日）

相模湖ふるさとまつり（11月上旬）

さがみ湖やまなみイルミネーション（12月）



小原本陣太鼓



甲州街道小原宿本陣祭 火縄銃



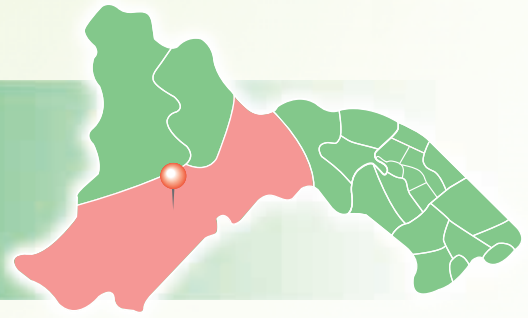
湖上祭花火大会



松田町の祭典に参加

津久井地区自治会連合会

防災意識の高揚と 地域防災力強化を推進



▶ 津久井地区自治会連合会

私たちの自治会連合会は、平成18年3月20日に相模原市と旧津久井町が合併したことにより、相模原市自治会連合会(以下「市連」)との統合協議を経て平成20年4月1日から市連の構成団体となりました。

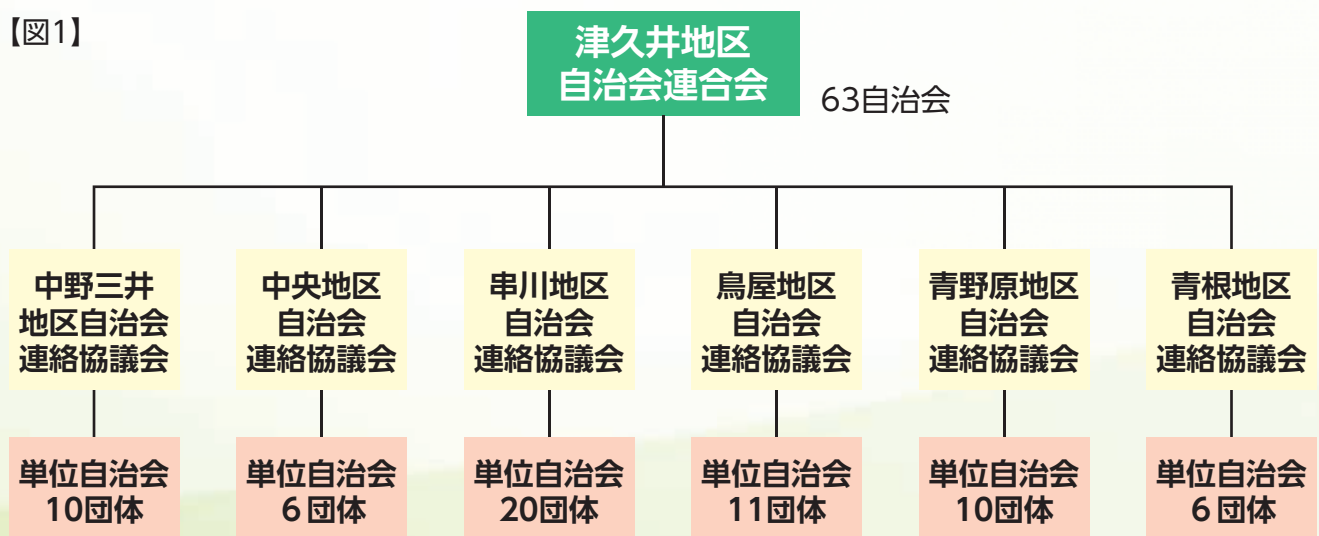
さらに、平成22年4月の政令指定都市への移行に伴い、現在の「津久井地区自治会連合会」(以下「地区連」)に改称されました。

▶ 津久井地区自治会連合会の構成

津久井地区は市内22地区の中で最大の63の単位自治会により構成されており、また、122km²の広大な面積を持っていることから、地区内を出張所・連絡所の行政単位での6地区に分けて「自治会連絡協議会」を組織し、生活圏域ごとの地域コミュニティの中核として活動しています。

「地区連」は、さらにこの6地区を統括し、津久井地区全体の地域コミュニティを担っています(【図1】参照)。

【図1】



▶災害時安否確認のための黄色い小旗事業の継続的推進

黄色い小旗掲示による安否確認事業とは、大地震が発生したときに「わが家は大丈夫。他の人を助けてあげてください」という目印のために、外から見やすい玄関等に黄色い小旗を掲げ、居住者の安否確認を短時間に行えるようにし、被災住民をできるだけ早く救出できるようにしようという取り組みです。

平成24年10月11日、すでに黄色い小旗の掲示を導入していた横須賀市南浦賀自治会に「地区連」として視察研修を行い、推進に当たったの様々なご苦労やアドバイスをいただてきました。早速、同年11月から実施協力自治会の募集を行い、3ヵ年計画で63自治会の全加入世帯(当時7,704世帯)への小旗の無料配布と掲示訓練の継続的实施を行って来ました。

この取り組みにより、自治会員の防災意識の高揚が図られるとともに、自治会未加入世帯への加入促進が図れればと考えています。



黄色い小旗掲示訓練の様子

▶防災カレンダーの自治会加入世帯全戸配布の継続実施

以前は「ひばり放送」が流れるたびに「何の放送か」との問い合わせが頻繁にありました。

そこで、平成27年度(平成28年用カレンダー)からひばり放送のテレホンサービスの番号や防災メールの登録推進、テレビ神奈川のデータ放送、FMさがみの案内などとともに災害用伝言ダイヤルや避難情報の説明を大きく表示したA2判カレンダーを作成し、毎年自治会加入世帯全戸へ無料配布をしています。カレンダーにしたのは、1年間家庭内の目につきやすい所に貼ってもらえんと考えたからです。これにより「ひばり放送」に関する問い合わせはほとんど無くなり、防災情報の入手方法などが分かり易く便利だと、自宅の電話のそばに貼っておくことにより防災意識の高揚も図れ、また自治会加入のメリットにもなっています。

津久井地区自治会連合会

ひばり放送・火災等の情報入手方法

ひばり放送テレホンサービス
0180-994-839
※最新のひばり放送のみ、放送当日限り
分利用には通話料が発生します。

防災メール
登録すれば、ひばり放送とほぼ同時に配信されます。
携帯電話を持っている方は、是非、登録しましょう!!

FM放送83.9MHz(FMさがみ)
相模原市のホームページ
ひばり放送をクリック。

テレビ神奈川(3ch)でのデータ放送
リモコンのdボタンを押して次を選択。
マイタウン情報 ▶ 防災ひばり放送

災害用伝言ダイヤル 171
大地震が発生したら7分以内に発信せず、状況確認!
文通機能は通話中停止。文通機能などによる誤しい伝言により多くの人が自宅に帰れなくなります。帰りは必ず確認してからしましょう。

災害用伝言サービスであなたの安否を確認しよう!
地震などの大きな災害が発生したときに、NTT東日本のサービスを利用して自身の安否情報を登録することができます。通話は利用できません。

伝言を登録する場合 1 7 1 → 1 → 登録地の有力電話番号を災害用伝言ダイヤルに30秒以内で録音する

伝言を再生する場合 1 7 1 → 2 → 登録地の有力電話番号を災害用伝言ダイヤルに再生する

危険性	登録番号	発着時に取るべき行動
火災	119	避難経路・再入者等避難開始 避難開始
地震	171	避難に時間を要する高齢者等やその家族等は避難開始。その他の人からは避難の手続きを開始。 発着地の人がおは、避難場所などへ避難開始。
伝言サービス(緊急)	171	避難中の人は必ず「避難完了」を伝えること。避難が完了したら「通話は終了」で通話を終了。

2018 (平成30年)

1月	2月	3月	4月
1月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	3月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	4月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5月	6月	7月	8月
5月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	6月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	7月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9月	10月	11月	12月
9月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	10月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	12月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

平成30年版防災カレンダー

▶ 防災研修会や防災講演会の継続的な開催

平成24年度から毎年、自治会長・防災部長・自治会員を対象とした防災研修会や防災講演会を開催し、防災に関する知識の修得、防災意識の啓発、避難所の運営や日頃の備えなどについて学んでいます。

特に、平成29年1月21日には津久井中央公民館ホールにおいて、危機管理教育研究所の国崎信江代表から「女性の視点から見た避難所と日頃の備え」をテーマに講演をいただきました。当日は、女性70名を含めた約200名の自治会員が参加し、実例を踏まえた内容に被災の現状の凄まじさを実感できました。



講演を熱心に聴く参加者



熱く語る国崎講師

▶ 長竹災害時支援隊の設立（単位自治会における活動事例）

平成20年頃、串川地区の長竹自治会において消防団員が13名から5名に減ってしまったのに伴い、「消防団組織検討委員会」を立ち上げ対策の検討を始めました。特に昼間の消防団員の支援が必要であるとのことから、長竹自治会独自の「災害時支援隊」の設置が必要との結論に至り、平成23年10月に設立しました。

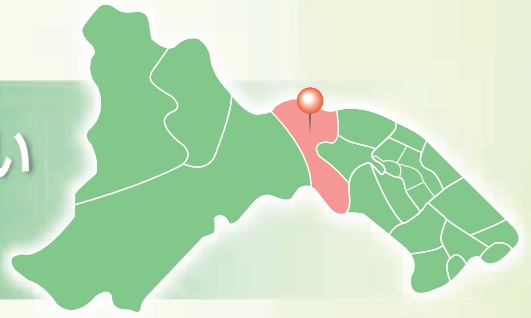
発足当時の隊員は157名（うち女性58名）、平均年齢57歳、入隊式を平成23年10月30日に行い、長竹自治会自主防災部と長竹消防団の支援を目的として活動し、現在隊員は178名まで増えています。自治会の防災部員は2年任期ですが、長竹災害時支援隊員に任期はありません。これにより継続的な任務遂行が可能となっており、地域の防災意識の高揚や災害時要援護者避難支援にも大いに貢献しています。



長竹災害時支援隊入隊式の様子

城山地区自治会連合会

住んで良かった、ずっと住み続けたい
まち城山を目指して



▶ 城山地区の概要

城山地区は、相模原市のほぼ中央に位置し、中央から東部にかけては宅地化、大型店の進出が進む一方、北部には高尾山系に連なる山々や城山湖、西部には津久井湖、また南部には相模川が流れるなど、都市化の進む地域と起伏に富んだ自然を有する地域となっております。特に北部の小高い丘陵からは、新宿副都心や東京スカイツリー、横浜ランドマークタワーなどの眺望が素晴らしく、多くの市民の憩いの場となっています。また、南部から北西部にかけて圏央道が走っており、平成27年3月には相模原ICが開設され、さらには津久井広域道路の延伸により、交通の要衝地として重要な地区となっています。

このような魅力あふれる地域資源に恵まれた城山地区の自治会連合会は、12の単位自治会から構成されています。各自治会では、年間を通じて環境美化活動、レクリエーション活動の他、登下校時の児童の見守り活動などの防犯活動も活発に行われています。



金刀比羅宮からの眺望

自治会連合会の活動

○防災訓練

平成28年9月4日、川尻小学校を会場に相模原市総合防災訓練城山地域会場訓練が実施されました。各自治会から約370名が参加したこの防災訓練では、一時避難場所から避難所となる体育館に入り、避難者名簿の作成や居住スペースを体験するなど、より実践的な訓練を実施しました。

また、連合自主防災隊では、自治会長、防災専門員全員に簡易無線機を配備し、日ごろから通信訓練を行っています。さらに、毎年10月に開催される「城山もみじまつり」の会場では、起震車体験や防災グッズの展示、チラシの配布等による啓発活動も行っています。



防災訓練



起震車体験

○地域間交流

地理的に隣接していながら、都県が異なることなどで交流のなかった八王子市の「グリーンヒル寺田団地」や「館ヶ丘団地」との“つながり”を作り、地域の新たな活動展開へとつなげることを目的に、法政大学多摩地域交流センターのコーディネートのもと、地域間交流事業を行いました。3つの地域を点から線へと結び、「大学生たちの活動を通じて」という新しい視点から他地域の暮らし向きや取り組みに触れることにより、改めて自分たちの地域を見直す“再発見”の機会となりました。

○移動販売

買物弱者対策事業として、(株)セブンイレブン・ジャパンが実施している移動販売サービス「セブンあんしんお届け便」が、平成29年12月から、城山地区内の中沢・葉山島・若葉台地域で始まりました。神奈川県内で2番目、相模原市内では初の運行ということで、それぞれの地域で週1回、地域の中を6～7か所停車するな



防災啓発



地域間交流

ど、高齢者の方々にも利用しやすくし、新たなコミュニティの場にもなりつつあります。

高齢者の買い物支援は地域課題の1つであり、この課題解決に向け、企業や行政の支援をいただきながら移動販売事業が実施されたことは、誰もが安心して買い物ができる地域づくりの1つになりました。



移動販売

▶この先も住み続けたいまち

各自治会では様々な活動を行っていますが、その中でも特に災害への対応は重要と考えています。災害時の要援護者支援については、自治会により取り組み方は異なりますが、相模原市との間で「災害時要援護者避難支援事業に関する協定」を締結するなど、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めています。

最後に、2020年東京オリンピック競技大会の自転車ロードレース競技では、城山地区の一部がコースになり、間近で世界のトップアスリートの熱戦を見ることができます。また、2027年にはリニア中央新幹線が開業（東京名古屋間）する予定です。東京から地下を走行してきた車両が、城山地区の相模川付近で初めて地上を走行すると聞いています。

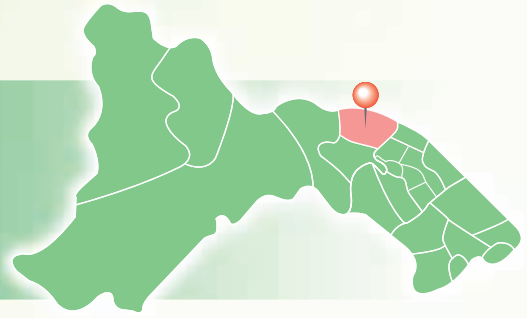
自治会連合会といたしましても、このような機会をとらえながら、魅力あるまちづくりに貢献していきたいと思えます。



城山夏まつり(写真提供:小池久男氏)

橋本地区自治会連合会

活力とにぎわいあふれる 交流拠点都市～はしもと～



▶橋本地区自治会連合会の概要

橋本地区自治会連合会は、相原連合、橋本連合及び宮上連合の3つの連合から構成されています。これは江戸時代に相原村、橋本村、小山村に分かれていたことに由来するといわれております。

現在の橋本地区の人口は約7万2千人です。全国的に人口減少が進む中であって、リニア中央新幹線新駅の設置など、将来に向けて明るい話題があるためか、今後10年間は更なる増加が見込まれています。

リニア中央新幹線新駅の設置は、地域の活性化や市民の利便性向上などに良い影響を与え、そのメリットは計り知れません。その反面、交通渋滞などの新たな課題が生じる可能性もあります。また、現在においても自治会加入率の低下が課題となる中、都市化によって地域コミュニティ意識の希薄化が更に進み、加入者の減少に拍車がかかってしまう恐れもあります。橋本地区では独自に「自治会加入促進ハンドブック」等を作成し、駅周辺に建設された高層マンションへの入居者等に対して自治会加入を積極的に呼びかけています。しかし現在においても、加入率は決して高くはありません。郷土愛の醸成に更に力をいれていく必要があります。橋本地区自治会連合会では「あいさつ」が地域の



空撮写真(平成26年)

コミュニケーションに欠かせない要素であると考え、「橋本地区朝のあいさつ運動」を実施しています。地域の小中学校の校門前や通学路で通学途中の児童・生徒に対し、自治会員があいさつや声かけを行う活動です。こうした地道な取組が、希薄化した地域コミュニティへの意識を蘇らせ、地域への愛着を醸成すると考えています。

今後も3つの連合が力を合わせて、地域の課題を一つ一つ解決し、首都圏南西部の中核となる都市機能と、住民にとって暮らしやすい地域コミュニティ機能を併せ持つまちづくりを進めていかなければなりません。



相原地区ふるさとまつり



橋本地区朝のあいさつ運動



宮上地区ふるさとまつり



橋本地区ふるさとまつり

▶十年の歩み

この10年間で、橋本地区には大きな変化がありました。都市再生緊急整備地域に指定されていた橋本駅南口の工場跡地には、平成22年（2010）年から23年にかけて大型ショッピングセンターや大型集合住宅などが次々に整備されました。平成25年（2013年）には緑区役所と相模原北メディカルセンターが西橋本の旧国鉄跡地に建設され、橋本パスポートセンターも駅前の商業施設内に開設されたことで、地域住民の利便性は大きく向上しました。2017年にはリニア中央新幹線新駅の工事が着工され、今後更なるまちの発展が期待されます。

▶橋本七夕まつり

橋本の七夕まつりは昭和27年（1952年）に商店街関係者が中心となって始めた、市内でも屈指の観光行事です。最近では、商店街だけではなく自治会など様々な団体に関わり、運営を支えています。また、若者たちの積極的な参画は橋本七夕まつりの強みであり、ダンスや大道芸など、多彩なパフォーマンスでイベントを盛り上げています。



橋本七夕まつり

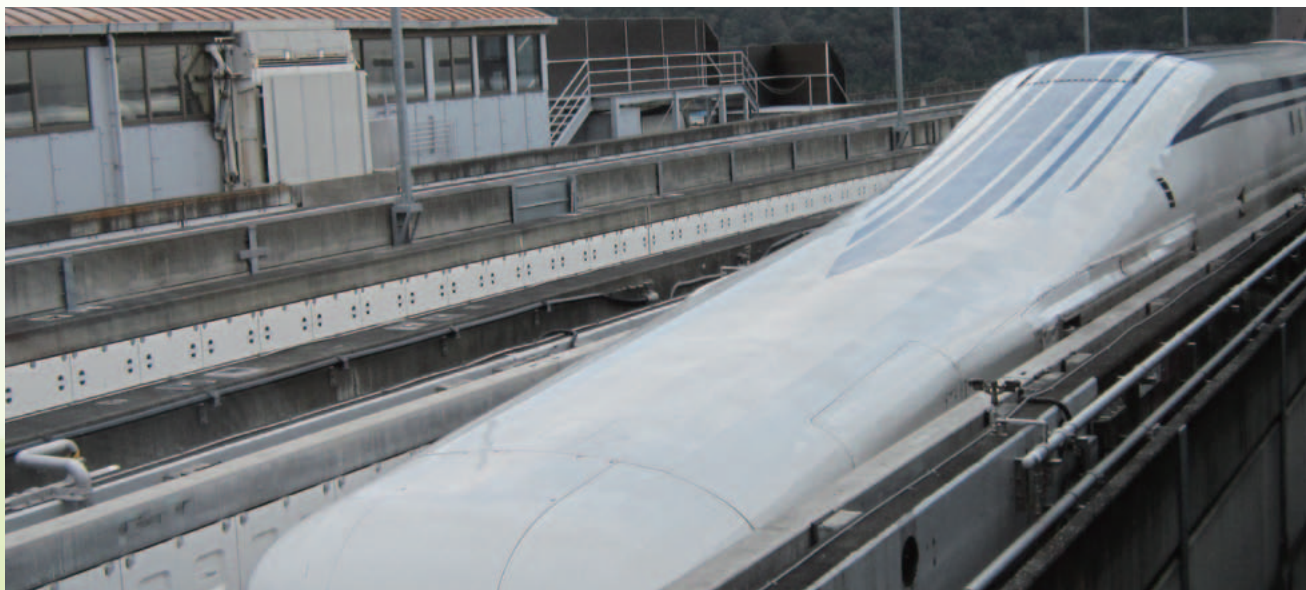
▶今後の橋本地区 ～リニア中央新幹線開通へ～

直近では、リニア中央新幹線新駅設置のため、現在橋本駅前に位置する相原高校が2019年に旧職業能力開発総合大学校相模原キャンパス跡地に移転し、2020年には、相

模原協同病院も同跡地に移転する予定です。人の流れが大きく変わることが想定されるため、こうした変化に対応した交通安全や防犯、防災が地域の新たな課題と認識しています。また、人の流れの変化を新たな交通網整備や地域に根ざした商店街への集客につなげていく必要があります。

リニア中央新幹線の工事が進捗するに従って、更なる課題も発生していくことが想定されます。10年先、20年先を見据えて、リニア中央新幹線開通のポテンシャルを生かしたまちづくり、災害に強い、安全・安心なまちづくりに、自治会と商店会などの関係団体が一丸となって取り組んで、地域住民だれもが心豊かに暮らせる街を目指していきたいと思います。

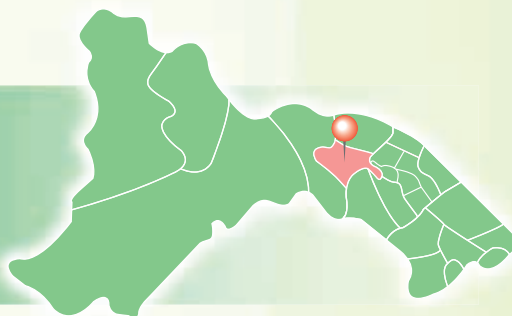
この記録は、“市連のあゆみ”40周年記念誌の「地区の歩み橋本」の続編です。すなわち平成21（2009）年から30年にわたる、橋本地区連の地域発展の概況です。



リニア実験線

大沢地区自治会連合会

伝統・文化の息づく 自然と調和したまち『大沢』



▶ 大沢地区の概要

明治22年の町村制施行の際に、大島村、上九沢村及び下九沢村が合併して大沢村となり、「大沢」という地区名が誕生しました。その後、昭和16年の町村合併、昭和29年の市制施行を経て、平成22年の政令指定都市への移行に伴い、現在は緑区大島、同上九沢、同下九沢及び同田名の4つの大字と、一部中央区の下九沢地番により、大沢地区が構成されています。旧相模原市では西端に位置していましたが、旧津久井郡4町との合併以降は、市のほぼ中央に位置しております。

地区内には、国の登録文化財である旧笹野家住宅、県の無形文化財の指定を受けた下九沢御嶽神社及び大島諏訪明神の獅子舞、さらには、市の登録文化財であるヤツボ等の市内でも有数の文化財が点在しています。また、相模川自然の村公園や相模原北公園のほか、北総合体育館や北の丘センター等の運動施設、相模川清流の里等の宿泊施設も充実しています。

▶ 大沢地区自治会連合会

大沢地区自治会連合会は、100世帯未満の自治会から1,000世帯に近い自治会の17自治会で構成されておりますが、古くからの伝統を引継いだ活動を行ったり、新しいふれあい活動を行うなど、それぞれが様々な活動を実施しております。



大沢地区自治会連合会総会

▶ 地域の主な取り組み

○大沢地区合同防災訓練

従前、大沢小学校避難所1箇所自主防災隊、学校避難所運営協議会など防災組織の関連団体が集まり、大沢地区全体で合同防災訓練を実施していましたが、平成21年から同じ日に連合防災隊の指示のもと大沢地区内の4小学校避難所と2中学校避難所の6学校避難所に分かれて合同防災訓練を実施し、より身近で有意義な訓練としています。



大沢地区合同防災訓練

○おおさわ桜まつり

おおさわ桜まつりは、相模川に隣接する上大島キャンプ場の桜を楽しむ地域内では最大規模のまつりです。地域住民の親睦のほか文化の向上と相模川自然の村周辺の観光資源の有効活用を目的に開催されています。

平成30年度の桜まつりは第20回目を迎え、節目の記念事業を実施しました。また、おおさわ桜まつりを広く周知することを目的に、市ホームページ「相模原チャンネル」に動画を掲載しています。



おおさわ桜まつり

○大沢地区秋まつり

平成20年度に「秋まつり実行委員会」を発足し、それまで出張所が主催する演芸大会と公民館が主催するレクリエーション大会を一体化、地域内の学校の協力を得て、大沢地区秋まつりとして、土曜日に演芸大会、日曜日にレクリエーション大会及び福祉バザーを開催していました。平成28年度からはレクリエーション大会、演芸大会、福祉バザーを同日に開催しております。



大沢秋まつり

○コミュニティバス

相模原市コミュニティバス「せせらぎ号」は、大沢地区内の交通不便地区の解消を目的として、平成20年に運行協議会を発足し、大沢地区と橋本駅間の実証運行が開始され、現在に至っております。

「1便あたりの利用者数が10人以上」及び「事業収支比率50%以上」の運行継続条件を満たす為に、運行協議会が主体となり利用を促進する様々な取り組みを行っています。



コミュニティバス「せせらぎ号」

○ラジオ体操のまち大沢

「ラジオ体操のまち大沢」は、平成20年の自治会長OBの方や各種団体の代表の方で構成された「大沢を考える会」の提案により、平成21年に運営協議会が発足しました。

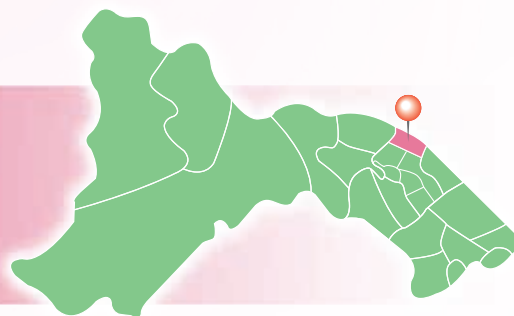
地域住民の健康づくりや地域コミュニティの醸成、各種団体間の連携強化等を目的に毎年4月から11月までの第三日曜日の早朝に、大沢地区内の自治会館前広場、公園広場、子供広場及び寺社前広場などの13会場でラジオ体操を行うというものです。現在「ラジオ体操のまち大沢」は、年間累計参加者も4,100人を超える地域の一大イベントとなっております。



ラジオ体操のまち大沢

小山地区自治会連合会

相模原駅北口が 大きく変貌する小山



▶ 小山地区の概要

小山地区は、JR横浜線相模原駅を中心に、北は米軍基地である相模総合補給廠があり、南は西門、駅周辺の商店街がある。また、相模原駅は、相模原市役所や官公庁、田名方面の工業団地への勤務者などの表玄関口として発展してきた。自治会は9自治会で横浜線を挟んで南側に4自治会、北側に5自治会で構成され、今後も更に人口の増加が予想されている。

▶ あれから10年、小山地区は大きく変わった

米軍相模総合補給廠が北口にあり、該当する面積は214haで内17haが返還された。広域交流拠点整備計画の推進により平成29年4月に南北道路の開通、平成30年3月には東西道路が開通した。東西・南北の道路が開通した事は、相模原市と共に地元小山地区にとって画期的な出来事である。

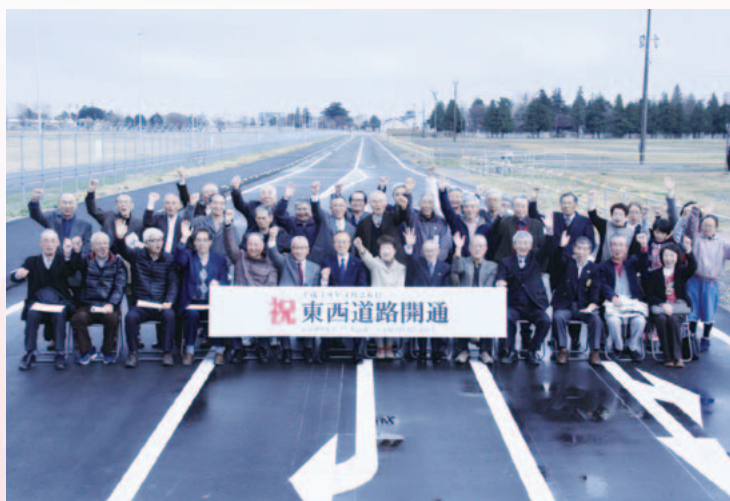
この道路開通が、広域交流拠点基本計画の突破口となりJR横浜線の立体交差化、小田急多摩線延伸及び町田市と相模原市宮下を結ぶ「宮上横山線」の進捗は計画から20年経ち現在85%の用地取得となった。念願の「宮下横山台」は相模原市新道路整備計画に位置づけられた。今後広域商業地域の計画が推進されることを望んでいる。



南北道路開通 !!

▶ 地区自治会連合会の活動

平成28年に新装改築された小山公民館にコミュニティ室が新設され、各地区団体が共用し活動拠点として活発に使用している。平成29年には全地区の防犯灯がLED化され、明るく安全・安心のまちづくりが始まった。自治連に四部制組織を発足し、各部長が事業を推進している。



東西道路開通 !!

▶小山地区で支え助け合う、高齢者支援センターが地元へ

小山高齢者支援センターは小山の中心部の宮下一丁目にセンターを移した。今後は高齢者の生きがいと居場所づくり、認知症の見守り支援ボランティアの担い手、困りごと相談等の充実を行っている。



地域全体で取り組む夜間パトロール

▶10年間の地区自治会のあゆみ

(1) 宮下自治会

平成18年青パト開始12年、現在も活躍中、子ども会とおやこ村を継続。農業に親しみ収穫祭を実施。念願の宮下横山台線の延伸が具体化された。夢のリニアも宮下地下を通過する。

(2) すすきの自治会

平成28年「地球環境美化功績表彰」大臣表彰。伝統の「夜回り」は今も「カチカチ火の用心」が年間を通して実施、特に「寿々喜の会」は50周年を迎える。

(3) すすきの向陽自治会

昭和54年から平成21年まで約30年間続いた青年部が後継者不足により廃部となったのは残念。又6年間続いたすすきの保育園合同の夏祭りは自治会単独開催の意向が強く合同開催を中止した。

(4) 向陽町自治会

平成27年防衛省の向陽宿舍廃止（64世帯）の為に自治会員が激減した。向陽小の前を東西道路が開通し下校時の交通安全対策に取り組んで来た。

(5) 久保原自治会

近隣の企業と防災協定や工場敷地を子ども広場に借用させて頂いた。又交通量増の事故防止として長年を掛けて運動した信号機が市内でも16年ぶりに設置され画期的な事業であった。

(6) 相模原駅前自治会

南北道路が16号に接続出来るよう、相模更生病院前の踏切が改修されることを祈



おやこ村の様子



16年ぶりに新設された信号機

る。平成29年より年末2日間に「火の用心」の夜回りを開始。自治会エリアを東西に分け各エリアの役員により、活動をし、役員間の意思疎通の向上にも役立っている。地域の皆さんが元気に過ごせるよう駅前ラジオ体操会が駅前公園広場にて、平成30年4月よりスタート。汗を流し、おしゃべりに花を咲かせ、毎回大勢の方が参加している。(毎週水曜日8時より)

(7) 東第一自治会

相模原駅前周辺まちづくり協議会も発足し、駅を中心とした広域交流拠点整備計画が進んで来た。小田急多摩線延伸とJR横浜線の立体交差化計画の検討が始まる。自治会加入活動が実った成功事例で一気に70世帯数の自治会加入が実現した。実現には3年越しの促進活動があった。その最大のポイントはマンション建設会社、現場の建設事務所への定期的なアポイントで自治会加入チラシを配布、駅周辺のまちづくり推進活動の内容等説明を行った。

(8) 氷川町自治会

平成23年3月氷川町自治会50周年記念誌を発行し記念夏祭りを開催した。自治会の全世帯、児童から高齢者までが、地域の諸活動に活発に参加している自治会である。

(9) 丸山自治会

念願の南北・東西道路の開通によりアクセスが格段に向上した。北口側外周道路の計画が日米間の調整で未着手である。ここ10年間で14世帯増え153世帯となった。

▶ 今後の課題

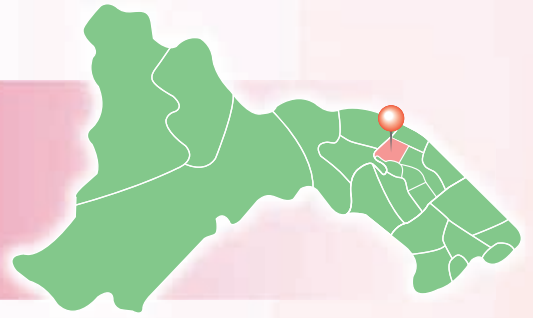
広域交流拠点整備計画の取り組みについて

①相模原駅前周辺まちづくり5パターンの検討、特にJR横浜線高架方式・地下方式の検討参加、②小田急多摩線延伸の採算性について、③宮上横山線・宮下横山台線・補給廠北側道路の進捗



小山地区ふるさとまつり

誰もが心豊かに安心して暮らせるまちを目指して



はじめに

清新地区は、大規模な区画整理が行われた平坦地域で、整然とした住宅地が形成されているとともに、相模原駅周辺を中心とした道路網が形成され、交通、商業、業務施設などの都市機能が集結しており、相模原市の中心的な地域として発展してきました。相模原駅周辺のほか、南橋本駅周辺も、高層住宅や商業施設の立地が多く見られます。

世帯数は約14,000世帯、人口約30,000人、来し方10年のまちの歩みを幾つかご紹介いたします。

「橋本小山ふれあい立体」完成

都市計画道路「大山氷川線」は、JR相模線を地下で横断し、新たに橋本地区と相模原地区を結ぶ幹線道路です。旭中入口交差点からアリオ橋本の前を通り、JR相模線の下を横断して小山1丁目交差点を結ぶ道路が整備され、平成22年9月11日供用開始されました。

2027年には、JR橋本駅南口にリニア中央新幹線神奈川県駅が完成する予定で、産業の活力と賑わいあふれる交流拠点の誕生が期待されます。



橋本小山ふれあい立体(H22年)

桜並木と芝桜の名所をめざして！

JR相模線沿いの小山小・中学校西側にある遊歩道は約400mの桜並木が続き、春には近隣から多くの人々が訪れ、花見を楽しんでいます。

樹齢60年を超えた桜の根の周りには長年の人の往来により土が踏み固められ、根の痛みが心配されていました。そこで、地域の人に愛され親しまれている桜並木を大切にしようと、周辺の5自治会やPTA・学校などが、平成24年に「相模線桜並木保存実



桜並木と芝桜(H24年)

JR相模線沿いの小山小・中学校西側にある遊歩道の桜並木は「相模原市さくらマップ」の名所に選ばれています。

行委員会」を結成し保存活動を始めました。

現在まで2,300株の芝桜を桜の木の下に植え、人が立ち入らない環境づくりに取り組んでいます。また、地元の子どもたちと共に、除草や水やりなど「誰でも気軽に参加できる活動」を続け、桜並木の保存の輪を広げています。

▶ 清新のシンボルマークで 「自治会加入証」作成

「清新」の「S」をモチーフに、上の三角の青は相模の青空を、下の三角の茶色は相模の大地を表します。相模の自然に囲まれ、皆で支えあう、安心の街を中央の緑色の部分で表します。国道16号をイメージしたラインに幸運の7つ星がふりそそいでいます。



自治会加入証

▶ 体を動かして元気に過ごしましょう

「清新ラジオ体操の会」

地域住民の体力向上、健康の保持や参加者同士のコミュニケーションを図ることを目的に、老人クラブが自治会や民生委員の協力を得て「清新ラジオ体操の会」を立ち上げ、5会場で実施しています。会場の美化活動と、帰りには学童の通学見守り活動も併せて実施しています。



清新ラジオ体操の会 (H27年発足)

▶ 南橋本駅前交番開所

平成30年4月1日JR相模線南橋本駅前に、地元待望の交番が新規開所されました。

この交番は、昭和54年に地域住民が相模原市へ交番新設要望書を提出し、爾来38年の時を経て、相模原市と地域の熱意が県の心を動かし、開所に至ったものです。地域の防犯拠点として、犯罪の抑止効果が期待され、地域を見守る、親しみを感じる交番であることを願っています。



南橋本駅前交番開所 (H30年)

▶ 国道16号相模原駅周辺自転車道

自転車は、幼児から高齢者まで幅広い層が利用する国民の身近な交通手段です。

このたび、自転車通行環境整備のモデル地区として「相模原駅周辺地区」が指定され、相模原警察署から相模原駅入口交差点までが先行整備され、その後、市・警察・商店街・自治会・相武国道事務所で懇談会を行い、清新交差点まで自転車道延伸を要望し、平成27年1月に開通しました。安全・安心なまちづくりを目指しています。



国道16号相模原駅周辺自転車道開通(H27年)

▶ 清新ふるさとまつり

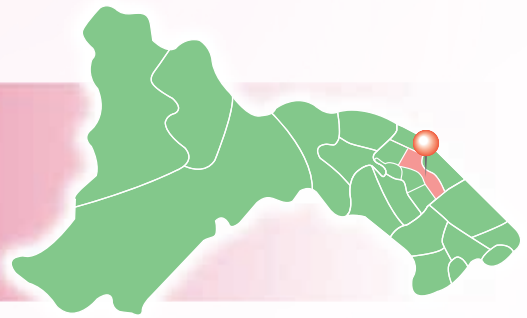
「清新ふるさとまつり」は、清新地区に夏をつげる風物詩としてすっかり地域に定着しています。なかでも「花火大会」は多くの企業・事業主の協賛を得て、地域住民の協力のもと、「すぐ近くで見られる花火」と好評を得ています。

模擬店も20店以上が出店し、多彩な催し物や賑やかな盆踊りなど“心かよいあうふるさと”をモットーに住民相互の親睦がはかられています。



清新ふるさとまつり

「地域を守り 地域を創る」 中央地区



▶ 地区の概要

中央地区は、①相模原・中央・千代田、②矢部、③富士見、④相栄の4ブロック33の自治会で構成され、約3万6千人が居住しています。

相模原・中央・千代田、富士見地区は官庁や文化施設が集中、矢部地区では高層マンション・アパートの建設が進み人口増加が著しく、これら3地区は市の中心部に位置しています。国道16号線が車道・自転車道・歩道とそれぞれ専用に整備され、市役所前、西門の並木通りと合わせて、一段と綺麗で快適な緑豊かな市の顔となっています。

春の桜まつりは、市の一大イベントとして多くの人々の交流の場となっています。

また、JR横浜線矢部駅では、エレベーター設置や地下道・駐輪場の整備等通勤・通学の利便性が良くなり、利用者が増大しています。

相栄地区は、閑静な住宅街の中、広大な淵野辺公園やJAXA相模原キャンパス、市立博物館、国民生活センター等が所在し、学術・文化・憩いやスポーツに恵まれた環境にあります。

富士見・相栄地区には、学校（小学校3、中学校2、高校1）が多く、人口増加に伴い児童・生徒の数も増え、多くの子ども達が賑わい、学校と地域の交流や連携が一層深まっています。

▶ 自治会活動について

1) 「ふるさとまつり」と「町民運動会」

ふるさとまつりは、地域内住民のふるさと意識の高揚と住民相互の交流親睦を図り、心の通い合う明るい街づくりを目指して、毎年夏33自治会が主体となり開催しています。

地域諸団体による模擬店や工作コーナー・グッズ等の販売、中学校、高校による吹奏楽演奏、バンド演奏、盆踊り等盛大に開催されています。中でも中高生の吹奏楽演奏は、生徒と地域の皆さんとが音楽で直に触れ合う交流の機会であり、中央地区らしい催しとして大好評です。

また町民運動会は、33自治会を10チームに分け、子どもから大人、高齢者まで



中央地区ふるさとまつり

三世代が運動を通し、一体感と親睦とコミュニケーションの輪を広げ、より良い人間関係をつくることを目的に開催されています。

2) 防災、交通・防犯活動

「防災対策」

近年いつ起こってもおかしくない地震や突然の集中豪雨、台風等災害の発生に備え、尊い人命や財産を守り、被害を最小限にするため各自治会では積極的に防災訓練や避難所運営訓練、防災資機材の整備等を実施しています。

自治会連合会では、「地区防災計画」を作成し、毎年自治会相互が助け合い連携した対処が出来る様、実践的な消化訓練、救出・救命訓練等を実施し地区防災力の強化・向上を図っています。各世帯には、「防災ガイド」を配布し、避難場所や家庭での非常用品等の啓発を行っています。

「交通・防犯対策」

人口増加、社会環境の変化により、近年振込め詐欺が急増、自転車や自動車の部品盗難、不審者の出没等犯罪も多発傾向にあります。

また、自転車の事故が急増しており、地域パトロール、交通・防犯啓発運動、講習会等を実施し、犯罪抑止力と交通事故ゼロを目指し、対策を強化しています。



町民運動会



防災訓練



見守り活動

▶魅力あるまちづくりについて

「もみの木コンサート」

地区内小学校、中学校、高校の6校に加え多くの地域シニア団体の参加、さらに市内音楽関係者を招いて開催しており、平成30年度で17回目となります。毎年1300人を越える参加者で盛り上がる年末の一大イベントに発展し、音楽を通して地域の絆の醸成を図っており、中央地区の音楽文化として評価されています。



「子どもと大人 共に学ぶ宇宙教室」

中央地区には『はやぶさ』など日本の宇宙開発拠点のJAXA相模原、プラネタリウムを備えた博物館があり、子ども達や市民が宇宙を学ぶには非常に恵まれた環境にあります。

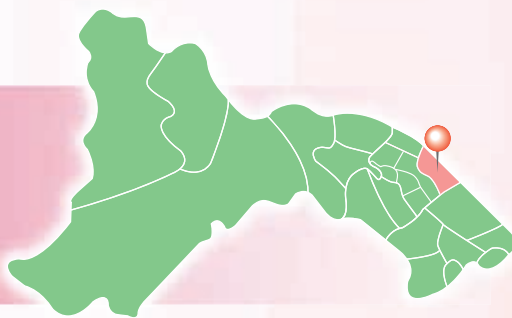
平成27年度からこの恵まれた環境を存分に活用して、幅広い年代層を対象に“夢と未来を”宇宙を通して学ぶ教室を開催しています。年6回の講座開催で、参加者はこの3年間延べ18回の講座で1,600人を数え、JAXAの先生の分かりやすいお話から、映像や実験、工作を組み込んだ講座は大変人気を博しています。

“JAXAのある街中央地区”ならではの“学びの文化”となっています。



大野北地区自治会連合会

魅力あるまちづくりをめざして



▶ 大野北地区の概要

当地区は中央区の北部にあり、東西に国道16号線とJR横浜線が通り、淵野辺駅・矢部駅と隣接した古淵駅を中心に比較的利便性の高い地域であります。また、地域の歴史をたどると南北朝時代の足利直義の家臣淵辺義博が淵野辺を領有していました。後醍醐天皇の第一皇子大塔宮護身親王伝説や龍池の大蛇退治など極めて古い歴史の残る場所で、宮城県石巻市とは深い関係があります。地域内を流れる境川は、江戸時代には高座川（たかくらがわ）と呼び、武蔵国・相模国を画する境界でした。廃藩後の明治4年に誕生した神奈川県には東京三多摩地区（南多摩・北多摩・西多摩）が含まれていましたが、明治22年の市制・町村制施行にともない、東京都と神奈川県の間として境川と呼ぶようになりました。従って、町田市との関連が非常に多い地域でもあります。

▶ 人口の動向

当地区の人口は平成30年4月現在60,093人で10年前と比べると5,340人増加しています。また2032年まで人口は緩やかに増加するものの、2065年には56,538人と減少が予想され、市内では減少率が6.7%で最も低いものの、高齢化率は38.9%まで上昇し、4人に1人が75歳以上になると予想されます。高齢化社会への対応や、住民が暮らしやすいまちづくりとして「コミュニティバス」の実証運行に取り組み、また道路交通環境の向上を推進しています。

▶ 青学の箱根駅伝優勝に沸く

青山学院大学が箱根駅伝で4年連続優勝に輝き、地元淵野辺では大野北地区まちづくり会議、にこにこ星ふちのべ商店会主催の祝賀パレードを開催しました。凍てつく寒さにもかかわらず3万人の青学ファンが県



淵辺義博の碑



コミュニティバス

内外からも駆けつけ、選手たちの活躍に祝福を送っていました。加山市長からのお祝いメッセージをはじめ、原監督や代表選手からの力強い挨拶がありました。その後、選手たちは沿道のファンに笑顔でサインに応じ、淵野辺の駅前には青学色に染まり、大歓声に包まれました。



青学優勝祝賀パレード

▶ 青色防犯パトロールカー

当地区では安全で安心に暮らせるまちづくりの一環として、様々な取り組みをしていますが、特記すべきことは青色防犯パトロールカーの導入です。交通安全パトロールをはじめ、子どもたちの登下校時の見守りや地域の見守りとしての防犯活動など様々な場面で活躍しています。これからも地区自治会連合会を中心に、単位自治会、小・中学校PTA、また各種団体の方々にも協力をいただき、青色防犯パトロールカーを大いに活用し、住民が主体となって地域の安全と安心を見守ります。



青色防犯パトロールカー

▶大野北銀河まつり

毎年8月の第1週目の土・日に鹿沼公園で開催される「大野北銀河まつり」は夏の一大行事として年々地域に定着し盛り上がりを見せています。これは7年前に「ふちのべ銀河まつり」から更なる賑わいを期して「大野北銀河まつり」に発展改称しました。地域住民のふれあい・交流・親睦を深め、子どもたちからお年寄りまですべての人々が大野北を意識し、住み良い活気ある地域づくりをめざしています。



自治会加入促進キャンペーン

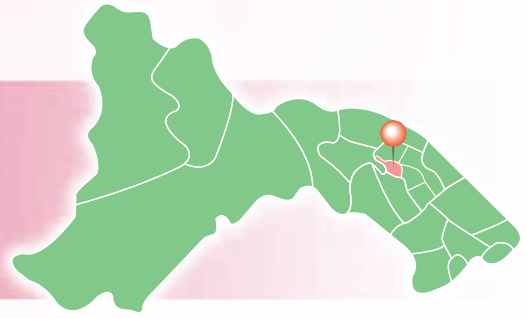


銀河まつり

▶今後の取り組み

市民アンケート調査では、当地区の今後の居住傾向は「今の地域ですずっと住み続けたい」31.6%「自分の間は住み続けたい」50%となっています。文教地区としての特色を生かし、より魅力あるまちづくりを進めていく取り組みとして「大学と地域との連携協力に関する協定書（青山学院大学、麻布大学、桜美林大学）」が締結されました。淵野辺地区は図書館、博物館、都市公園などの公共施設や大学キャンパス、JAXAなどの文化施設が多く立地しているという特色に加え、相模原市の地区中心商業地の形成をめざしている地域です。しかしながら商業地としての集約が進んでおらず、図書館、公民館等の公共施設は老朽化が進行し、早急に公共施設を集約・複合化する等の再整備を行うことが新たな文化交流拠点の創出として必要不可欠です。自然を愛し、人が集う次世代へ引き継ぐ活気ある「まちづくり」整備を一体的に行い、魅力ある地域シンボルエリアの形成、及びまちの賑わいの創出を図ることが今後の課題です。

10年未来の “今”づくりを目指して



▶ 横山地区の概要

横山地区は、相模原市に22ある地区連合会のなかで、面積も世帯数も一番小さなグループになります。

特徴的な商業施設もなくどちらかといえば、清閑な住宅地域と位置付けられると思います。この10年を振り返ってみると、大きな変化がなかったように思いながらも、じっくりと地域を観察しているとさまざまな変化に気づかされます。

一つ目は、県営横山団地の再整備が進み、高層の集合住宅の完成と共にすっきりとした景観になってきたことです。再整備も終盤に差し掛かっており、生活基盤が整うことをうけて、地域の活動についても再整備の必要性が出てくるかもしれません。

二つ目は、下九沢地域における、商業施設誘致にともなう利便性の大きな向上です。バス路線の整備も含めて、この地域にこれまでなかった食住が一体となった環境が整えられたことにより、より充実した生活創造に心が向けられる基盤が整ってきたといえるでしょう。

三つ目は、高齢者施設が次々に造成されたことです。10年前の動きと比べると、ここ数年の開業スピードは、はるかに上がっています。これまであまり意識することがなかった、地域と高齢者施設とのかかわり合いについて、社会福祉協議会と共に検討を進める必要が出て来ています。

また、昔は多くあった畑が、いつの間にか居住施設に変化しています。その為もあってか、風の強い日に舞い上がっていた土埃を以前ほど強く感じなくなりました。



再整備中の県営横山団地



下九沢地域の利便性の向上

以上のような変化の中で、地域の活動に目を向けると、基幹となるイベントには大きな変化はなく、地域の大切な行事として継続してきており、これからも時代やニーズの変化に応じながらも守り続けていきたいと考えています。

▶ ふるさとまつり

毎年8月に「横山地区ふるさとまつり」と称して、横山小学校の校庭にやぐらをたて、その周りを練習を積んだ盆踊りのメンバーがこぞとばかりに踊りを披露します。オリジナルの「横山音頭」もあって、祭りの中心行事です。周辺では各自治会が趣向を凝らした模擬店で来場者を喜ばせています。ふるさとがこの地ではない人が多く暮らすこの地域で、それぞれのふるさとの祭りに思いをはせながら、手作りの祭りを皆で楽しみます。

▶ どんど焼き

毎年1月に横山小学校において行われます。2本の火柱の横のステージでお囃子、大太鼓、よさこい踊りなど、炎の鎮静までの間一気にイベントが進んでいきます。その周りでは、大勢の方が無病息災を願う団子を焼こうと、今か今かと待ち構える景観は圧巻です。正月にそれぞれのふるさとで過ごした人たちも、この時ばかりは「ここにもふるさとがある」と感じている瞬間ではないでしょうか。

▶ 地域づくり

大きな二つの行事以外にも、秋には公民館と共に運動会や合同防災訓練を行っており、地域のコミュニケーション強化や防災意識の高揚に努めています。また、安全・安心の取組みとして継続している青色パトロール隊による防犯パトロールは、その活



高齢者施設の造成



横山地区ふるさとまつりの風景



圧巻の横山地区どんど焼き

動が評価され、様々な方面から表彰を頂いており、メンバーたちの活動継続への大きな心の支えになっています。

▶未来へ…シンボルツリーと照手姫伝説とともに

横山小学校の校庭の端に、大きな大きな1本のメタセコイヤの木があります。小学校の近くには、照手姫伝説につながる榎神社があります。この木と神社は、ずっとこの横山を見守ってきました。つい見過ごしがちなこの二つは横山地区の大切な宝物です。これからは私たちが、この二つを見守る番だと考えています。この二つをつなぎ合わせて、地域に住む皆が、子供たちが、自慢げに語ることができる「ふるさとのランドマーク」となるよう、横山地区の皆で協力し合い、知恵を出し合い、行政や近隣の地区連合会とも連携し、継続して取り組んでいきたいと思えます。時間はかかるとは思いますが、10年未来の子供たちが、ふるさとの自慢話ができるように。



継続的に行っている青色パトロール



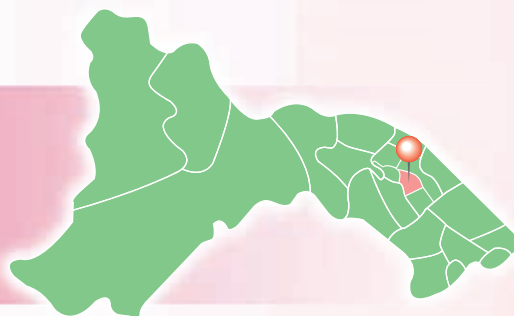
榎神社



横山小学校内にあるメタセコイヤの木

星が丘地区自治会連合会

やさしさいっぱい星が丘



▶ 生い立ち

星が丘地区に人が住み始めたのは、昭和15年からの旧陸軍進出に伴い従業員や家族のために建てられた住宅90戸に約300人が昭和17年に入居したことが最初です。入居当時この地は県営と呼ばれていましたが、住民が早く地名を付けたいとの要望があり昭和18年10月にこの地から見る夜空の星の美しさが入居者が旧陸軍関係者に限られており、帽子のマークが星であったため「星ヶ丘」と名づけられました。

▶ 概要

地区内に中学校や高校等はなく唯一昭和24年に開校した星が丘小学校があるだけで、学区と自治会連合会の区域は同じで非常にわかりやすくなっています。自治会数は14で全て名称に丁目があります。地区の行事はいつも星小や隣接する公民館で実施されているため、新住民もすぐ馴染みの場所となっています。そのため、当連合会を始め各団体は星小との連携が強く、子ども会活動等子どもに係る事業に理解と協力があり活発に行われています。



チリリンスクール

▶ ふれあいフェスティバル

3・11東日本大震災後、誰もが「何かをしたい、しなければ」と思っていました。

当連合会は公民館区各団体の協力を得て5月15日に復興支援「チャリティ広場」を開催しました。当日出店した模擬店や来場者からの寄附金は百万円を超える事が出来、被災地に送付しました。

その後、各自治会や団体から「復興には息の長い支援が必要だ。自分達で出来る支援を続けたい。」「自分達が被災者になった時、近所でもっと多くの顔見知りが必要。」との意



夜間防災訓練

見が出され、地区内で助け合える絆を深めるため「ふれあいフェスティバル」を毎年10月に実施しています。会場には募金箱があり、今も全国各地で起る災害を再認識し、防災、減災を考えています。

また、5年前に星が丘をどんな地区にしたいかキャッチフレーズを募集した所、「やさしさいっぱい星が丘」に決定しました。イベント時には、冠に付けてフレーズ通りになる事を目指しています。



ふれあいフェスティバル



ふるさとまつり・町民運動会



自治会館で開催の学習塾

▶ コミュニティ

数年前から「いきいき百歳体操」がブームとなり以前より行われていた健康マージャンやサロン等に加えて、大多数の自治会で高齢者を中心とした仲間作りの場ができました。くちコミで百歳体操の参加者が増え、そこで知り合った者同志が新たなことを考えています。子ども会を巻き込んでソーメン流し等を実施。

また、子どもの居場所作りも行われており、自治会館に勉強ができる環境の整備、提供や本を沢山置いて子どもを迎える等、他の模範となっている所も少なくありません。



いきいき百歳体操

▶ 安全・安心

所謂「振り込めサギ」撲滅に向けて「電話に出ない。留守電の設定を」と呼びかけていますが、撲滅にはほど遠く効果は上がっていません。根気強く留守電機能を説明し設定の普及を図っていかねばと思っています。

また、空き巣や窃盗等も多く発生しています。各自治会等のパトロールだけでは防ぎきれません。

地区全体で防犯カメラを設置し犯罪の抑止が必要です。

当連合会では、個人が留守電機能付に取り替える時や、自治会が防犯カメラを設置した場合、独自の補助金を支給し推進を図っています。

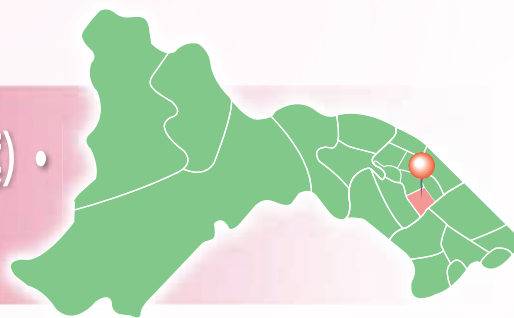
犯罪や事故のない明るい地区を作っていかなければなりません。



自治会館内の図書室

光が丘地区自治会連合会

太陽 (陽光台) の光 (光が丘) ・青い空 (青葉) ・
緑 (緑が丘) の並木 (並木) のふるさと



▶ 光が丘地区の特徴

冒頭の一節は、光が丘地区を見事に言い表しています。相模原台地の上段に広がる平坦地に、県道村富相武台線を挟んで、陽光台地区と光が丘地区・青葉地区・緑が丘地区・並木地区が隣接し、主に一戸建住宅が建ち並ぶ地区です。先人達の継続的な努力で光が丘地区のコミュニティ活動はどんどん活性化してきました。

自治会加入率も70%と相模原市の平均を上回り、各自治会を軸に社会福祉・交通安全・防犯・防災・消防団・青少年健全育成・PTA・環境美化・老人会・子ども会・公民館活動など各種団体との連携も良く取れています。

▶ 光が丘地区の主な活動

1. 防災活動

特徴的なのは、13ある「独立防災隊」の存在です。通常の自主防災隊は毎年交代する自治会の役員・班長で構成され、名簿上の防災隊であり形骸化しています。

しかし、光が丘地区の「独立防災隊」は任期を定めずに自治会役員とは別のボランティアで構成されます。そして、地区内に住む約40名の防災マイスターとも連携し、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉にして実際に役立つ消火・救出の合同訓練を定期的に行っています。その活動が認められ、2017年には総務省消防庁主催の「第21回防災まちづくり大賞」において、「日本防火・防災協会会長賞」を受賞しました。

2018年からは、それまで個別に活動していた避難所運営協議会・防災隊・防災マイスターが密接に連携していくという画期的な方針が打ち出されました。



独立防災隊 スタンドパイプ防水訓練

2. 交通安全活動

特に自転車事故を減らすために交通安全協会・交通安全母の会・PTA・地区自治会連合会は継続的に地道な啓発活動（春・夏交通事故防止運動、自転車事故撲滅街頭キャンペーン、秋の交通街頭キャンペーン）を続けています。交通事故件数全体は毎年横ばいですが、2018年に入って自転車事故は減少

傾向を見せています。7月からは自転車保険が義務化となり、賠償保険の選択肢をわかりやすく住民に理解してもらう活動を開始しました。

光が丘地区では、これに加えて高齢者の自転車ヘルメット着用を推進する計画です。データでは自転車死亡事故の約7割は頭部打撲です。運動機能の低下した高齢者は、交通安全意識の未熟な若者の運転する自転車との衝突時などに頭部打撲のリスクが特に高いのです。「高齢者は自転車ヘルメットで自分と若者の将来を守ろう」「若者は賠償保険で、自分の将来と高齢者を守ろう」が合言葉です。また、光が丘地区は狭い道路（4m幅中心）の入り組んだ住宅密集地です。現在、まちづくり会議を通して、住宅地域内速度抑制（ゾーン30）にも取り組んでいます。



毎日の通学路見守り



交通安全キャンペーン(自転車事故防止啓発運動)

3. 自治会加入促進と退会防止活動

自分たちの暮らす地区の安全を守る中心となるのが「自治会」の活動です。しかし、多様化した若い世代に「自治会」の重要性と真の意味を伝えることは簡単ではありません。「光が丘地区自治会連合会」では、自治会加入促進の活動を継続的に実施しています。

5年前に制作された啓発チラシ「自治会ってなあに」は、誰でも理解できるわかりやすい内容になっています。現在では相模原全市版として採用されています。これとセットで、「自治会」の真の意味を伝える啓発講座用のスライド（パワーポイント）も作成し、毎年交代する自治会役員・班長に理解を深めてもらう活動を継続しています。啓発スライドには自分たちの住む地区の成り立ちと歴史も盛り込まれています。自分の住む地区への理解が深まれば、それだけ愛着もわき



自治会加入促進 啓発チラシ

ます。こちらの啓発スライドも相模原市自治会連合会を通して、光が丘地区以外へも広がりつつあります。毎年、新しい視点からの内容を盛り込んだ「啓発チラシ」と「啓発スライド」が追加され、これまでに第5弾まで作成されました。これらの啓発ツールが光が丘地区の「自治会加入促進」と「退会防止」に役立っています。

4. 次代を担う子どもたちを育成する活動

11月の23日に実施する「こども未来ワールドin光が丘」も2018年で3回目を迎えました。これは従来の“大人が企画して、子どもを呼ぶ”という発想を逆転させ、“子どもが企画して、大人が実現をサポートする”というフェスティバルです。地域の小・中・高の学生ボランティアが、学校の枠を超えて集まり、自由に発想・企画して進めます。大人も趣旨に賛同したボランティアで、黒子としてその実現に向けたサポートをします。当日の子どもたちは皆、喜々として自分たちの企画したブースでお客様の子どもたちを迎えます。そこで発揮した自主性と積み重ねで得た達成感が次代の地域活動を支えるものと強く信じます。



こども未来ワールドin光が丘



こども実行委員(学校の枠を超えて集まった小・中学生)

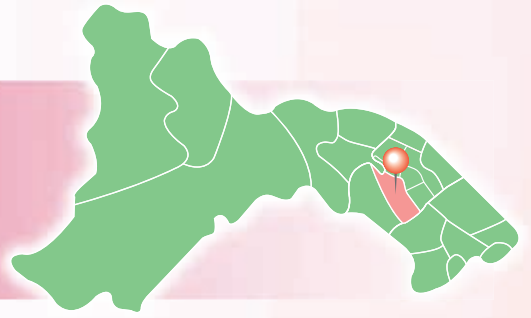
▶ 光が丘地区の今後の課題

高齢化率32%（中央区1位）で、高齢世帯の生活支援が課題の一つです。県道村富相武台線から離れた地区での交通手段は車が中心であり、地区内で実施したアンケート調査でも、免許の返納により買い物が困難になるとの声が多数寄せられました。この地区課題に対応するため、現在、市から委嘱を受けた「地域ケア会議」のメンバーを中心に、地区の「社会福祉法人」の協力を仰いで、光が丘地区を循環する「買い物カー」を運行（2018年後半試験運行、2019年4月～本格運行）しています。



買い物カー（お太助カー）

小田急多摩線の延伸により 発展を期するまち上溝



▶ 地区の概要

上溝地区は、鳩川、姥川、道保川の3本の河川が流れ、横山丘陵の緑地など自然に恵まれたところ
です。

また、江戸時代末期からの伝統を誇る『上溝夏祭り』などの豊富な伝統文化を育むとともに、『上溝だ
るま市』や『上溝西の市』が開かれ、毎年多くの人でにぎわい、古くから相模原の南北を結ぶ交流の拠点
として栄えてきました。今日においても市内を縦断する相模線が通り、地区内には上溝駅、番田駅があ
り、さらに主要な道路が交わるなど、交通の要所になっています。

明治22年の町村制試行により溝村ができ、その後大正15年に上溝町が誕生し、昭和29年の市制施行
により、市役所が現在地に移転するまで、町役場は上溝にあり、相模原の政治経済・文化の中心地とし
ての役割を担い発展してきた歴史のあるまちです。

昭和44年、市自治会連合会発足当時の自治会数は17自治会、人口が10,746人・2,705世帯で、その
うち自治会加入世帯は、2,426世帯でした。そして、平成30年4月1日現在では、自治会数は16自治
会、人口が33,575人・13,401世帯で、自治会加入世帯は6,902世帯、自治会加入率は51.5%となっ
ています。



勇壮な上溝夏祭り



改修が完了した番田駅

▶ 地区内の主な出来事

- 平成21年度 上溝公民館創立60周年
平成22年度 上溝地区まちづくり会議、エンジョイ上溝実行委員会発足
平成23年度 さがみはら産業創造センター（SIC-3）開所
平成24年度 上溝まちづくり大会開催
平成26年度 上溝学校給食センター開所
上溝さくら公園開園
平成27年度 上溝まちづくり展開催
平成28年度 ぶらっと上溝開所（地区社協の取組）
五部会神輿大改修
小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会設立
平成29年度 総合防災訓練（上溝地域会場）実施
平成30年度 番田駅舎改修、番田駅自転車駐車場再整備



シンボルマーク

▶ 「エンジョイ上溝」の取組

平成22年、相模原市の政令指定都市移行に伴い、市内22の地区自治会連合会区域ごとに「まちづくり会議」が組織されましたが、当地区においてはさらに、同会議を母体とする「エンジョイ上溝実行委員会」を立ち上げ、まちづくりの“実践”に取り組んできました。

平成23・24年度に取り組んだ「上溝プロジェクト」では、多摩美術大学の学生たちの豊かな発想により「まちづくりのヒント」を得ることができました。

また、平成25年1月には、音楽祭とまちづくりフォーラムの2部構成による「上溝まちづくり大会」、さらに平成28年2月には、地域活動団体の取組を紹介する「上溝まちづくり展」を開催しました。これらの取組により、多くの方に「まちづくりを考え、行動していただく機会」を提供できたものと考えています。



上溝まちづくり大会の様子

▶ 小田急多摩線延伸・上溝駅開設に向けた取組

平成28年4月、小田急多摩線の延伸計画が国の交通政策審議会で意義あるプロジェクトと位置づけられ、その実現に向け一歩前進しました。

しかし、費用負担や採算性など多くの課題が指摘されていることから、地区の活性化や「住みよい、賑わいのあるまち」の新たな創造に向けて、平成29年3月に地区内の団体や個人等からなる「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」を設立し、以後、地域一体となった周知・啓発活動など積極的な取組を進めています。



上溝夏祭りでの周知・啓発活動

▶ 今後に向けて

文化と伝統にあふれ、地域の創意工夫で発展してきたまちですが、他の地域と同様に、少子高齢化・核家族化の進行や共同住宅の増加等に伴い自治会加入率は低下を続けており、自治会活動をめぐる状況は年々厳しさを増しています。

しかし、大きな被害をもたらす自然災害が頻発していることなどに伴い、自治会が果たす「共助」の役割が改めて見直され、地域の連帯意識の向上が求められているのも事実です。

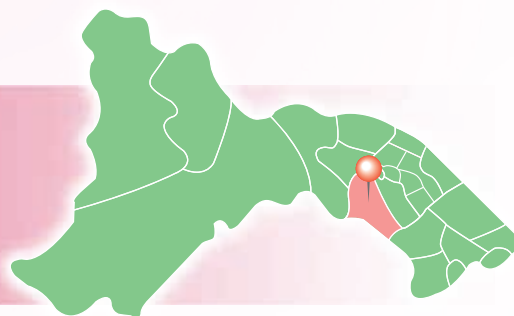
当地区自治会連合会は、今後も上溝の歴史を継承しつつ、住民一人ひとりが助け愛（合い）の精神でつながる「幸齢（高齢）社会」の実現に向けて努力していきます。



世代を超えて「流しそうめん」

田名地区自治会連合会

田名のあすを拓く



▶ 地域の概要

相模川の豊かな流れや、多くの自然などの観光資源に恵まれ、18,000年前の旧石器時代の昔から人々が生活を営んできた歴史と伝統に培われたなかに総世帯数11,585世帯のうち7,096世帯、16自治会で田名地区自治会連合会を構成しています。



豊かな相模川の流れと鯉のぼり

▶ 地域活動の経過

－田名の未来は今にあり・みんなの願いを実現しよう－

道路は狭い、交通事故が多い、犯罪が多いなどから、平成14～15年頃、地区内の生活環境の改善に向けた機運が高まり、自治会長OBなどの協力により、「田名のあすを拓く委員会」を立ち上げ、当時の分科会は、公共交通促進協議会、防犯協会、景観植栽委員会などの組織となって活動し、現在に至っています。

この度の相模原市自治連50周年記念誌の発刊にあたり、平成20年代の「田名のあすを拓く」活動の一端をご紹介します。

▶ 田名に電車が走るときまで

－見たい・乗りたい・みんなの願い－

大正末頃に田名まで線路を引く計画があり、現在も線路用地が残っています。その計画から80年後の平成12年、国の運輸政策審議会の答申を見て、田名は発憤。「小田急線の延伸が相模線まで」とある答申に、「田名へ」と記されるためにはどうすればいいのかを考え、17,170名の署名を集めて要望。「電車は来るのか」「いつ来るのか」「無駄なことはするな」などと言われながら・・・。

さらに、平成28年4月の答申を見ても田名はあきらめない。

「田名に電車が走り、相模川を越えて愛川・厚木方面に線路が続く」その時までは。

いつか「田名のあすを拓く」ために。

○田名地区公共交通整備促進協議会と交通諸課題への取り組み

平成19年3月、協議会を立ち上げ、小田急や行政へ小田急線延伸の要望、渋滞や事故の多い道路、路線バスだけの公共交通など地区内の交通課題に取り組みました。

○しおだ夢のかけはしの実現と地域の交通安全

夢の丘小学校の生徒の半数、約400名の児童が田名塩田から通っています。国道129号を横断する道路は危険で、児童の事故もあり、歩道橋設置を要望し、開校14年後の平成28年3月、歩道橋「しおだ夢のかけ橋」が完成し、通学路の安全が確保されました。



しおだ夢のかけはし

○コミュニティバスの導入検討

地区内の公共交通は、路線バスしかないことから、地域からコミュニティバス導入の要望が出され、導入基準、他地区の導入状況、地区内道路状況などを検討した結果、様々な利用希望による課題が多く、導入を断念しました。

○高田橋際交差点の渋滞対策

渋滞が激しい県道相模原愛川線の渋滞緩和のため、高田橋際交差点への右折車線を設置する交差点改良を要望、平成30年7月に完成しました。



愛川町側から見た高田橋際交差点

○バスターミナルの有効活用と路線バスの利便性向上

平成26年度末に待望のバスターミナルが完成した後、バスの発着の連携が悪いとなどの苦情も多いことから、行政、バス事業者と情報交換しながら、対応を検討しています。

加えて、市役所への直通バス、バスターミナル隣接地への交番移転についても要望しています。



田名バスターミナル

▶防犯や防災・福祉など地区内の安全安心に向けた取り組み

○青パトによるパトロールと防犯対策の強化

「常に人の眼がある」「住民の高い防犯意識」など、犯罪を起し難い環境づくりを防犯の柱として、向こう3軒両隣のつきあい、見守り活動を強化するとともに、防犯協会や自治会役員OBなどで、乗務員150名を構成し、青パト2台による防犯パトロールは、青パトの運行を防犯協会が担い、防犯の環境づくりや地域の防犯活動に大きく貢献しています。



地区巡回中の青パト

○防災訓練の実施

自治会員総出による黄色い小旗運動など、発災時の行動を体験して意識の向上を図る防災訓練を行っています。

しかし、避難所の指定区域、自治会未加入者と外国人対策、避難所運営などの課題への検討も急務です。



田名地区防災訓練

○自治会長経験者 (OB) による地域活動への支援

OB会は平成14年度から現在まで200名を超える自治会長で、活発に活動しています。

特に、泳げ鯉のぼり相模川、ふるさとまつり、相模原納涼花火大会などの地域イベントをはじめ、登下校の見守り、青パトの乗務など、広範囲にわたる地域活動への協力は、地区自治会連合会の大きな力になっています。



田名ふるさとまつり

大野中地区自治会連合会

活気あるまち、 自然と調和のとれたまち



この10年の概要

大野中地区は、国道16号線により東西に分断されています。古淵駅の開業以来30年を過ぎますが、この16号線の東西両側では、現在でも住宅開発が盛んです。

また、平成21年には大野台ゲイマーぶどう園跡地に製造業を中心とした16社が進出して企業団地Sia神奈川が誕生し、16号線の近くには、大型商業施設も開業しています。

平成30年4月現在、地区の人口は、63,587人(26,975世帯)、自治会加入世帯は17,844世帯(32自治会)で、10年前より共に増えています。また、この10年の間に、ブリリアテラス町田プライドヴィレッジ(平成21年度より)、シーズガーデンパティス町田(平成22年度より)、グレイスタウン大野台(平成23年度より)と3つの自治会が誕生しています。

木もれびの森を守る

大野中地区の大沼・大野台を中心とした73haに及ぶ「木もれびの森」(相模原市近郊緑地特別保全地区)は、市民共有のみどりの財産であり、大野中地区の宝物でもあります。

この宝物を守るため、現在9つの自治会が、街美化アダプト制度に協力し、清掃活動に携わっています。

また、地区連としても、平成29年11月に木もれびの森の中にあり相模原市の史跡に指定されている畑地かんがい用水路の清掃



古淵駅周辺



国道16号線



木もれびの森

を行うなど、木もれびの森の景観の保全に貢献しています。

さらに、平成30年2月には、「木もれびの森意見交換会」に近隣自治会が参加し、木もれびの森の保全や活動について活発な意見交換を行いました。



畑地かんがい用水路の清掃

▶ 地域防災力の向上

東日本大震災の発生は、地域の防災対策に大変大きなインパクトを与えました。

より実践的な訓練が求められ、当地区では情報伝達手段確保のため、PHS及び防災無線機を導入し、連合自主防災隊・単位自主防災隊・7つの避難所運営協議会・現地对策班を含めた連携訓練を続けています。

また、災害時要援護者への対応について、地区連と民生委員児童委員協議会との話し合いを2年かけて行いました。

この他にも、単位自主防災隊の訓練について議論をしていきますが、これらを重ねていくことで、地域防災力の向上を目指します。



防災訓練の様子

▶ 境川斜面緑地の整備と親水護岸

境川の斜面の整地や緑地保全も行われてきました。平成27年には、みどりと水辺に同時にふれあえるようにということで、古淵鶉野森公園の散策路が整備され、境川親水護岸への接続がなされました。経路には、地層が表れている貴重な露頭が見られ、三つの特徴的な火山灰層を観察することができます。

公園と水辺の空間、古淵鶉野森公園と親水護岸とを接続したことで、さらに自然を感じることもできる場としてグレードアップしています。



古淵鶉野森公園から続く親水護岸

▶活気あふれる“まち”に・・・

地区の活気を維持するために、自治会加入促進は大きな課題です。

平成24年度・25年度にはイトーヨーカドー古淵店で、平成30年にはニトリモール相模原で加入促進を行いました。さらに、平成28年度には、単位自治会のPRも取り入れた加入促進パンフレットを地区連として作成しました。今後も引き続き活動を行っていきます。

また、相模原よさこいRANBU!と大野中地区ふるさとまつりは、地区に活気を呼ぶ2大祭りです。地区連も実行委員会の中心として、その運営を担ってきました。祭りの賑わいを通じ、地区全体を活気づけられるよう、今後も創意工夫していく必要があります。

そして、平成27年9月30日に閉鎖した相模原市東清掃事業所の跡地（約20,000平方メートル）については、今後地域として大きな関心を持ってその動向を見守っていきたいと思います。



イトーヨーカドーでの加入促進

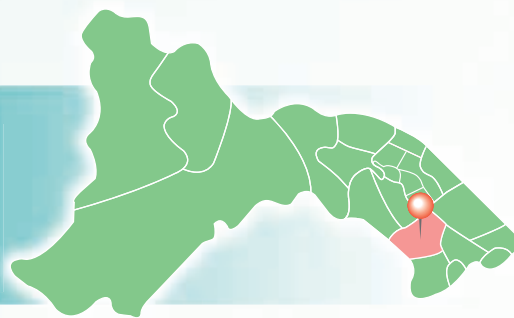


相模原よさこいRANBU!



大野中地区ふるさとまつり

歴史と自然と地域の和 未来につなぐ “いいまち あさみぞ”



地区の概要

清流と豊かなみどりに恵まれた歴史のあるまち麻溝地区は、北里大学一帯から相模川に至る起伏の多い地形で、相模原公園、横山丘陵、相模川段丘一帯の緑地と相模川をはじめ道保川・姥川・鳩川・八瀬川の5河川が流れている自然環境に恵まれた地域であるとともに、当麻山無量光寺、天応院、市場天満宮、八景の棚、下原やえざくら通り、更には旧街道の名残を残す道祖神や石物など史跡や名勝の多い地域でもあります。



道保川



県立相模原公園 せせらぎの園地内(フィッシングパーク跡地)



当麻山無量光寺



市場天満宮

一方、JR相模線原当麻駅を中心とした一帯は、区画整理事業によって整然とした街並みが形成されています。また、地区内には、大学、社会福祉施設、病院、公園、競技場等の様々な機関・施設が数多く存在し、特色ある環境を創出しています。

交通については、平成25年に「首都圏中央連絡自動車道（さがみ縦貫道）」の相模原愛川インターチェンジが整備され、周辺のまちづくりも進められており、そのアクセス道路となる「県道52号（相模原町田）」については、アクセス向上と安全確保のために、片側2車線の自動車道と自転車専用道路等を整備する、道路の拡幅整備事業が現在進められています。

さらに、相模大野駅から原当麻駅を結ぶ新交通システムの計画についても検討が行われており、交通の利便性の更なる向上が期待されているところです。

また、相模原愛川インターチェンジ周辺の当麻地区では、幹線道路沿道という立地特性を生かし、周辺環境にも配慮しながら、魅力ある土地利用を図る拠点整備が進められています。

▶地区自治会連合会の活動

麻溝地区自治会連合会は、23の自治会で構成されており、地域住民の福祉の向上を図るため、自治連が主体となり、地区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、観光協会、消防団等と連携を図りながら、福祉、交通安全、防犯、防災、スポーツ、文化、環境衛生等の様々な活動を実施しています。

特に、ふるさとまつりや防災訓練では、地区を取り巻く環境の変化や地域住民の意向等を反映し、毎年趣向を凝らした行事を開催しています。



八景の棚



下溝八幡宮



相模原愛川インターチェンジ付近



ふるさとまつり

この10年の地区の動き

平成21年～23年	相模原麻溝公園競技場（平成26年3月より名称「相模原ギオンスタジアム」）改装、区画拡張整備
平成25年3月	相模原愛川IC開通
平成25年4月	相模原当麻宿地区土地区画整理事業開始
平成26年5月	ボランティアセンターあさみぞ開所
平成26年11月	下溝八幡宮再建（平成24年4月4日の火事により本殿消失）
平成28年8月	JR相模線「下溝駅」新駅舎完成
平成29年3月	「麻溝公園前交番」開署
平成30年4月	麻溝小学校新校舎完成
平成31年2月	麻溝まちづくりセンター・麻溝公民館移転

	世帯数	人口	自治会加入世帯数	自治会加入率
平成20年	6,329	17,858	3,728	58.9%
平成21年	6,342	17,847	3,742	59.0%
平成22年	6,440	17,965	3,742	58.1%
平成23年	6,440	18,030	3,771	58.6%
平成24年	6,517	18,090	3,844	59.0%
平成25年	6,524	18,035	3,844	58.9%
平成26年	6,647	18,156	3,839	57.8%
平成27年	6,709	18,111	3,840	57.2%
平成28年	6,562	18,024	3,836	58.5%
平成29年	6,662	17,667	3,869	58.1%
平成30年	6,844	18,089	3,861	56.4%

（各年4月1日現在）

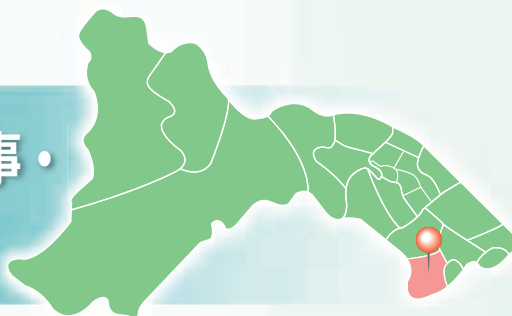
世帯数及び自治会加入世帯

世帯数は、この10年で515世帯増加していますが、自治会加入世帯の増加は、133世帯となっており年々自治会への加入世帯数が減少しています。この傾向は、市自治会連合会全体の動向からも同様の傾向と思われ今後の課題であります。

なお、麻溝地区の平均年齢は、平成30年4月現在で43.89歳と南区全体の平均年齢45.80歳と比較して若い世代が多い地区となっており、高齢化率も低くなっています。この若い世代を中心としたまちづくりが期待されるところです。

新磯地区自治会連合会

豊かな自然環境が満ち溢れ、伝統行事・文化等を継承するまち「あらいそ」



地区の概要

新磯地区は相模原市の南端に位置し、豊かな自然環境に満ち溢れ、遠景には、大山・丹沢連峰が望める地域に約5,000世帯、14,000人が暮らしております。

また、新磯桜まつり、相模川芝ざくらまつり、相模の大凧まつり、相模川帆かけ舟実演会、勝坂遺跡縄文まつり、新磯ざる菊花見会、新磯菊花展等の伝統・文化行事が継承されており、古くは縄文時代を代表する勝坂式土器が出土した地として名高い地域です。平成27年からは新磯の田園風景にふさわしい新磯かかしまつりが開催されています。

新磯地区自治会連合会は33自治会で組織された「上磯部」「下磯部」「勝坂」「新戸」の4自治会連合会で構成されています。

「豊かな自然環境が満ち溢れたここ新磯地区で、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生き生きと暮らせるよう、安全で安心な地域コミュニティの更なる活性化を目指そう！」をスローガンに掲げ、公民館、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ、新磯小学校、相陽中学校等地域の諸団体と連携を強化しながら、安全・安心なまちづくりを目指し取り組んでおります。



新磯地区最大のまつり「相模の大凧まつり」

今後の課題と取り組み

○防災意識の醸成と地域防災力の向上

- ・災害時要援護者避難支援体制の確立
- ・消防団の活動や組織の抜本的な見直しを図り、防災体制を強化する
- ・災害時のハザードマップに基づき、洪水、土砂災害、地震など災害の種別ごとに避難所を別の場所に設定する検討を進める

○安全で安心して暮らせるまちの実現

- ・通学路の安全確保のため、道路の拡幅工事、歩道の整備
- ・市道新戸相武台の拡幅工事や、大凧まつり、芝ざくらまつりなどのイベント開催時に多くの往来がある近江屋道の歩道などの地区内の道路整備



自治会加入促進のぼり

○住環境・生活環境の充実

- ・交通不便地区の生活交通確保のため、コミュニティバスの運行、乗合タクシーの運行や、既存バス路線の見直し、増便、停留所の見直しを働きかける
- ・誰もが気軽に安心して集える場の創出や、地域の人たちがともに支えあい協力しながら、住みよいまちづくりを進めていく意識の醸成

○福祉コミュニティの形成

- ・買い物代行サービスの提供や移動販売の実施などによる買い物弱者支援

○豊かな自然環境を生かした地域活性化

- ・農業公園や相模川親水広場など、遊具がなくてもボール遊びや水に親しむことができる場所の新設

○観光拠点の整備

- ・相模原市磯部民俗資料館が保有する様々な収蔵品の展示場所を、勝坂遺跡公園内に整備し、観光資源の一つとして活用する
- ・JR相模線相武台下駅やその周辺の階段、ベンチ、時計などをノジマステラ神奈川相模原のチームカラーで装飾、ラッピングするなど、チームと連携した観光振興を進める



地区総合防災訓練



平成30年で67回を迎えた「ふるさとまつり、レクリエーション大会」



新磯地区観光案内モニュメント

▶新磯地区この10年間の歩み

- 平成21年 3月 新磯出張所・新磯公民館改修工事竣工
- 平成22年 2月 新磯地区を練習拠点とする女子サッカーチーム
「ノジマステラ神奈川相模原」が発足
- 平成22年 4月 政令指定都市移行に伴い、「新磯出張所」から
「南区役所新磯まちづくりセンター」に名称
変更政令指定都市移行記念「風と大地の饗宴」
＜大凧揚げ＞開催
史跡勝坂遺跡公園開園
- 平成22年 5月 神奈川県主催「水防演習」を実施
- 平成25年 4月 「風と花の観光休憩所あらいそ」開設
- 平成27年 3月 新磯橋付近に観光モニュメントが完成
- 平成27年 3月 第20回新磯桜まつり記念祭を開催
- 平成27年 9月 第1回「新磯かかしまつり」開催
- 平成27年10月 「新磯見守りステーション」が設置される
- 平成28年 3月 自治会未加入全世帯アンケートの実施
- 平成28年 7月 JR相武台下駅・下溝駅がリニューアル
- 平成29年 3月 自治会加入促進用のぼり旗・横断幕を作成・設置
- 平成29年 9月 市地域会場として新磯地区総合防災訓練を実施
- 平成30年 5月 神奈川県主催「水防演習」を実施
- 平成30年 6月 プレ実証フィールドグラウンドの自治会使用開始



実りの秋は「かかしまつり」



新磯桜まつり舞踊パレード



毎年見事に咲き誇る芝ざくら

地域の拠点「そあら」と ともに



▶ 相武台地区の概要

相武台地区は、市の南西部に位置し、座間市とキャンプ座間に隣接しています。

市内の地区で最も狭い面積（1.25平方km）に、小田急線相武台前駅周辺の商業地域や大規模な集合住宅（相武台団地やグリーンパーク）を有した、市内で最も人口密度が高い地区です。また、高齢化も著しく進み、高齢化率32%と市内でも高い地域となりました。

地区自治会連合会においては、1970年（昭和45年）に14自治会4,006世帯で発足し平成30年4月1日現在、32自治会（相武台前町内会自治会連合会、相武台団地連合自治会、相武台グリーンパーク自治会連合会、5単位自治会）に、約6,500世帯の方が加入しています。

自治会加入率は、68.20%と市内平均（54.00%）を大きく上回っており、自治会活動への関心が高い地区となっています。また、「みんなでつくろう安全・安心のまち」をスローガンに防犯・交通安全・防災、ボランティア活動などが活発に行われています。

ふるさとまつり、盆踊り大会、どんど焼きなどに加え、平成22年度に地域活性化の取り組みとして始まった「相武台芸術祭」が地域イベントとして定着しつつあるなど、地域の方々がふれあうことの出来る場づくりが地域のみなさまの協力により実践されています。

平成29年度は、災害時の防災情報を掲載した地区防災マップの作成や、地域の小学校区ごとに交通事故等の危険箇所を掲載した安全・安心マップを作成するなど、安全に安心して暮らせるまちづくりを目指しています。



相武台ふるさとまつり

▶地域の拠点「そあら」の誕生

旧相武台まちづくりセンター・公民館は、昭和59年4月に開館してから30年が経過し改修の時期を迎えていました。地域の方々から「当該の施設では手狭で改修だけでは、大会議室の拡充など、利用者のニーズに応えられないため、旧磯野台小学校跡地に移転したい。」との要望があり、それらの意見に対し、市は検討して方針が決定（「旧磯野台小学校を活用し改修して移転」）となりました。

その後、平成27年8月から工事が着工し、平成28年9月に完成し、新たな相武台まちづくりセンター・公民館など複合施設として整備されました。

新たな施設には、大会議室の拡充や工作室・多目的室などが新設され、また、現地対策班の活動スペースも確保され、地区連合自主防災隊と各自治会とも連携して、地域の防災力の向上を目指しています。

移転先には、相模原看護専門学校、相武台こどもセンター、グラウンド及び体育館があり、移転した相武台まちづくりセンター、相武台公民館、相武台高齢者支援センターを含め全ての施設が、相武台地区の新たな拠点として、親しみをこめてもらうために、地域住民に「愛称」の募集を行い、ひらがなで「そあら」という愛称に決定しました。

「そあら」については、女子美術大学の学生にロゴマークのデザインの作成を依頼し、看板等を作成・設置しました。今後は「そあら」が地域に定着し、地域の拠点に相応しい施設となるよう取り組んでいきます。



移転後の相武台まちづくりセンター・公民館



地域の拠点「そあら」ロゴマーク

▶地区内の主な出来事（平成20年以降）

- 平成22年 4月 県立相武台高等学校が県立新磯高等学校との統合再編により、県立相模原青陵高等学校として開校
- 平成28年 9月 地域の拠点「そあら」開所
相武台地区社会福祉協議会による交流拠点
「ひだまり相武台」オープン
- 平成29年 3月 相武台グリーンパーク災害対策合同委員会の取組『大規模団地住民約4,000人の震災避難訓練』が総務省消防庁主催の「第21回防災まちづくり大賞」を受賞
- 平成29年10月 市立相武台小学校創立50周年祈念式典の開催
- 平成30年 7月 みんなの福祉フェスタ（旧「福祉のつどい」）の開催

▶これからの相武台に向けて

地区の周辺では、将来に向けた大規模の開発事業（「麻溝台・新磯野地区整備促進事業」）が開始されています。現在の進捗状況は、先行事業として第一整備地区の取り組みが始まっています。この開発事業は、産業・みどり・文化及び生活が複合的に融合した新たな拠点となり、相武台地区を含めた周辺地区とともに、新たなまちづくりが進んでいます。

2020年には創立50周年を迎えますが、自治会加入世帯が減少していく中でよりよい自治会活動を継続していくためには、自治会員一人ひとりの努力では限界もあるので、行政と協働をしながら地域の拠点「そあら」とともに地区の活性化を目指してまいります。



第21回の防災まちづくり大賞受賞

相模台地区自治会連合会

自分たちのまちは自分たちで
守る！活かす！相模台



▶ 地区の概要

相模台地区は、小田急相模原駅の西側に位置しています。駅北口から独立行政法人国立病院機構相模原病院までの約1kmの街区に沿って連なるサウンロード相模台商店街が、地域の中心に、位置しています。

相模台地区自治会連合会は、27の単位自治会から構成され、地域防犯・防災活動をはじめ、交通安全運動など活発に地域活動が行われています。

また、小田急相模原駅北口地区の再開発により「ラクアル・オダサガ」と「ペアナードオダサガ」が新たな顔となっており、行幸道路（県道51号）の拡幅や商業施設の充実により、快適で便利なまちづくりが進められています。

このほか、地域住民の連帯も強く、自治会ごとに行われる盆踊りなどの祭りも活発に行われ、会員相互の親睦が図られています。



小田急相模原駅北口



地域の夏祭り

▶ 地区の活動

地域住民が自立し、地域の活性化のために努力を惜しまない相模台地区は、様々な祭りを実行委員会が運営してきました。

また、防犯意識も高く、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に児童の登下校の見守りや、防犯パトロール活動を自治会主体で積極的に実施しています。平成30年には、日本財団の助成を受け、白黒の青色パトカーを導入し、自治会だけではなく、PTAや地域の協力を得て活発な防犯活動を実施しています。



青パトの出発式には、たくさんの方が参列

▶ 主なできごと

- 平成23年度 第1回「芸術フェスタ」開催
- 平成25年度 とっさの時の安心ケース配付
- 平成26年度 第1回「おださがロードフェスタ」開催
- 平成26年度 第1回「相模台インターナショナルフェスタ」開催
- 平成28年度 青色パトカー配備・活動開始
- 平成29年度 サポートセンター楽らくの開設
- 平成29年度 相模台地区シンボルマーク制定
- 平成29年度 相模台地区防災マップ更新
- 平成30年度 白黒の青色パトカー導入
- 平成30年度 麻溝台・新磯野地区整備事業着工
- 平成30年度 第1回「協育ネットワーク連絡会」開催
- 平成30年度 がんばろう学習支援センター開設



おださがロードフェスタ



青色パトカー

▶ 相模台地区のシンボルマーク

平成29年に、地域に愛されるシンボルマークが完成しました。コンセプトは、相模台の「S」大人も子供も皆が笑顔で過ごせるようにと思いを込めています。自然豊かな部分を「芽」で、水道道などの水を「水滴」で表しました。相模台の魅力をもっとPRできるとても可愛いシンボルマークだと喜ばれています。



シンボルマーク

▶ 自主防災活動

近年の災害発生に伴い、避難所と自主防災隊の連携強化に取り組んでおります。全自主防災隊が無線機を保有し、自主防災隊と現地対策本部・避難所が、年に複数回の通信訓練を行っています。

9月の第1日曜日を「相模台防災の日」とし、地区全体で総合防災訓練を実施しています。防災活動は、自治会と、民生委員・学校・福祉施設等、地域一体となって災害時要援護者支援の取り組みなどを実施しています。また、相模台地区防災ネットワーク協議会を組織し、日頃から顔の見える関係を築き、災害に備え、何が足りていないか、どう対処すればよいかを協議しています。

▶ 地区の今後

今後、地域と学校の連携強化を図る目的で設置した「協育ネットワーク連絡会」の充実と、子どもの学習支援の拡大を目指します。

また、麻溝台・新磯野地区整備事業が進み、まちづくり区域の見直しが行われることから、更に時代・地域のニーズにあった魅力的な「まちづくり」が求められております。相模台地区自治会連合会では、これらの課題に向けて地域一丸となって取り組んでまいります。



救援物資引き渡し訓練



炊出し配給訓練

大野南地区自治会連合会

若い世代が選ぶ魅力ある コンパクトシティ 大野南



▶大野南地区について

大野南地区は、小田急線相模大野駅を中心として南北に広がる地域で、市の南の玄関口として位置づけられています。相模大野駅は新宿方面や藤沢・小田原方面へのアクセスの分岐点でもあり、特急や急行も停車し、1日の乗降客は平成29年度で13万人を超えています。また、相模大野駅の近くには国道16号と県道51号が交差しており、交通の拠点でもあります。

駅周辺には相模女子大学グリーンホールや相模大野図書館、南保健福祉センター、相模大野南メディカルセンター、相模大野中央公園、市唯一の大型百貨店「伊勢丹」、小田急ホテルセンチュリー相模大野などがあるほか南区合同庁舎・南消防署などの行政機構も近くに設置されています。

また、相模女子大学や県立高校などの教育施設や、多くの医療施設も駅周辺に集まっています。さらに、平成25年の相模大野駅西側再開発により、西側地区にも大型ショッピングモールや大規模集合住宅を含む大型複合施設が完成しました。これにより従来からの商業地区と合わせ、大型の商業地区が誕生しました。

このように当地区は、行政機構、商業、医療、教育、文化施設が駅を中心に集まり、いわゆるコンパクトシティとして、利便性の良さや子育て環境の良さ、医療の充実などから住民が増加し続けております。住宅環境としては、多くの戸建て住宅地や大規模集合住宅が立ち並びながら、広い面積の農地も存在し、市内で一番人口の多い地域でもあります。人口の増加は今後もしばらく続く予想ですが、自治会加入率が一向に上がらないのが大きな課題といえます。また、若い世代が大勢転入し続けているので、小中学校の教室不足も今後懸念されます。



相模大野駅周辺の町並み

▶大野南地区自治会連合会

自治会連合会には32の単位自治会が加盟しています。世帯数は18,682世帯（平成30年現在）です。32の自治会の中では、自治会法人谷口自治会が最も古い歴史を持っています。谷口自治会に伝わる古文書に、明治30年頃の「谷口区協議費徴収原簿」（現在の自治会費）という文書が見つかり、自治会の歴史

が120年を超えて現在まで続いていることが最近になってわかりました。いわば“レジェンド”ともいえる谷口自治会の活動は、他の自治会へ大きな影響を与えてきました。相模原の伝統や文化、風習を伝え、特に相模大野の今昔については、「語り部」のように新住民たちに歴史を語るができる人たちがいまだにたくさん存在しています。このように新旧の住民たちが一緒に意見交換しながら活動しているのが大野南地区自治会連合会です。

▶大野南地区自治会連合会の主な事業

大野南地区では、防災・安全・安心、地域福祉、子育て支援等について自治会と関係団体とが連携・協調しながら活動をしています。その中でも年々子ども達が増え続けており、自転車事故も増加していることもあり、子ども達の安全・安心と健やかな成長を重点に置いた事業を実行しています。

- ・子ども向け防災イベント
「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」
- ・ふるさとまつり…上鶴間地区・大野南ふるさとまつり
- ・防災用情報無線機を使った情報伝達訓練
- ・スクアードストレイト事業…南区安全・安心まちづくり推進協議会大野南支部として開催
- ・自治会加入促進事業

▶「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」

「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」は、若いファミリーや子ども達を対象に、自治会員という枠を外し、防災・減災意識を高めると同時に、イザという時に役に立つ技や知恵を身につけてもらう防災イベントです。小さい頃からゲーム感覚で楽しみながら防災訓練に馴染んでいくという種を蒔きつつ、地域に貢献できる大人に成長するように願っています。この地区で育つ大勢の子ども達が自助・共助の力を繰り返し学び実践するという取組みです。



対決バケツリレー 水を次々に競争して運んでいます！

▶ふるさとまつり

大野南地区では8月と9月にふるさとまつりを開催しています。まつりのステージでは、地区の人たちが日ごろの練習の成果を披露したり、小中学校、高等学校の生徒による演奏などは大人気です。各自治会や各種団体の模擬店など、地域の親睦・交流の場であり、子ども達への「ふるさとづくり」の場にもなっています。それぞれの会場で



第30回上鶴間地区ふるさとまつり(会場:谷口中学校)

は自治会加入促進事業
や災害復興支援の活動
も実施し、集まった募
金は直接被災地に送っ
ています。



第30回上鶴間地区ふるさとまつり(会場:谷口中学校)



第41回大野南ふるさとまつり(会場:ポーン相模大野)



▶スケアードストレイト事業

大野南地区は自転車事故が多く、南区安全・安心まちづくり推進協議会大野南支部の事業として「スケアードストレイト」を毎年実施しています。ルール違反の自転車運転のさまざまな例による事故を目の当たりにすることによって、交通事故の恐ろしさを親子で体験し、ルールやマナーを守った自転車運転を学ぶ場となるように取組んでいます。この事業は地区内の小学校の校庭で実施していますが、相模原南警察署の協力による親子向けの交通安全講話もあり、交通安全知識の高揚を図り、地区内の交通事故を少しでも減らしたいと願う活動です。



スタントマンの迫真の演技

東林地区自治会連合会

心ふれあう 住みよいまちづくり



▶ 地区の概要

東林地区は、小田急線の東林間駅と小田急相模原駅を中心とした商業で賑わう地域と、落ち着いた住宅地からなる生活の利便性の高い地域です。

地区内には、横浜水道道や相模緑道緑地、ふれあいの森や保存緑地、点在する公園に緑が残されており、健康づくりや憩いの場として親しまれています。

また、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、公民館と自治会連合会が連携を密に、さらに、老人会、交通安全母の会、商店街をはじめ各種団体との相互の協力により、様々なイベントや取り組みを行い、誰もが安全で安心して暮らすことができる東林地域を創っています。

▶ 東林ふるさとまつり

毎年9月の「東林ふるさとまつり」は、東林小学校と東林公民館の2会場において、地域総ぐるみにより、東林地区に住み、働き、学ぶ全ての人たちが心のかよいあう明るいふるさとを目指して開催し、毎年大盛況の中、地域の交流とふれあいが図られています。



東林ふるさとまつり

▶ 防災・防犯

東林地区では、特に防災・防犯に力を入れております。

防災面の特徴的な活動としては、平成26年度から連合自主防災隊、5箇所の避難所運営協議会と現地対策班が連携した地区全体の防災訓練を、平成29年度からは体験型の防災訓練を実施して欲しいとのアンケート結果を踏まえ、「防災体験デー」を6月に、消火器訓練や心肺蘇生など、参加者が体験することを目的とした訓練を実施しています。



防災体験デー

また、市の地域活性化事業交付金を活用した、防災マップの作成も行いました。

防犯面では、防犯パトロールを毎月第2、第4金曜日に東林間駅と小田急相模原駅を起点に実施しているほか、年末年始の防犯パトロールも各自治会で行うとともに、平成26年度からは「青色防犯パトロール」の免許取得の講習会とパトロールを実施しています。

当初の免許取得者は40名でスタートしましたが、約5年で80名を超える免許取得者となり、地域の安全・安心を守っています。



防災訓練



青色パトカー出陣式

▶ 地域での交流など

毎年2月と7月には相模カンツリー倶楽部をお借りして、「東林チャリティーゴルフ大会」を開催しており、毎回大盛況の中、地区社会福祉協議会と東林間サマーわぁ！ニバルに寄付を行っています。

この他の活動としては、毎年8月に東林間商店街振興組合が中心となり本市の観光イベントとなっている阿波踊りの祭典「東林間サマーわぁ！ニバル」が行われており、自治会連合会では、踊り子のための3箇所の給水所の運営や中学生ボランティアの活動のサポートなどを担っています。

また、東林地区内の高等学校である東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園に出場した際には、地域全体で応援を行っています。

これからも、地域の様々な団体や行政と力を合わせて、安全で安心して暮らせる「心ふれあう住みよいまちづくり」を進めてまいります。



東林間サマーわぁ！ニバル



チャリティーゴルフ大会

▶ 平成21年度～平成30年度の主なできごと

- 平成21年度 第10回チャリティーゴルフ大会開催
市立東林ふれあいセンター開館
- 平成23年度 第20回東林間サマーわぁ！ニバル開催
東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園（春）で優勝
- 平成26年度 青色防犯パトロール開始
第20回チャリティーゴルフ大会開催
第40回東林地区体育祭開催
相南地区雨水幹線整備工事開始
- 平成27年度 東林間駅西口エレベータ設置工事着工
東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園（夏）で優勝
- 平成28年度 東林間駅西口エレベータ設置完成
市立相南児童館開設
- 平成29年度 「防災体験デー」開始
第40回東林ふるさとまつり開催
第30回ふくしまつり開催
相南地区雨水幹線整備工事完成
- 平成30年度 境川第28バイパス雨水幹線整備工事開始

3

資料編

市連加入自治会及び世帯数の推移
市連歴代理事名簿
市連地域活動功労者(個人)
市連地域活動功労者(団体)
自治会活動功労者感謝状(市長感謝状)受賞者
相模原市表彰受賞者(市政功労 個人)
叙勲[旭日単光章]受章者
自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰
協賛のお礼



市連加入自治会及び世帯数の推移

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年					
市世帯数		296,789	299,634	304,014	307,300	309,946					
市人口		710,336	712,604	717,684	718,695	718,602					
自治会連合会	加入世帯	180,204	180,211	179,737	179,039	179,231					
	加入率	60.7	60.1	59.1	58.3	57.8					
	地区連数	22	22	22	22	22					
	自治会数	592	593	592	594	593					
区	地区	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数
緑区	橋本	32	15,655	32	15,510	31	15,599	32	15,362	32	15,280
	大沢	21	7,417	21	7,360	21	7,272	21	7,186	20	7,107
	城山	12	6,099	12	6,101	12	6,059	12	6,022	12	5,970
	津久井	63	8,073	63	8,016	63	7,913	63	7,792	63	7,704
	相模湖	35	2,596	35	2,586	34	2,530	34	2,576	34	2,538
	藤野	49	2,932	50	2,907	50	2,884	50	2,846	50	2,833
	緑区計	212	42,772	213	42,480	211	42,257	212	41,784	211	41,432
中央区	小山	9	5,423	9	5,596	9	5,504	9	5,540	9	5,671
	清新	16	6,295	16	6,384	16	6,258	16	6,116	16	6,091
	横山	22	4,140	22	4,103	21	4,120	21	4,090	21	4,040
	中央	33	7,701	33	7,533	33	7,640	33	7,556	33	7,545
	星が丘	15	4,133	14	4,071	14	4,122	14	4,130	14	4,080
	光が丘	28	7,984	28	7,952	28	7,984	29	8,015	29	7,956
	大野北	33	14,135	33	14,168	33	14,049	33	14,034	33	14,057
	田名	15	7,571	15	7,619	15	7,532	15	7,505	15	7,490
	上溝	16	7,790	16	7,902	16	7,688	16	7,429	16	7,395
	中央区計	187	65,172	186	65,328	185	64,897	186	64,415	186	64,325
南区	大野中	30	17,772	31	17,715	32	17,781	32	17,845	32	17,915
	大野南	31	17,985	31	18,197	32	18,340	32	18,404	32	18,482
	麻溝	23	3,743	23	3,742	23	3,771	23	3,844	23	3,844
	新磯	33	3,640	33	3,601	33	3,603	33	3,572	33	3,637
	相模台	28	12,213	28	12,250	27	12,131	27	12,242	27	12,334
	相武台	32	6,791	32	6,752	33	6,723	33	6,714	33	6,624
	東林	16	10,116	16	10,146	16	10,234	16	10,219	16	10,688
	南区計	193	72,260	194	72,403	196	72,583	196	72,840	196	73,524

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年					
市世帯数		314,209	317,785	313,365	316,648	321,067					
市人口		721,178	722,534	721,078	720,986	722,334					
自治会連合会	加入世帯	178,290	177,218	176,438	175,238	173,362					
	加入率	56.7	55.8	56.3	55.3	54.0					
	地区連数	22	22	22	22	22					
	自治会数	595	594	593	592	592					
区	地区	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数	自治会数	加入世帯数
緑区	橋本	32	15,179	32	15,014	32	14,683	32	14,552	32	14,304
	大沢	20	7,035	20	6,905	18	6,626	17	6,479	17	6,338
	城山	12	5,928	12	5,895	12	5,912	12	5,887	12	5,823
	津久井	63	7,629	63	7,490	63	7,269	63	7,089	63	6,937
	相模湖	33	2,539	33	2,491	33	2,489	32	2,425	32	2,390
	藤野	50	2,809	50	2,771	50	2,724	50	2,683	50	2,636
	緑区計	210	41,119	210	40,566	208	39,703	206	39,115	206	38,428
中央区	小山	9	5,596	9	5,548	9	5,558	9	5,514	9	5,576
	清新	16	6,126	16	6,168	16	6,160	16	6,078	16	6,006
	横山	22	3,980	23	3,994	23	4,028	23	4,021	23	3,833
	中央	34	7,591	34	7,518	33	7,401	33	7,333	33	7,325
	星が丘	14	3,975	14	3,859	14	3,870	14	3,874	14	3,844
	光が丘	29	7,856	29	7,778	30	7,877	30	7,836	30	7,745
	大野北	33	14,034	33	13,990	34	13,997	35	13,946	35	13,848
	田名	16	7,460	16	7,440	16	7,381	16	7,222	16	7,096
	上溝	16	7,384	16	7,314	16	7,196	16	7,077	16	6,902
	中央区計	189	64,002	190	63,609	191	63,468	192	62,901	192	62,175
南区	大野中	32	17,852	32	17,832	32	17,873	32	17,885	32	17,844
	大野南	32	18,542	32	18,588	32	18,860	32	18,936	32	18,682
	麻溝	23	3,839	23	3,840	23	3,836	23	3,869	23	3,861
	新磯	33	3,559	33	3,535	33	3,516	33	3,480	33	3,445
	相模台	27	12,406	27	12,379	27	12,367	27	12,327	27	12,256
	相武台	33	6,612	32	6,539	32	6,479	32	6,450	32	6,422
	東林	16	10,359	15	10,330	15	10,336	15	10,275	15	10,249
	南区計	196	73,169	194	73,043	194	73,267	194	73,222	194	72,759

市連歴代理事名簿

地 区	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名
市連 会長		細谷 昇 (大野中)		細谷 昇 (大野中)		田所 昌訓 (田名)		田所 昌訓 (田名)		田所 昌訓 (田名)
小 山	理事	武井 弘吉	理事	武井 弘吉	理事	武井 弘吉	理事	武井 弘吉	理事	武井 弘吉
清 新	監事	佐藤 彰夫	監事	佐藤 彰夫	監事	佐藤 彰夫	理事	田代 明寛	理事	田代 明寛
横 山	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕
中 央	会計	代田 昭	会計	代田 昭	理事	代田 昭	理事	代田 昭	理事	代田 昭
星が丘	理事	野中 保	理事	野中 保	理事	野中 保	理事	竹田 幹夫	理事	竹田 幹夫
光が丘	理事	平林 清	理事	平林 清	会計	平林 清	会計	平林 清	副会長	平林 清
橋 本	理事	鯉登 茂	理事	鯉登 茂	理事	鯉登 茂	理事	草野 寛	理事	草野 寛
大野北	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博
大野中	会長	細谷 昇	会長	細谷 昇	理事	矢沢 静雄	理事	矢沢 静雄	理事	森 逸雄
大野南	理事	川上 裕男	理事	有泉 健一	理事	有泉 健一	理事	有泉 健一	理事	有泉 健一
大 沢	理事	八木 次夫	理事	八木 次夫	理事	八木 次夫	監事	八木 次夫	会計	八木 次夫
田 名	副会長	田所 昌訓	副会長	田所 昌訓	会長	田所 昌訓	会長	田所 昌訓	会長	田所 昌訓
上 溝	理事	長谷川光義	理事	長谷川光義	理事	長谷川光義	理事	長谷川光義	理事	長谷川光義
麻 溝	理事	追切 睦廣	理事	追切 睦廣	理事	追切 睦廣	理事	追切 睦廣	理事	石井 正彦
新 磯	理事	岡田 茂利	理事	岡田 茂利	監事	岡田 茂利	監事	岡田 茂利	監事	岡田 茂利
相模台	理事	坂本 堯則	理事	坂本 堯則	理事	坂本 堯則	理事	坂本 堯則	理事	坂本 堯則
相武台	理事	丸塚 幾男	理事	丸塚 幾男	理事	佐藤あつ子	理事	佐藤あつ子	理事	佐藤あつ子
東 林	副会長	金子 匡甫	副会長	金子 匡甫	副会長	金子 匡甫	副会長	金子 匡甫	副会長	金子 匡甫
城 山	理事	藤井 保	理事	藤井 保	理事	水戸 隆	理事	水戸 隆	監事	水戸 隆
津久井	監事	小野沢良雄	監事	小野沢良雄	副会長	小野沢良雄	副会長	小野沢良雄	理事	小野沢良雄
相模湖	理事	加藤 純久	理事	加藤 純久	理事	澤塚 正史	理事	澤塚 正史	理事	澤塚 正史
藤 野	理事	山崎 光正	理事	山崎 光正	理事	小林 満	理事	小林 満	理事	小林 満

地 区	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名	役職	氏 名
市連 会長		田所 昌訓 (田名)		田所 昌訓 (田名)		田所 昌訓 (田名)		坂本 堯則 (相模台)		坂本 堯則 (相模台)
小 山	理事	武井 弘吉	理事	石井今朝太	理事	石井今朝太	副会長	石井今朝太	理事	石井今朝太
清 新	理事	田代 明寛	理事	田代 明寛	理事	田代 明寛	理事	田代 明寛	会計	田代 明寛
横 山	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕	理事	小林 茂裕	理事	吉田 貴亮	理事	吉田 貴亮
中 央	理事	代田 昭	理事	代田 昭	理事	牛尾 良一	理事	牛尾 良一	理事	牛尾 良一
星が丘	理事	竹田 幹夫	監事	竹田 幹夫	監事	竹田 幹夫	会計	竹田 幹夫	副会長	竹田 幹夫
光が丘	副会長	平林 清	副会長	平林 清	副会長	平林 清	理事	割柏 秀規	理事	割柏 秀規
橋 本	理事	草野 寛	副会長	草野 寛	副会長	草野 寛	副会長	草野 寛	副会長	草野 寛
大野北	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博	理事	河本 博
大野中	理事	森 逸雄	理事	森 逸雄	理事	森 逸雄	監事	森 逸雄	監事	森 逸雄
大野南	理事	有泉 健一	理事	大木 恵	理事	大木 恵	理事	大木 恵	理事	大木 恵
大 沢	会計	八木 次夫	理事	八木 次夫	理事	中山 光明	理事	中山 光明	理事	中山 光明
田 名	会長	田所 昌訓	会長	田所 昌訓	会長	田所 昌訓	理事	志村 勝美	理事	志村 勝美
上 溝	理事	長谷川光義	理事	長谷川光義	理事	小林 充明	理事	小林 充明	理事	小林 充明
麻 溝	理事	石井 正彦	理事	石井 正彦	理事	石井 正彦	副会長	石井 正彦	副会長	石井 正彦
新 磯	監事	岡田 茂利	理事	穂苅 健二	理事	穂苅 健二	理事	穂苅 健二	理事	穂苅 健二
相模台	理事	坂本 堯則	副会長	坂本 堯則	副会長	坂本 堯則	会長	坂本 堯則	会長	坂本 堯則
相武台	理事	佐藤あつ子	理事	佐藤あつ子	理事	佐藤あつ子	理事	瀬尾 守一	理事	瀬尾 守一
東 林	副会長	金子 匡甫	監事	金子 匡甫	監事	金子 匡甫	理事	嘉松 皓	理事	嘉松 皓
城 山	監事	水戸 隆	理事	山下 利麿	理事	山下 利麿	監事	山下 利麿	監事	山下 利麿
津久井	理事	小野沢良雄	理事	落合 勝司	理事	落合 勝司	理事	落合 勝司	理事	落合 勝司
相模湖	理事	澤塚 正史	会計	澤塚 正史	会計	澤塚 正史	理事	森久保眞二	理事	森久保眞二
藤 野	理事	小林 満	理事	森川 哲郎	理事	森川 哲郎	理事	森川 哲郎	理事	森川 哲郎

市連地域活動功労者（個人）

年度 地区	平成21年				平成22年			
小山	安藤 孝洋	宮田 幸男	阿部 公作	内田 弘也	梅谷 正和	秋本 昭一	山田征四郎	岩本 朝子
清新	田邊 智子	金子 稔			田代 明寛	松井 隆	本所 要	
横山	長谷川哲雄	山本 榮治			田口 優美	延 昭徳		
中央	小金澤近雄 佐藤 敏雄	中島 國雄 林 加代子	永田 基浩	瀧 幸男	三濃和則文 大畑 勝義	関口 靖二 豊田 朗	小林 記久	倉澤 良明
星が丘	岡崎 繁和	松村 義男	吉川 順一	成川 猛	鈴木 末廣	奥村 光弘	若林 勝敏	
光が丘	中村 正義 新沼 浩悦	板垣 保宏	岡林 俊一	会田 昌弘	穴戸 重彦 堀江 宏美	大槻 玲子	今井 俊男	小倉 偉男
橋本	尾野 輝男 鈴木 直猪	浅川 正雄 倉橋 美明	佐野 正幸	大内聰一郎	吉弘 靖 関 欣人	遠藤 昌明 金子 要	越智 士郎	河内 孝裕
大野北	岡本 成靖 田中 成吉	高橋 作治 大塚 晴美	高柳 健治	河本 武夫	岡本 誠 加藤 凱夫	磯野 誠	岩見 清一	志田 紀子
大野中	石田孝次郎 岩本 節秋	干川 竹治	太田 元一	中村クミコ	高橋 功征 篠田 成次	今井 喜平	宮本 輝男	野口 裕光
大野南	今井 浩志 久間 重治	廣田 上司 松本 勝幸	濱田 陽一	長谷川郁子	大野喜久子 平井 芳治	井口 義春 大場 啓子	森 照生	白井 満
大沢	吉澤 紀元				榎本 幸和	榎本甲子男	岩野 豊	高橋 為麿
田名	江成 護	江成 正男	八木 一男	成井 勇	篠崎 武博	田所 忍	篠崎 重雄	江成 好彦
上溝	佐藤 信清	宮岡 章憲	金子 輝司	佐藤 孝	永山 一雄	吉田 稔	山口 直彦	関田 俊明
麻溝	小山 昌行 本多 春雄	内田 明	仲川 邦廣	萩原 忠男	時崎 孝 中林 光久	白井 浩	福田 弘夫	座間 秀行
新磯	川崎 勝重 高橋 克己	織田 保次 鈴木 俊勝	竹村 友雄	井手 幹夫	中村 一敏 會田 彰	中澤 昇 幟川 泰夫	川邊 伸一	加藤 金喜
相模台	坂本 堯則 北島 亨	森 芳夫	粟飯原史憲	高橋 隆昭	柘田 貞明 萩原 政伸	浅川 幸次	尾崎 覺光	近藤 健二
相武台	白井 信男 福田 貞夫	梶 春清	大貫 真弓	渡邊 圭子	板垣真美子 小山多佳子	佐藤 豊 村上 文康	金子 良昭	井草 征司
東林	足立真佐子	若松 清吾	丸川 欣一	山田 重知	篠崎 正信	増尾 嘉之	小西 泰之	大原 武光
城山					水戸 隆	八木 祥次	小俣 政満	平井 薫
津久井	小野沢信昭 狩野 泉 小室 光夫	長島 喜六 鮑子 正 山崎 清	川井 哲 綱川 始	内田 淑子 川口 義文	濱田 強志 鈴木 秀雄	浅井 義久	小川 政春	門倉 舜三
相模湖	村上 隼次 坂本 重光	石川 幸夫	文入 健一	神保 昭一	佐藤 泉 石井 孝之	中島 照善 神保 勲夫	榎本 利光	青木 齊
藤野	岩崎 三雄 末永 義徳	松田 岩寛 佐藤 治男	石井 清 佐藤 英雄	松尾 征治	朝岡 清八 杉本 壯一	安田 良夫 佐藤 和男	坂下 稔 大河原頼忠	佐藤 和忠

年度 地区	平成23年	平成24年
小山	関口 邦夫 原田 憲一 長谷川甲子 野口久美子	藤野 英樹 内藤 末松 本間 充 大畑 誠司
清新	野田 久 荻原 敬三 田村 裕 斎木 武雄	山中 森勝 丸岡 啓治 柳瀬 一路 船田 慎子
横山	市川 朋宏	原田 眞澄 櫻井 勝正 長谷川広実
中央	金丸 豊文 牛尾 良一 水谷 久子 大沼 敏男 中島 肇子 渡邊 博	矢光 喜則 東使 敏二 平山 彰 佐藤 三郎 梶谷 光男 今井与四郎
星が丘	大村 正夫 山崎 安則	伊藤 栄作
光が丘	野口 道生 阪本 敏彦 大岩 正和 石原 均 堀之内幸廣	阿部 明博 中禮 和海 阿部 俊夫 鈴木 勝雄 川畑 旭
橋本	鈴木 利治 川口 勝也 松永 修一 井上 和洋 山崎 孝介 武田 忠清 阿部 忠夫	高橋 健男 吉岡 知彦 三木 孝夫 渡邊 慎一 細谷 一郎 佐々木文雄 大野 良三 近藤 直禧 原 正昭
大野北	西澤 章 天野 賢治 岩下 光男 小川 亶 岡野 敦夫 森下 正 渡邊 重治	石田 恭一 野崎 伸吾 矢口 芳昭 鎌田淳一郎 田村 明夫 小松崎眞一 鈴木 進
大野中	新井 崇夫 渡辺 俊治 北村 司 大坪 幸成 小池 馨 羽染 雄右 伊藤 英男	齊藤 利幸 樺澤 嘉博 渡邊 泰 村井 巖 小方 實 木村 信吉 土田 裕之
大野南	阿部 吉男 荒木 一英 榎本 勲 鎌田 裕康 加藤 隆一 阿部 義宏	齊藤 信行 青木 豊 加賀トモコ 川崎房二郎 伊東 正一 古谷 千工 菅井 武伯
大沢	高橋 岩茂	菅原 作治 安西 末男 榎本 眞一 榎本 保夫 杵淵 富治
田名	内山 健一 金井 利明 宮崎 俊輔 江成 欣司	木下 國博 榎本 茂正 田上 明 金井 勝男
上溝	高橋 功 須賀 仲男 紙透 七藏 石井 孝	田中 一夫 三代 宏次 井上 廣二 山口 隆夫
麻溝	辻 義春 石原 武 井上 國雄 座間 邦男	井上 元義 岸 惣司 長谷川秀行 大場 信之 木元 正秀
新磯	小原 徹浩 小島 一之 太田 明 井沢 元 丸塚 正眞	野頭 重一 飯田 博 佐宗 賢己 宮川 直丈 安藤 義三
相模台	篠塚実希子 今野豊日子 大澤美弥子 九嶋由五郎 荻野 岩雄 加藤 敏郎	堀越 義男 中村 明 花坂 弘子 佐藤 晃 高山 雅道 山後 辰夫 山口 俊一 溝呂木敏昭
相武台	長屋 康 堀 千代治 小俣 博由 小谷紘一郎 大久保昌生	曾山 正人 八田 邦夫 田近 宝蔵 香川 幸子 饒田美由紀 上甲 正史
東林	高木 秀享 大石 方哉 高原 和男 深澤 一彰	嘉松 皓 黒川 康弘 大紺 正昭 秋山 季猷 寺澤 高志
城山	鈴木 道也 中戸川敏彦 八木 球貴 木村 郷水	金子 肇 山下 利麿 齋藤 弘文 神藤 正一
津久井	大塚 利之 森 道明 落合 勝司 片倉 正美 杉本 恵司	脇本 享助 吉田 孟 有田 哲夫 小澤 研二 小澤登己夫 小河原祐二
相模湖	倉田 榮二 清水 恰 岸 厚夫 神保 一夫 石井 吉彦	中村 一男 江藤 雅文 永井 宏一 岩田 勝彦 江藤 博之
藤野	多村 武雄 鈴木 實 和智 正之 杉本 信一 石井 誠治	大塚 章 田村 明雄 福西 暁 野崎 隆 小俣 佳平 清水 洋

年度 地区	平成25年				平成26年			
小山	井上 喜正	大嶋 幸夫	柘植野勝利	鈴木 靖弘	池上 稔	原 静男	笹本 貴	水谷 武夫
清新	山本 正巳	小山 征一	池田 弘幸	伊藤 照夫	高橋 武通	齋藤 孝一	塚田 清治	山本 直高
横山	松重 敏昭	青野 信夫	内山 眞弓	山田 延行	関 文治	茅 祐司		
中央	井之上 久 中村 時男	鈴木 泰信 大蔵 和枝	佐藤 賢一	山田 章	大槻 克男 河本喜美夫	渡辺 民夫 加藤 征雄	杉田 進	田加井建治
星が丘	高橋 進							
光が丘	高橋 利昌 渡辺 靖久	宮崎雄一郎	永井 守夫	佐々木孝之	水沢 公人 割柏 秀規	坂巻 克正	馬場 吉博	南 雄二
橋本	中山 修二 加藤 勉	木下 一男 大熊 一善	大貫 薫 鈴木 和正	田野倉義信 黒瀬 博行	田中 忠男 成瀬 忠 尾形 光衛	井河 涉二 林 久男	佐藤 順一 上原 正夫	小山 隆穂 大谷 教明
大野北	佐々木 裕 熊田 誠 高木 喜秋	岡田 実 今野 良吉	平本 忠一 原田 俊章	林 知治 志儀 忠輔	木村 健二 飯田 秀雄	田中 邦一 鈴木 隆治	大津 正夫 一之瀬勇志	平井 重夫
大野中	橋本 隆弘 綱島 清孝	内藤サツ子 寺田 喜重	畔上 清 塚田 憲治	門倉 太一 成嶋 淳介	村上 省三 谷 實	平石 正美 大久保正美	守屋 副光 浅川 芳郎	森村ます美 海老沼正二
大野南	山田 潤 長谷川妙子	坂本 博彦	山田 宏治	関口 潔	大河内勇治 廣川宇禰見	和田 朗子 渋谷 哲造	井上 俊子 庄子 義人	大西 智子
大沢	加藤 重忠 萩原 保富	八木 忠雄	佐藤 金男	榎本 通夫	高山ひとみ	大塚真知子	笹野 嘉男	榎本 稔
田名	金子 弘	田所 文男	兼本 英壽		山田 晶一	榎本 義雄	篠崎 脩一	江成 郁夫
上溝	小野 弘行	後藤 一喜	後藤 博	石井 恭明	長谷川光義 本庄 岑生	小林 充明 新田恭一郎	村内 常男	熊坂 永治
麻溝	横田 廣司 井上 宗明	井上 政治 座間 要一	佐藤 文雄	三浦 茂	石井 正彦 大沼 和正	宮寺 安弘 小泉 勉	座間 進	唐木田正富
新磯	角田 勝治 安藤 信男	菅沼 末一	北倉 英夫	渡辺 晴雄	三橋 義昭 加藤 猛	嘉戸 正信	山下 暎之	阿部 文高
相模台	野村 隆 渋谷 一之	久保田 稔 福士 尊義	高城 康之 保坂 俊彦	園田 眞夫 千葉 元一	岡田 一美 菅野 豊	小川 政義 佐藤千代子	菊永 千博	御前 夏樹
相武台	吉光寺敏男 奥野 智	高岡 昭	佐々木久美	富塚 政男	池田 邦利 瀬尾 守一	竹内 一三	松嶋 保和	佐々木正雄
東林	中 勝利 岡田 洋守	福島 康人	安井 滋	戸崎 憲弘	中島 惟清 定行 秀高	多田 和夫	関 一雄	井上 孝彦
城山	及川 光男	齊藤 正夫	小林 安昭	小泉 好明	安田 光義	嶋崎 久	田野倉 肇	小峯咲木子
津久井	佐藤 誠 佐々木博光	八木 猛 矢口 敏雄	武内 良次	小島 忠男	永井 昇 門倉 豊	西川 徹 菊地原 勉	三樹 薫 長谷川新作	江口 稔 高井 茂
相模湖	福島 福生 長谷川 兌	保坂三千男	岡本 一宏	文入 幸重	榎本 英治 神保 眞吾	夏苅 睦夫	中里 正巳	小川 道雄
藤野	佐々木道他 永井 基朗	土谷 哲宣 檜島 泰治	西山 茂夫	大村 豊	松岡 宏幸 泉澤 滋	鈴木 康次 田村 始	加藤 和美	石橋 了知

年度 地区	平成27年	平成28年
小山	渡 静夫 井出 勝美	丸山 誠一 小野寺時男 山崎 実
清新	早川 久子 佐久間貴之 成田 文雄 横尾 幸男	伊藤 邦男 大山 孝 原田 勝 黒須 義人
横山	佐藤 重明 羽深シツカ 和田 隆治	田中 直貴
中央	梅木 駿 斎藤 利秋 小林 満 石田 健二 榎本 茂 佐藤 慶次	根岸 泰子 小俣 誠一 中村 隆 下ノ村征五 守屋 守 鳥海 千秋
星が丘	長岡 義弘 埼玉 勲 杉崎 繁和	新田 隆 金ヶ江 實 佐藤藤寿治
光が丘	茅野 徳幸 山田 晴子 山本 憲子 黒田 信雄 大野恵美子	安藤 順夫 山澤 忠治 和田 州治 菊池 直人
橋本	熊谷 一明 阿部 嗣嘉 蛭川 新一 藤田 耕司 小山 禎一 樋口 志良 霧生 隆 勝野 兵武 原 保	飛田 貞夫 小堺 浩 森田 喜昭 根本 一男 岡本 民江 三井 明好 原 登 長堀 知恵 原 英夫 霧生 俊行 原 清 佐藤 久
大野北	長嶋 悦子 河本 茂 石井 禄郎 稲富 義彦 福原 昭 原田 博行 石川 裕行 土田 隆一	小山 勉 井上 賢一 小峰 文夫 杉岡 彰仁 川島良太郎 中込 良雄 黒田 久也 安藤 茂 濱野麻利子
大野中	太田 健一 齋藤 貴穂 石田三枝子 田中 均 穴戸 研二 片桐 雄三 金丸 國奉	廣邊 進 平野 大介 西村 友男 渡邊 正次 笹津 征夫 村山 貞夫 荒川 長士 遠藤 浩
大野南	石井 謹爾 吉澤 和世 田中美奈子 前野 文次 藤木 廣 山野邊レイ子	丸田 和彦 松下 和禄 石崎 幹枝 大塚 昌宏 大塚 康子 鈴木やよい 渡邊 満弘
大沢	原 正八 中山 光明 萩原由紀夫 萩原 森弘	草野 拓三 村田 修
田名	田所 直久 白井 眞 大谷 健一 宮崎 孝行	田所 恒男 金井 晴雄 樋口 成美 小川 政明
上溝	熊坂 光雄 井上 栄一 大塚 宏治 門倉 正 八木 稔	土方 明 根岸 利昌 門倉 憲雅 本庄 岑生
麻溝	福田 健二 里中 正一 井上 行夫 錦織 芳之 江成 博 座間 幹夫	座間富治男 小泉 喜義 境 勉 座間 澄雄
新磯	白井 道子 白井 京子 宮澤 正詔 小倉 收 戸塚 照幸 穂苅 健二	吉田 仲男 齋藤 祐吉 鈴木 真司 川島 茂 三膳 節勝
相模台	大塚 武彦 轟 征生 白崎 善一 平 武司 飯田 利宇 島野 満人 長澤 正孝 荒井 功	荒井 未治 高久 登 橋原 久 鳥飼 政雄 太田 瑛子 田邊 敏夫 藤村 光 田澤 京子 松浦 毅
相武台	保土沢忠志	宮本 憲雄 五野 忠男 佐藤 武彦 高橋 文子
東林	江澤 一郎 黒子 信雄 前田紘一郎 松井 昭治 鈴木 了子	古木 昇 齋藤 三雄 安田 正貴 加藤毅久雄 齋藤 良幸
城山	八木 健一 柴田 芳雄 中里 伸良 告 幹生	矢島 義明 三角 哲嗣 大参 正人 中野 秀人 大田 和義
津久井	成瀬 博 歌田 吉生 小室 誠 清水 績 根岸 隆 荒井 謙次 和智 進 敦岡 祖雄	関戸 益男 小林 明夫 永井 義信 下園 克秀 井上 一豊 角田 栄次 榎本 拓司 廣瀬 市郎
相模湖	森久保眞二 田中 勇夫 久島 計司 久保 芳夫 善財 宣佳	鈴木 光雄 岡本 貢 山口 義丈 岩田 正 稲垣 伸吾
藤野	中村 進 中村 弘幸 河内 正道 梶原 春美 小池 里 小林 満	加藤 泰男 藤本 継雄 林 一郎 神田 正春

年度 地区	平成29年	平成30年
小山	堀田 重光 中田 和彦	遠藤 秀雄 大久保武彦 秋和由紀雄
清新	柴田 文夫 矢吹 和男 本田 充樹 丹波 晴道	平本 博己 高橋 栄 志村 孝一 和田 邦彦
横山		佐藤 公仁 富永 芳文
中央	柏 信 大河内誠次 石垣 健 加川 純一 菅澤 安師 田坂 正子 江原 民義	島村 春男 高橋 征彦 熊沢 憲一 半田 明善 北畑 晃喜 田村 一允
星が丘	高橋 清 長塚勇一郎 齋藤 敬	雑賀 公一 岡本 浩三 佐々木一男
光が丘	安藤 浩秋 深瀬 博司 駒村 秀則 青木 進一 錦織 伸一	菅野 春雄 鈴木 一男 弦切 宏弐 衛藤 美幸 北川 達也
橋本	橋本 勝 米澤 弘二 稻田 隆 鈴木 勇 加藤 厚 石井 光和 鈴木 進 小西 正敏	田中 康義 植木 誠 徳増 孝一 松田 豊 八木 時雄 猪山 三郎 石原 敬三
大野北	宮崎 幸男 金井 敏恵 松木 和枝 石井 信行 五十嵐 啓 大石 清 小林 良則 鈴木 邦宏 橋本 満	平本 嘉重 荒井 昭 平本 真琴 山内 祥司 鈴木 勲 小堀 重夫 矢口恵美子
大野中	村越あゆみ 古川 康幸 中嶋 秋次 細谷 勝利 中島 英一 中村 久江 田中 勝二	川手 稔 吉澤 利雄 眞武 順造 小林 輝男 高木 康治 中山 紘治 沼澤 昇
大野南	嶋野 龍平 清水 義晴 大野 晃一 片岡 紘一 里見 鐵夫 渋谷 和美 榎本 勲	松岡 千春 川上 清茂 小泉 正幸 長谷川 弘 安部 進 小澤 清志 麻中 繁和
大沢	山崎 弘 島田 辰夫 内山 繁多	宮崎 泰男
田名	大谷 政道 松上 秀一 江成 洋 木島 保壽	松川 眞三 安久脩一郎 関屋真由美 土屋 貴保
上溝	門倉 輝二 石原 秀雄 倉橋 強治 石森 隆男	高橋 幸一 松本 輝久 土田 榮二 山崎 久視
麻溝	政木 清 伊藤 英見 江成 博 遠藤 文雄 福田 実	吉田 健治 井上 芳英 中島 勝平 久野 良行 白井 好文
新磯	吉田 武志 米田 勝 宮川 好伸 川崎喜代治 中村 大義	相原 研一 根間 清典 黒滝 照雄 川崎 滋 梅沢 忠勝
相模台	岡 卓 神田 修 古川 正修 前田 誠一 小汲 信道 白田 行代 荒井誠一郎 鈴木トキ子 生野 幸子	深澤 知己 鈴木 敏司 松村 守 岡嶋 壯夫 坂本 啓子 高橋 勝彌 梅津 好枝 江口 秀樹 高橋 渡 有賀 宏行 河村喜久盛 荒川 次郎
相武台	鳴島 昇 宮永 公一 藤内 和子	本郷 正宏 常本 兼二 村松 幸子 江川 俊昭 中林満里子 武田 清之
東林	藏元 義弘 藤平 昭 吉原 幹生 吉村 建志 加藤 治雄	千葉 榮子 兼松 剛 田村 久司 酒井 光政 相場 宏章
城山	小室 博 安田 修 八木 隆子 鈴木 史郎	御手洗多喜男 齋藤 信夫 成瀬 貞司 高城 勇
津久井	平本 武夫 西丸三千則 八木 利夫 林 隆 仙頭 武文 武内 進 熊谷 弘 栞谷 泰之	井上 勇 井上 誠 永井 教明 佐藤 満博 落合 晃 大野 顯 古川 雅弘 畠山 直継
相模湖	清水 恒典 山下 廣昭 長谷川澄夫 榎本 昭雄 石井 冬樹	中里 敏哉 永井 憲一 松岡 眞二 小野澤明英 森久保高弘
藤野	鈴木 博 大平二三男 東 眞司 森久保利夫 阿部 紀元 佐藤 隆秀 井上 一郎	長田 丈夫 大塚 秀章 長田 米二 野崎 好夫 清水 英文 杉本 孝行

市連地域活動功労者（団体）

平成二十一年	<p>(清 新) 自治会法人小山二丁目自治会 (大野中) 自治会法人西一自治会 (大野南) 相模大野一丁目自治会 (田 名) 田名団地自治会 (上 溝) 自治会法人田中自治会 (相模台) みよし自治会 (藤野町) 和田自治会</p>	平成二十六年	<p>(中 央) 矢部第二自治会 (光が丘) 虹ヶ丘自主（独立）防災隊 (橋 本) 西橋本四丁目自治会 (大野北) 上矢部団地自治会 (麻 溝) 上中丸自治会 (新 磯) 勝坂囃子保存会 (相武台) 自治会法人相武台団地連合自治会・広報部 (城 山) 自治会法人谷ヶ原自治会 (相模湖) 上町自治会</p>
平成二十二年	<p>(中 央) 東第三自治会 (星が丘) 横山南部3・5丁目自治会 (光が丘) 青葉1丁目自主防災隊 (橋 本) 橋本二丁目自治会 (大野北) 自治会法人東嶽之内自治会 (麻 溝) 大橋自治会 (新 磯) 上磯部囃子保存会 (城 山) 原宿自治会</p> <p>相模原市印刷広告協同組合 相模原事務用品協同組合 相模原市商店連合会 相模原資源回収事業協会</p>	平成二十七年	<p>(清 新) 南橋本第二寿会 (横 山) 日金沢丘自治会下校児童見守り隊 (大野中) 古淵むつみ自治会 (大野南) 鶴の原自治会 (上 溝) 豊原自治会 (相模台) 自治会法人御園南自治会 (東 林) 自治会法人翠ヶ丘自治会自主防災隊 (津久井) 大堀自治会 (藤 野) なぐら談会</p>
平成二十三年	<p>(清 新) 清新4丁目自治会 (大野中) 新淵第二自治会 (大野南) 自治会法人中和田自治会 (田 名) 田名自治会連合婦人会 (上 溝) 自治会法人番田諏訪面 (相模台) 青葉自治会 (津久井) 自治会法人新宿 (藤 野) 奈良本自治会</p>	平成二十八年	<p>(中 央) 相生自治会見守り隊 (星が丘) 横山公園体操の会 (光が丘) 陽光台5丁目防災隊 (橋 本) 東橋本第二自治会 (大野北) 自治会法人ニュー相模 (麻 溝) 芹沢自治会 (新 磯) JA相模原市女性会新磯支部 (城 山) 自治会法人若葉台自治会 (相模湖) 小原自治会</p>
平成二十四年	<p>(中 央) 中央三丁目自治会 (星が丘) 星が丘一丁目自治会 (光が丘) 緑が丘二丁目自主防災隊 (橋 本) 小山寿町自治会 (大野北) 淵野辺一丁目自治会 (麻 溝) 西堀自治会 (新 磯) 下磯部囃子保存会 (相武台) 相武台グリーンパーク自治会連合会 (城 山) 自治会法人中沢自治会 (相模湖) 阿津自治会</p>	平成二十九年	<p>(清 新) 相模線桜並木保存実行委員会 (横 山) 加藤原自治会自主防犯パトロール隊 (大野中) 西大沼中央自治会 (大野南) 自治会法人豊町自治会 (上 溝) 鳩川自治会 (相模台) 豊原自治会 (津久井) 長竹災害時支援隊 (藤 野) 和田跡取り会</p>
平成二十五年	<p>(清 新) 中央1丁目自治会 (横 山) 小町通自治会自主防災隊 (大野中) 小沼自治会 (上 溝) 石住自治会 (相模台) 振興自治会 (津久井) 長竹自治会 (藤 野) 栃谷自治会</p>	平成三十年	<p>(中 央) 富栄町自治会 (星が丘) すずかけOB会「こだま」 (光が丘) 緑が丘一丁目自主防災隊 (橋 本) 自治会法人橋本仲町自治会 (大野北) 自治会法人淵野辺自治会自主防災隊 (大 沢) ラジオ体操のまち大沢運営協議会 (麻 溝) さいこが丘自治会 (新 磯) 相模原市磯部民俗資料保存会 (城 山) 葉山島自治会 (相模湖) 若柳自治会</p>

自治会活動功労者感謝状（市長感謝状）受賞者

年度 地区	平成21年	平成22年
小山	井上 和春 高橋 正明	赤松 徹
清新	田代 明寛 松井 隆 本所 要	濱田 昌夫 山口 明
横山	延 昭徳	市川 朋宏
中央	篠宮 厚喜	
星が丘		横田 智治
光が丘	門倉 茂	畠山 清一
橋本	小倉 慎也 久保埜誠一 草野 寛 渡辺 照雄 倉橋 美明 大前 六平 島田 貞雄	渡邊 高良 原 清 大谷 教明 成瀬 忠
大野北	河本 陽一 赤坂 善三	木曾弥三郎 山口 信郎 島野 一朗 志田 紀子 小松 信夫 高橋 作治 守屋 榮一 齋藤 健吉
大野中	野山 高憲 福田 浩 藤原 龍考 阿部 榮一 松村 嘉之 本谷 緑 嶋野 和人	細谷 省吾 伊藤 勝昭
大野南	薄井 大二 廣田 上司 庄子 義人 渋谷 哲造 寺澤 縫子 久間 重治	辻本 昭 大野喜久子 平井 芳治 小佐川 明 井口 義春 佐藤 勝 森 照生 松崎 正
大沢	西村登起子	
田名	田所 昌訓	
上溝	佐藤 信清 宮岡 章憲 金子 輝司 佐藤 孝	
麻溝	座間 省次 小泉 隆男 井上 宗信 熊耳 尚己 萩原 正 志村 英明 土屋 清	岩瀬 稔美 内田 由久 榎本 喜尉 齋藤 勇 田邊 輝夫 萩原 忠男 山本 文夫
新磯		
相模台	藤井 春三	坂本 堯則 森 芳夫 栗飯原史憲 北島 亨 高橋 隆昭 鈴木 博雄
相武台	高橋 孝雄 天野 亮一 大久保昌生	
東林	金子 匡甫 富永 尚行 秀永 和久 栗原 光 中澤 秀樹 大久保輝男	火ノ川二三
城山		藤井 保 赤木 勤 中戸川敏彦 小俣 政満
津久井	上原 義男 松本 弘幸 古宮 國男 山内 勝二	小野沢信昭 長島 喜六
相模湖	神保 岩男 長谷川 貢 清水 恰 鈴木 光雄	石川 幸夫 石井 孝之 澤塚 正史
藤野	末永 義徳	富山 一三

年度 地区	平成23年	平成24年
小山	安藤 孝洋 森下 春夫 山田 昇一	中野 政雄 阿部 公作 宮田 幸男 内田 弘也
清新	野田 久 荻原 敬三 加藤 和夫 中里 博 武内 保	丸岡 啓治 山中 森勝
横山		内山 眞弓 山田 延行
中央		矢光 喜則 山尾 堯千 平山 彰 豊田 朗 田加井建治 大槻 克男
星が丘		
光が丘	板垣 保宏 大久保忠夫 森 信二	小倉 偉男
橋本	伊倉 正光 越智 士郎 宮川 誠 小倉 辰夫 関 欣人 金子 要 井上 和洋 黒瀬 博行 三枝壽美雄	遠藤 昌明 阿部 忠夫 梅澤 敏光 成瀬 洵 齊藤 國男 原 正昭 鈴木 和正
大野北	長崎 享司 石田 恭一 杉本 連治 久保 良夫 加藤 凱夫	佐々木 裕 加松 勝三 岩見 清一 高柳 健治 渡邊 重治
大野中	尾見 嘉正 山梨 薫	青木紀久義 荒井 匠子 岩鶴 光芳 岡部 欽至 宇佐美純夫 田代 穂積 澁谷 勇
大野南	瀧田 陽一 鎌田 裕康 榎本 勲 松本 勝幸 加藤 隆一 深澤 正次 市成 直治 阿部 義宏 長谷川郁子	阿部 吉男 齊藤 信行 菅井 武伯 加賀トモコ 青木 豊 阿部 学
大沢		八木 次夫
田名		志村 勝美
上溝	大木 壽一	
麻溝	時崎 孝 座間 英明 遠藤 正洋 山崎 恭治 井上 薫 中林 光久	猪熊 茂 仲川 邦廣 井上 國雄
新磯	小島 一之	
相模台	柘田 貞明 浅川 幸次 萩原 政伸	今野豊日子 加藤 敏郎 荻野 岩雄 九嶋由五郎 大澤美弥子 篠塚実希子
相武台	丸塚 幾男 小林 勉 安平 俊明	加藤 正宏 戸田 宏
東林	澤田 利満 丸川 欣一	荒川 二郎 篠崎 正信
城山	金子 肇	水戸 隆
津久井	向山 武	鮑子 正 落合 勝司
相模湖	坂本 重光 榎本 利光 小川 道雄	石井 吉彦
藤野	西田 力男 佐藤 和忠 山崎 光正	岩崎 三雄

年度 地区	平成25年	平成26年
小山	原田 憲一	平野 博美 加藤 茂昭
清新	山本 正巳 小山 征一 堀木 進	斎藤 孝一
横山	青木 利明 長谷川哲雄 茅 祐司	原田 眞澄
中央	小林 満 大沼 敏男 金丸 豊文 牛尾 良一 水谷 久子	鈴木 泰信 佐藤 三郎 井之上 久 東使 敏二
星が丘	笹野 賢司 成川 猛	
光が丘	坂元 猛 大塚 英夫 大岩 正和 石原 均	阿部 明博 阿部 俊夫 鈴木 勝雄
橋本	小泉 壽弘 原 幸雄 佐藤 利信 小倉 増三 中村 良平	山田 行雄
大野北	高橋 作治 田中 成吉 矢口 芳昭 渡邊萬喜雄 平本 忠一 石田 恭一 渡邊 勝彦 大塚 晴美	林 知治 今野 良吉 高木 喜秋 志儀 忠輔 田中 邦一 中戸川賢一 小川 亶
大野中	大坪 幸成 小田邊和宏 志村 徹 齋藤 幸恵	佐藤 重義 瀧原 利元 井上 貞夫
大野南	山田 潤 坂本 博彦 山田 宏治 関口 潔 長谷川妙子	井上 俊子 廣川宇宥見 吉澤 和世 石井 謹爾
大沢		
田名	金井 勝男	
上溝	小野 弘行	長谷川光義 小林 充明 村内 常男
麻溝	井上 元義 長谷川秀行 石原 武 大場 信之 木元 正秀	座間 要一 井上 政治 三浦 茂 芝崎 三次
新磯		山下 暎之 茅 正道
相模台	堀越 義男 中村 明 佐藤 晃 溝呂木敏昭 山後 辰夫 高山 雅道 山口 俊一	久保田 稔 野村 隆 高城 康之 渋谷 一之 福士 尊義 保坂 俊彦
相武台	佐々木久美 富塚 政男 奥野 智	池田 邦利
東林		阿部 匡秀
城山	山下 利磨 小泉 好明	安田 光義 嶋崎 久 田野倉 肇
津久井	矢口 敏雄 小澤 研二 小澤登己夫 脇本 享助 吉田 孟 有田 哲夫	高井 茂 鈴木 忠廣 川口 義文 武内 良次
相模湖	江藤 雅文	荒井 正次 長谷川 兌
藤野	大河原頼忠 佐藤 治男 野崎 隆	松岡 宏幸

年度 地区	平成27年	平成28年
小山		関口 邦夫 江口 基明
清新	中農 和廣	池田 弘幸 大山 孝
横山		小林 信治 佐藤 重明
中央	梅木 駿 梶谷 光男 大畑 勝義	山田 章 斎藤 利秋 佐藤 賢一
星が丘		中村 徹也 佐藤藤壽治
光が丘	中禮 和海 和田 秀幸 佐々木孝之	安藤 順夫
橋本	佐々木義和 渡邊 慎一 田野倉義信 熊谷 一明 大野 良三 大熊 一善	吉田 雅彦 加藤 勉 近藤 直禧 上原 正夫 原 登 霧生 隆 綿引 功 樋口 志良 佐藤 久
大野北	鈴木 進 石井 禄郎 飯田 秀雄 河本 茂 長嶋 悦子	小山 勉 土田 隆一 岡野 敦夫 河本 武夫 小松崎眞一
大野中	渡邊 光仁 川島 光子 畔上 清 細谷 肇 内藤サツ子 渡辺 俊治	内藤 隆光 皆川 茂 干川 竹治 村田 諭 高橋 健一 林 光一 小宮 玉男
大野南	前野 文次 栗石 亨 藤木 廣	渡邊 満弘 大塚 昌宏 田中美奈子 大塚 康子 松下 和禄
大沢		
田名	篠崎 脩一 田上 明	
上溝	熊坂 光雄 大塚 宏治 門倉 正	八木 稔 熊坂 永治
麻溝	小泉 勉 唐木田正富 大沼 和正 座間 進 宮寺 安弘	内田 明 里中 正一 井上 行夫 福田 健二 錦織 芳之 石井 正彦
新磯	内 泰弘 峯尾 正司	穂刈 健二
相模台	岡田 一美 鳥飼 政雄 梶原 久 荒井 未治 小川 政義 尾崎 覺光 高久 登	飯田 利宇 島野 満人 白崎 善一 平 武司 菊永 千博 荒井 功
相模台	松嶋 保和	瀬尾 守一
東林	嘉松 皓 黒川 康弘	戸崎 憲弘 秋山 季猷
城山		矢島 義明 田中 耕一 三角 哲嗣
津久井	三樹 薫 歌田 吉生 小河原祐二 八木 猛 西川 徹 小島 忠男 門倉 豊	清水 績 内田 淑子 角田 栄次 関戸 益男
相模湖	中里 正巳 倉田 榮二	田中 勇夫 森久保眞二
藤野	中村 弘幸 河内 正道 梶原 春美 小池 里 小林 満 清水 洋 石井 誠治	小野寺康雄 小俣 久人 佐藤 和男 神田 正春 林 一郎 楢島 泰治

年度 地区	平成29年	平成30年
小山	入谷 利郎 五十嵐秋夫 村西 弘明	丸山 誠一 堀田 重光
清新	早川 久子 山本 直高 伊藤 照夫	柴田 文夫 伊藤 邦男 志村 孝一
横山	櫻井 勝正 田口 優美	
中央	中村 時男 石田 健二 柏 信 中村 隆 石垣 健 渡邊 博	熊沢 憲一 高橋 征彦 小俣 誠一 下ノ村征五
星が丘	高橋 清	金ヶ江 實
光が丘	山澤 忠治 割柏 秀規 南 雄二	菅野 春雄 鈴木 一男
橋本	森田 喜昭 大貫 薫 三井 明好 加藤 厚 原 保 原 英夫	石井 光和 小西 正敏 霧生 幹夫
大野北	岡本 誠 杉岡 彰仁 佐藤 和雄 熊田 誠 大津 正夫 宮崎 幸男 井上 賢一 黒田 久也	平本 嘉重 松木 和枝 安藤 茂 金井 敏恵 石井 信行 原田 俊章
大野中	中村クミコ 細谷 君雄 太田 明 平野 大介 飯村 彰 篠田 成次 海老沼正二	平間 鶴松 大浦一人司 塚田 憲治 平本ひろみ 大久保宗俊
大野南	清水 義晴 大野 晃一 石崎 幹枝 里見 鐵夫 嶋野 龍平	小泉 正幸 麻中 繁和 松岡 千春 小澤 清志 安部 進 長谷川 弘 川上 清茂
大沢		中山 光明 内田 匠一 齊藤 末三
田名		江成 洋 松川 眞三 土屋 貴保
上溝	松下 利男 根岸 利昌 鈴木 勇次	高橋 幸一 松本 輝久
麻溝	小泉 喜義 境 勉 座間 澄雄 白石 武 岸 惣司	座間富治男 伊藤 英見 江成 博 井上 宗明 福田 実 座間 幹夫 遠藤 文雄
新磯	宮川 好伸	吉田 仲男 野頭 重一 米田 勝 鈴木 真司
相模台	長澤 正孝 太田 瑛子 田澤 京子 松崎 信彦 生野 幸子 藤村 光 佐藤千代子 松浦 毅	古川 正修 神田 修 荒井誠一郎 鈴木トキ子 岡 卓 白田 行代 小汲 信道 前田 誠一
相武台	保土沢忠志	宮本 憲雄
東林	佐川由美子 黒子 信雄 安井 滋	加藤毅久雄 千葉 榮子 小西 泰之 鈴木喜四郎 齋藤 良幸 井上 孝彦 大原 武光 藏元 義弘 中 勝利
城山	大参 正人	御手洗多喜男 中野 秀人 高城 勇
津久井	林 隆 下藪 克秀 小室 誠 廣瀬 市郎	榎本 拓司 和田 雅雄 落合 晃 敦岡 祖雄 永井 教明
相模湖	清水 恒典 石井 冬樹 久保 芳夫 岩田 正 山下 廣昭 長谷川澄夫	松岡 眞二 中里 敏哉 永井 憲一 小野澤明英
藤野	鈴木 博 東 眞司 井上 一郎	長田 丈夫 長田 米二 清水 英文 杉本 孝行

相模原市表彰受賞者（市政功勞個人）

平成二十一年	(小 山) 上野 義雄 (新 磯) 吉山 茂利 (相模湖) 長谷川亮司	(大野中) 矢沢 静雄 (相模台) 伊藤 俊洋	平成二十六年	(小 山) 内田 弘也 (横 山) 青木 利明 (橋 本) 安藤 和実 (橋 本) 高野 義宣 (大野北) 木村 健二 (大野南) 今泉 吉一 (東 林) 栗原 光 (藤 野) 山崎 光正	(小 山) 星 清次 (横 山) 松村 敬三 (橋 本) 草野 寛 (大野北) 石田 恭一 (大野南) 小佐川 明 (相武台) 吉光寺敏男 (津久井) 小野沢良雄
平成二十二年	(小 山) 武井 弘吉 (清 新) 久保田博夫 (星が丘) 坂本 洋三 (橋 本) 澤田 修治 (大野中) 北野 友一 (大野南) 川上 裕男 (新 磯) 山村 浩 (東 林) 野口 秀光 (津久井) 太田 勉	(小 山) 渡辺 久次 (横 山) 小林 茂裕 (橋 本) 栗田 優之 (橋 本) 鳥飼 俊憲 (大野中) 關根 直二 (麻 溝) 仙波 正男 (相模台) 大島 信直 (東 林) 山下 義幸	平成二十七年	(清 新) 田代 明寛 (光が丘) 門倉 茂 (橋 本) 島田 貞雄 (大野北) 佐々木 裕 (大野中) 高安 祥介 (上 溝) 小林 充明 (相模台) 若月 智 (津久井) 向山 武	(中 央) 東使 敏二 (光が丘) 田中 昌洋 (橋 本) 関 欣人 (大野中) 佐藤 重義 (田 名) 志村 勝美 (相模台) 今野豊日子 (城 山) 水戸 隆
平成二十三年	(小 山) 石井今朝太 (清 新) 武田 邦雄 (中 央) 山田 幸弘 (橋 本) 古川 俊夫 (大野北) 小林 洋 (大野北) 近藤 孝雄 (大野北) 藤原 長俊 (大野中) 今井眞理子 (田 名) 田所 昌訓 (相模台) 坂本 堯則 (東 林) 金子 匡甫 (城 山) 赤木 勤 (城 山) 藤井 保	(小 山) 竹下 惇 (中 央) 榎本 光男 (橋 本) 原 照司 (大野北) 岡本 正久 (大野北) 小松 信夫 (大野北) 篠崎 勇 (大野北) 吉田 隆 (大野南) 中村 洋子 (麻 溝) 中嶋 実 (相模台) 森 芳夫 (東 林) 富永 尚行 (城 山) 中戸川敏彦	平成二十八年	(小 山) 安藤 孝洋 (中 央) 山尾 堯千 (星が丘) 横田 智治 (光が丘) 板垣 保宏 (橋 本) 井河 涉二 (大野北) 加藤 凱夫 (大野中) 稻毛 一利 (大野南) 庄子 義人 (大 沢) 八木 次夫 (相模台) 齋藤 節子 (相武台) 高橋 孝雄 (城 山) 金子 肇 (相模湖) 澤塚 正史	(横 山) 茅 祐司 (星が丘) 笹野 賢司 (光が丘) 石原 均 (橋 本) 阿部 忠夫 (橋 本) 川口 勝也 (大野北) 渡邊 重治 (大野中) 田代 穂積 (大野南) 瀬戸 量平 (上 溝) 長谷川光義 (相模台) 柘田 貞明 (東 林) 中澤 秀樹 (相模湖) 坂本 重光 (藤 野) 小林 満
平成二十四年	(小 山) 高橋 満 (光が丘) 小淵 三郎 (橋 本) 越智 士郎 (大野中) 村田 充穂 (大野南) 中島 千尋 (相模台) 浅川 幸次 (相模台) 布川 武義	(横 山) 延 昭徳 (光が丘) 平林 清 (大野北) 山口 信郎 (大野中) 八木 忠吉 (新 磯) 岡田 茂利 (相模台) 澤田 豊	平成二十九年	(中 央) 梅木 駿 (橋 本) 綿引 功 (大野中) 伊藤 勝昭 (大野南) 薄井 大二 (東 林) 嘉松 皓	(中 央) 小林 満 (大野北) 平本 忠一 (大野中) 尾見 嘉正 (相模台) 中村 明
平成二十五年	(小 山) 高橋 正明 (小 山) 山田 昇一 (橋 本) 大前 六平 (大野北) 鈴木 京子 (大野南) 渡邊 浩行 (東 林) 岩瀧 裕 (相模湖) 石井 吉彦	(小 山) 森下 春夫 (中 央) 矢光 喜則 (大野北) 生越 直司 (大野南) 於本 公尋 (相模台) 篠塚実希子 (東 林) 須田 亮	平成三十年	(小 山) 高田 一美 (中 央) 大畑 勝義 (橋 本) 野崎 末治 (大野中) 澁谷 勇 (相模台) 平本 東郷 (相武台) 戸田 宏 (津久井) 落合 勝司 (相模湖) 中里 正巳	(中 央) 井之上 久 (光が丘) 阿部 俊夫 (大野北) 佐藤 和雄 (相模台) 渋谷 一之 (相武台) 加藤 正宏 (東 林) 黒川 康弘 (相模湖) 倉田 榮二

叙勲「旭日単光章」受章者

年 度	地 区	氏 名
平成28年度	大野南	有 泉 健 一
平成29年度	相模台	佐 藤 征四郎

市区町村において、長く地域に根ざした活動を行い、功労顕著な者であって特に叙勲することが適当と認められる満70歳以上の者。

受章者は勲章・褒章を着用し、配偶者同伴で天皇陛下に排謁します。

自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰

年 度	地 区	氏 名
平成25年度	大野南	有 泉 健 一
	星が丘	竹 田 幹 夫
平成26年度	相模台	佐 藤 征四郎
平成27年度	大野北	河 本 博
平成28年度	相模台	伊 藤 俊 洋
	相武台	佐 藤 あつ子
平成29年度	大野中	森 逸 雄
	星が丘	坂 本 洋 三
平成30年度	大野南	大 木 恵
	小 山	武 井 弘 吉

自治会、町内会等の地縁による団体の代表者として多年にわたり在職し、地域的な共同活動を通じて良好な地域社会の維持及び形成に顕著な功績があったと認められる方に対し、総務大臣が表彰します。

協賛のお礼

市自治会連合会創立50周年記念事業及び記念誌の発行にあたり、
本事業の趣旨にご賛同いただき、次の方々から協賛金を賜りました。

ご協賛いただいた方々に対し、当連合会より心から感謝申し上げますと
ともに、ご芳名を掲載させていただきます。

ご協力誠にありがとうございました。

協賛者ご芳名

社会福祉法人 相模福祉村 様

相模原市印刷広告協同組合 様

株式会社 日立コンサルティング 様

相模原市環境事業協同組合 様 (橋本地区)

株式会社 清和サービス 様 (橋本地区)

有限会社 綜信設備 様 (光が丘地区)

医療法人守成会 広瀬病院 様 (城山地区)

株式会社 アトリエヨシノ 様	(相模湖地区)
富士急行株式会社 様	(相模湖地区)
相模湖リゾート株式会社 様	(相模湖地区)
医療法人直源会 相模原南病院 様	(大野中地区)
株式会社 セレモア 相模原本社 様	(星が丘地区)
田所 昌訓 様	(田名地区)
中華料理 胡同 様	(相模台地区)
株式会社 成川電興 様	(星が丘地区)
NPO法人 ミハタ 様	(相武台地区)
山梨信用金庫 様	(相模湖地区・城山地区)
(相模湖支店 様 城山支店 様 相模原中央支店 様 津久井支店 様 橋本支店 様 藤野支店 様)	
株式会社 ECP 様	(藤野地区)
株式会社 スーパーアルプス 様	(城山地区)
武井 弘吉 様	(小山地区)
社会福祉法人 喜楽会 特別養護老人ホーム よもぎの里愛の丘 様	(麻溝地区)
自治会法人東林間自治会	(東林地区)

青根振興協議会 様	(津久井地区)	城山工業株式会社 様	(城山地区)
青山学院大学 様	(大野北地区)	城山商工会 様	(城山地区)
石井 今朝太 様	(小山地区)	セブンイレブン相模原宮之上店 様	
株式会社 伊藤典範 様	(大野中地区)		(城山地区)
株式会社 イノウエ 様	(津久井地区)	大信建設株式会社 様	(藤野地区)
オギノパン株式会社 様	(相模湖地区)	社会福祉法人泰政会	
株式会社カインズ カインズ城山店 様	(城山地区)	特別養護老人ホーム 泰政園 様	(清新地区)
		津久井観光協会 様	(津久井地区)
神奈川県石材株式会社 様	(相武台地区)	ツクイ・サンシャイン相模原 様	(清新地区)
神奈川県つくい農業協同組合 様	(津久井地区)	津久井商工会 様	(津久井地区)
神奈川県つくい農業協同組合 藤野支店 様	(藤野地区)	有限会社 鳥居原 様	(津久井地区)
		株式会社 永田屋 様	(中央地区)
株式会社 ギオン 様	(清新地区)	社会福祉法人 東の会 様	(横山地区)
光明学園相模原高等学校 様	(麻溝地区)	東林間商店街振興組合 様	(東林地区)
株式会社 コサカ 様	(城山地区)	藤野商工会 様	(藤野地区)
公益財団法人相模原市健康福祉財団		株式会社 文盛堂 様	(星が丘地区)
相模原看護専門学校 様	(相武台地区)	有限会社 マサハ 様	(大野中地区)
社会福祉法人 寿栄会		マナーハウス横山台 様	(横山地区)
特別養護老人ホーム 相模湖みどりの丘 様	(相模湖地区)	三井メモリアル株式会社 様	(星が丘地区)
学校法人至誠学園 相模ひまわり幼稚園 様	(大野中地区)	社会福祉法人 悠朋会 様	(星が丘地区)
		居酒屋 和さび 様	(光が丘地区)
さがみりハビリテーション病院 様	(横山地区)		
橋本地区自治会連合会	(橋本地区)	自治会法人相武台団地連合自治会	
大野中地区自治会連合会	(大野中地区)		(相武台地区)
大沢地区自治会連合会	(大沢地区)	自治会法人相武台前町内会自治会連合会	
相原連合自治会	(橋本地区)		(相武台地区)
上大島自治会	(大沢地区)	自治会法人田中自治会	(上溝地区)
上九沢西自治会	(大沢地区)	自治会法人常盤自治会	(大沢地区)
上鶴間自治会	(東林地区)	中の郷自治会	(大沢地区)
九沢自治会	(大沢地区)	橋本自治会連合会	(橋本地区)
グリーンヒル下九沢団地自治会	(大沢地区)	東林間コーポラスマンション自治会	
自治会法人古清水自治会	(大沢地区)		(東林地区)
相模大野ハイツ自治会	(東林地区)	自治会法人日金沢自治会	(上溝地区)
さがみ南自治会	(東林地区)	自治会法人本町自治会	(上溝地区)
自治会法人下九沢宮下自治会	(大沢地区)	自治会法人南自治会	(東林地区)
自治会法人松南自治会	(東林地区)	宮上連合自治会	(橋本地区)
神明平自治会	(大沢地区)	元町自治会	(上溝地区)
相武台グリーンパーク自治会連合会	(相武台地区)	ライフコア東林間アネックス自治会	
			(東林地区)
		自治会法人林間自治会	(東林地区)

相模原市自治会連合会

役員及び理事

会 長	坂 本 堯 則	(相模台)
副 会 長	草 野 寛	(橋 本)
〃	石 井 正 彦	(麻 溝)
〃	竹 田 幹 夫	(星が丘)
会 計	田 代 明 寛	(清 新)
監 事	森 逸 雄	(大野中)
〃	山 下 利 麿	(城 山)
理 事	石 井 今 朝 太	(小 山)
〃	吉 田 貴 亮	(横 山)
〃	牛 尾 良 一	(中 央)
〃	割 柏 秀 規	(光が丘)
〃	河 本 博	(大野北)
〃	大 木 惠	(大野南)
〃	中 山 光 明	(大 沢)
〃	志 村 勝 美	(田 名)
〃	小 林 充 明	(上 溝)
〃	穂 苺 健 二	(新 磯)
〃	瀬 尾 守 一	(相武台)
〃	嘉 松 皓	(東 林)
〃	落 合 勝 司	(津久井)
〃	森久保 眞 二	(相模湖)
〃	森 川 哲 郎	(藤 野)

総務部会

部 会 長	竹 田 幹 夫	(星が丘)
副 部 会 長	大 木 惠	(大野南)
〃	中 山 光 明	(大 沢)
〃	小 林 充 明	(上 溝)
〃	落 合 勝 司	(津久井)
部 会 員	大 参 正 人	(城 山)
〃	長谷川 兌	(相模湖)
〃	渡 静 夫	(小 山)
〃	高 須 輝 男	(横 山)
〃	山 口 信 郎	(大野北)
〃	細 谷 剛	(大野中)
〃	鳴 島 昇	(相武台)

編集後記

災害級の猛暑だった平成30年夏、年が明け暖冬と思っていたら寒波の影響で寒い日が続き、インフルエンザが大流行、二度かかる人もいと聞きました。

今後も春と秋がなくなった、所謂異常気象が異常でなくなる事を心配しています。

寒暖差の大きかったこの一年、関係者の多大なる協力を得て50周年記念誌を発行することができました。この記念誌が今後の自治会活動の参考になることを期待しています。

総務部会長 竹 田 幹 夫

市連のあゆみ 創立50周年記念誌

平成31年3月 発行

発行者 相模原市自治会連合会
会長 坂本 堯 則
相模原市富士見6-6-23 けやき会館内
電話 042(753)3419

編集者 相模原市自治会連合会
総務部会
部会長 竹田 幹 夫

印刷 相模原市印刷広告協同組合

